
第34回廃棄物資源循環学会研究発表会 参加案内

2023年9月11日(月)～13日(水) 大阪工業大学 大宮キャンパス

主催：一般社団法人廃棄物資源循環学会

後援：大阪府、大阪市、大阪工業大学

目次

- 第34回廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって
- 開催行事一覧
- 行事案内
 - 特別プログラム(一般公開・無料)
 - 国際シンポジウム・International Symposium(一般公開・無料)
 - 研究発表(口頭発表・ポスター発表)
 - 企画セッション
 - 市民展示・環境学習施設展示(一般公開・無料)
 - 市民フォーラム・環境学習フォーラム(一般公開・無料)
 - 協賛企業・団体等展示(一般公開・無料)
 - 施設見学会
 - 全国環境研協議会研究発表会
 - 意見交換会
- 参加申込方法
- 発表ガイドライン
- 協賛企業団体
- 会場へのアクセス・会場案内図
- タイムテーブル
- 実行委員会名簿

～ 注意事項 ～

開催形式について

- ・現地参加(配信のみ)で開催します(特別プログラムと国際シンポジウムではリモート発表あり)。

現地参加者の参加証について

- ・オンラインで参加申込(事前・通常)された方が現地参加される際は、登録サイトからダウンロード・印刷した参加証を必ずご持参ください。事前郵送しませんので、ご注意ください。ご持参の方は受付手続き不要です。
- ・受付付近にホルダーを用意しますので、会場内では参加証の着用をお願いします。

参加案内について

- ・研究発表会専用ページからのダウンロード(PDF ファイル)のみとなります。また、参加案内の情報は随時更新されますので、最新情報は専用ページにてご確認ください。

研究発表会専用ページ: <https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/>

電子版講演要旨・オンライン参加用 URL について

- ・講演要旨は研究発表会専用ページからのダウンロード(PDF)のみとなります。CD-ROM 版は作成せず、会場での印刷物の配布も行いません。
- ・オンラインで参加申込された方には、電子版講演要旨の閲覧パスワード及びオンライン参加用 URL をメールでお知らせします。
- ・現地にて参加登録される方には、当日受付時に電子版講演要旨の閲覧パスワード及びオンライン参加用 URL へのアクセス方法をお伝えします。(会場では大阪工業大学提供の無線 LAN に接続することができませんので、ご注意ください。)

緊急連絡先等について

- ・台風や地震等の緊急時における研究発表会開催の可否、開催形式の変更等については、上記の研究発表会専用ページにてお知らせします。
- ・緊急時においては、会場となる大阪工業大学への問い合わせは厳にお控えください。また、学会事務局への問い合わせもつながりにくくなるのが予想されますのでお控えください。

【連絡先】 廃棄物資源循環学会事務局:メール(jimu@jsmcwm.or.jp)または電話(03-3769-5099)

(できるかぎり、メールでお問い合わせください。)

新型コロナウイルス感染症対策について

第 34 回廃棄物資源循環学会研究発表会は、現地参加(配信あり)のハイブリッド形式で開催します。7/11(火)時点で、政府や大阪府、会場から行動要請は出されていません。会場となる大阪工業大学の構内における基本的感染対策(マスク着用、手指衛生、換気、「三つの密」の回避)については、ご自身の判断で実施してください。感染状況や政府・府・会場の対応方針は変化する可能性がありますので、研究発表会専用ページを随時ご参照いただきますようお願いいたします。

研究発表会(口頭発表)に関する注意事項

- 発表用スライドの提出・動作確認：(9月6日(水) 9:00~17:00)
 - 全ての口頭発表者におかれましては、発表用ファイルの事前提出にご協力ください。
 - ファイル形式は、.pptx (Microsoft Office 2019 で動作するもの) または.pdf としてください。
 - 発表者のメールアドレスに Zoom の URL をご案内します。指定された時間帯に URL にアクセスしてください。Zoom での表示名を「講演番号_氏名(所属)」としてください(例：A1-1-O_資源廃棄物(大阪工業大学))。
 - Zoom のチャット機能を用いて発表用ファイルを提出していただきます。担当者の指示に従い、発表用ファイルを提出してください。画面共有にて提出および動作確認の方法を説明します。
 - ご都合がつかない場合は、9/8(金) 17:00 までに下記メールアドレス宛に提出してください。
2023osaka.conf@gmail.com
件名は「発表用ファイル提出」としてください。
 - 発表当日の提出・差し替え及び動作確認には対応できない場合があります。

会場に関する注意事項

- 会場での無線 LAN 接続に関する注意事項
 - 会場では大阪工業大学提供の無線 LAN に接続することができませんので、ご注意ください。
 - 大阪工業大学では eduroam をご使用いただけます。ご所属の機関が eduroam に参加している場合、eduroam に接続するためのアカウントを事前に取得してください。参加機関一覧と接続方法は eduroam サイトでご確認いただけます。
https://www.eduroam.jp/for_users
- ごみは持ち帰りを基本とし、やむを得ず会場で捨てる場合には会場のごみの分別基準に従って適切に分別してください。また、ペットボトル等、プラスチック容器の使用削減にご協力ください。
- 発表会場内での立ち入り禁止区域について
 - 会場内では立ち入り禁止区域を設けていますので、緊急避難時を除き、立ち入らないようご協力をお願いします。
- 喫煙について
 - 会場となる大阪工業大学 大宮キャンパスの構内は全面禁煙となっています。ご協力をよろしくお願いいたします。

第 34 回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第 34 回 廃棄物資源循環学会研究発表会
実行委員会委員長
大阪工業大学 教授 渡辺 信久

学会は、情報交換の場であるとともに、「出会い」の場でもあります。それまで文献を通じて一方的に知っていた学者・技術者の発表を目の当たりにし、聴講後の「突撃」で、新しい境地を切り開くのです。「出会い」は、一堂に会する対面実施の最大の魅力であり、「コロナ明け」の2023年に、大阪に皆様をお招きできること、この上ない喜びであります。



第34回研究発表会は、これまでの関西での実施(第4回 大阪、第6回 神戸、第13回 京都、第19回 京都、第27回 和歌山)に続く6回目であり、大阪での大学では、ここ大阪工業大学での開催が最初となります。

研究発表総予定件数284件(口頭発表 197編、ポスター発表 87編)に加え、特別プログラム、国際シンポジウム、12の企画セッション、37の企業展示・10の市民主催展示・分解ワークショップ、3コースの見学ツアーも行います。今年の口頭およびポスター発表は、日本語と英語による発表とし、国際的相互理解の促進を図ります。英語でのエントリーは昨年の27件から48件と倍増しました。韓国廃棄物学会からの参加もありますから、会場でのハングルー英語-日本語での通訳を通じた議論も飛び出すものと期待しています(한국폐기물자원순환학회 회원여러분도 참석하기 때문에 행사장에서 한국어-영어-일본어 로 활발한 논의가 이루어질 것으로 기대합니다.)。

コロナ禍で培ったオンライン技術で、口頭発表を配信いたしますので、遠隔でのご参加もお待ちしております。国際シンポジウムではリモート発表も可能な仕様としております。

特別プログラムは「技術も心も最先端：プラスチックやごみ排出をとりまく最新動向」です。大阪万博の開催を意識したプログラムですが、皮肉にも、「技術ですべてを解決する」のではなく、再生可能・海洋プラ問題も絡んで、ここにきて、「こころ」すなわち意識・志向の重要性にあらためて気づく・・・そんなシナリオを思い描いています。配信します。

意見交換会では開催地・開催校ならではの特産品も用意しております。食の地：大阪ですから、ご期待に添えるものと自信を持っております。親交を温める場を提供できるよう、大阪を挙げて、歓迎申し上げます。

最後になりますが、本会は、実行委員会50名余りと、その母体である関西支部(本年で20周年となります)諸氏の尽力の賜物です。皆様にも、このことを、是非ともお知りおきいただきたく、文末に添えさせていただきました。

開催行事一覧

※ この行事予定は、7月11日時点のものであり、日時や会場は変更される可能性があります。研究発表会専用ページを随時ご確認いただきますようお願いします。

研究発表会専用ページ: <https://jsmewm.or.jp/taikai2023/>

行 事		日 時(すべて9月)	会 場 (大阪工業大学・大宮キャンパス)	備 考
特別プログラム		12日(火) 15:00~17:15	OIT ホール 現地開催、配信あり	一般公開・無料 参加登録不要
国際シンポジウム		11日(月) 午後(予定)	(会場 調整中) 現地開催、配信あり (一部、リモート発表)	一般公開・無料 使用言語: 英語
研究発表会 (※)	口頭発表	11日(月)、12日(火)	第1~7会場(3号館、10号館) 現地開催・配信あり	発表10分 +質疑応答5分
	ポスター発表	11日(月)、12日(火)	ポスター会場(3号館 2~4階) 現地開催のみ	
企画セッション		(調整中)	(調整中)	研究部会・若手の会
市民展示・ 環境学習施設展示		11日(月)~12日(火)(予定)	3号館 1階エントランスホール 現地開催のみ	一般公開・無料
企画フォーラム (市民フォーラム、 環境学習フォーラム)		11日(月) 午後(予定)	現地開催、配信あり	一般公開・無料
分解ワークショップ実演・ 体験		11日(月)、12日(火) 各 10:00~、13:30~、15:30~	10号館 5階 1005A 共同ゼミ室	要事前申込・無料
協賛企業・団体等展示		11日(月)~13日(水)	3号館 2階 現地開催	一般公開・無料
施設見学会		13日(水)	3コース	要事前申込・参加費
全国環境研協議会 研究発表会		13日(水) 午前(予定)		
意見交換会		12日(火) 18:00~20:00	研修センター5階・大会議室	要事前申込・参加費

※ 第34回研究発表会は、国際セッションはありません。

行事案内

特別プログラム 基調講演・パネルディスカッション

(一般公開・無料 ※一般参加者は要事前申込)

技術も心も最先端：プラスチックやごみ排出をとりまく最新動向

廃棄物の減量から資源の保全・確保あるいは環境の保全へと、3Rの位置づけもその重点が変化してきています。容器包装では、より高度な水平リサイクルや自主的な分別回収・再資源化、ロボットによる選別や容器の再使用、散乱ごみへの対応等の試み（技術・システム）が広がってきていますが、その基盤としての適切な分別排出・意識（心）も重要な要素となっています。事業者の技術・システムも消費者の排出マナー（心）もともに新しい段階に進化していく必要があります。本特別プログラムでは、プラスチックやごみ分別に関わる最新の事例を交えながらごみに関わる技術・システムと心の未来について議論します。

【日時】2023年9月12日（火） 15:00～17:15

【場所】大阪工業大学 大宮キャンパス OIT ホール

【実施形態】ハイブリッド（現地開催+オンライン配信）

一般参加者の皆様へ（事前登録のご案内）

一般参加者の皆様は下記サイトから9月8日（金）までに必ず事前登録をしてください。対面・オンラインいずれのご参加も受け付けます。研究発表会参加者の皆様は事前登録不要です。

<https://forms.gle/BkkGLzccDw9cjCtp8>

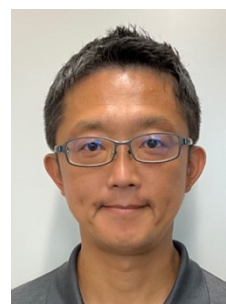
■基調講演(オンライン) 15:00～15:30

「関連する分野の政府としての取組(仮)」

近藤 亮太 氏（環境省）

〔講師紹介〕

1998年環境庁入庁。総合環境政策局、地球環境局、廃棄物・リサイクル対策部、中部地方環境事務所等に勤務したほか、原子力規制庁、警察庁、中間貯蔵・環境安全事業株式会社に出向。2023年7月より環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室長 兼 循環型社会推進室長。プラスチック資源循環、第5次循環型社会形成推進基本計画の策定、循環経済への移行等を担当。



■パネルディスカッション 15:40～17:15

《パネリスト》

宮本 健一 氏（花王株式会社）

「容器包装の減量・水平リサイクル(仮)」

中野 裕 氏（川崎重工業株式会社）

「容器包装のロボット選別(仮)」

鈴木 隆博 氏（イオン株式会社）

「容器の再使用(仮)」

益田 明奈 氏（株式会社ピリカ）

「SNS/ITを活用した散乱ごみ対策(仮)」

石村 雄一 氏（近畿大学）

「ごみ排出・分別に関する消費者の意識・行動(仮)」

《コーディネーター》

橋本 征二 氏（立命館大学）

●3RINCs Autumn●

廃棄物資源循環におけるDXの最新動向

**Latest Trends in DX (Digital Transformation) for Waste Management
and Circular Economy**

9月11日(月)13:00 – 15:00 ハイブリッド(第7会場およびZoomウェビナー)

September 11th (Mon) 13:00 – 15:00 (Japan time) #7 (Room1043) and Zoom webinar

このシンポジウムでは、デジタルトランスフォーメーション (DX) が廃棄物管理とリサイクルに与える影響や可能性について議論します。研究者が専門家や最新の知見や実践事例を共有し、新たな技術やイノベーションについても取り上げます。

We are pleased to announce the International Symposium on the Latest Trends in DX (Digital Transformation) for Waste Management and Circular Economy. This symposium aims to discuss the impact and potential of DX in waste management and recycling. Researchers and experts will share the latest insights and practical case studies, as well as explore new technologies and innovations.

使用言語 / Language: 英語 / English

講師と演題/ **Speakers and Topics (Tentative):**

加茂 徹 (早稲田大学)

Prof. Tohru KAMO, Waseda University

日本における情報技術を用いた有機資源の循環利用: 現状と課題

Recycling of Organic Resource using Information Technology in Japan: Current Status and Challenges

藤井 実 (国立環境研究所)

Dr. Minoru FUJII, National Institute for Environmental Studies

官民連携による廃棄物分野でのDXの推進

Promotion of DX on waste management and recycling through public-private partnerships

Mr. Dongmin SHIN, SK ecoplant Co. Ltd., Korea

Circular Economy with Digital Technology and Data

Prof. Dae-Woon JEONG, Changwon National University, Korea

Hydrogen Production from Organic Waste Using Reforming Reaction

Prof. Xianlai ZENG, Tsinghua University, China

Reshaping Global Policies for Circular Economy

Mr. Chum BOREY, LUMA SYSTEM CO., LTD. Cambodia

Bigdata for Managing Municipal Solid Waste

International symposium

★Free★

Latest Trends in DX (Digital Transformation) for Waste Management and Circular Economy

Sep 11th (Mon) 13:00 – 15:00 (Japanese time)
Onsite (Osaka, Japan) and online (Zoom)

This symposium aims to discuss the impact and potential of DX in waste management and recycling. Researchers and experts will share the latest insights and practical case studies, as well as explore new technologies and innovations.

Chair

Assoc.prof. Hirofumi NAKAYAMA, Kyushu University, & JSMCWM, Japan
Prof. Yong-Chul JANG, Chungnam National University, & KSWM, Korea



Opening address



Dr. Masahiro OSAKO, president of JSMCWM
National Institute for Environmental Studies, Japan
Prof. Jae Young KIM, President of KSWM
Seoul National University, Korea

Speakers and topics



Prof. Tohru KAMO, Waseda University, Japan
Recycling of Organic Resource using Information Technology in Japan: Current Status and Challenges

Dr. Minoru FUJII, National Institute for Environmental Studies, Japan
Promotion of DX on waste management and recycling through public-private partnerships



Mr. Dongmin SHIN, SK ecoplant Co. Ltd., Korea
Circular Economy with Digital Technology and Data

Prof. Dae-Woon JEONG, Changwon National University, Korea
Hydrogen production from organic waste using reforming reaction



Prof. Xianlai ZENG, Tsinghua University, China
Reshaping global policies for circular economy

Mr. Chum BOREY, LUMA System Co., Ltd., Cambodia
Bigdata for Managing Municipal Solid Waste



★Registration

<https://forms.gle/oTeAgu7DtWYrqV3D6>



Program (Oral presentations / Poster presentations)

197 oral presentations (27 in English and 170 in Japanese) and

87 poster presentations (19 in English and 68 in Japanese)

Note) Presentation ID in a box means the presentation in English.

Note) Poster sessions are held on Day 1 (Poster1) and Day 2 (Poster2).

Poster session Venue: 2nd, 3rd, and 4th floor in the 3rd Building
 Poster1: Sept 11 (Mon) 17:00 - 18:15 / Poster2: Sept 12 (Tue) 13:30 - 14:45

A1 Waste reduction/ Property analysis 【Sept 12 (Tue) 9:00–10:30 Venue#1】

Chair : Kohei Watanabe (Teikyo University) Co-chair : Yasuo Furusawa (Renewable Energy Institute)

	A1-1-O	(in Japanese) Understanding the Current State of Consumer Behaviours for Preventing Single-Use Plastics: Nationwide Realities and Acceptability through Awareness Campaign <i>Kyoto Prefectural University</i> ○Hajime Yamakawa	p.1
	A1-2-O	(in Japanese) Research on the actual state of discharge due to differences in the collection method of product plastics <i>Toyama Prefectural University</i> ○Takashi Saeki, Yudai Morita	p.3
	A1-3-O	(in Japanese) Feasibility and challenges of package-free sales of Japanese tea beverages <i>Kyoto Prefectural University</i> ○Natsumi Naba, Hajime Yamakawa	p.5
	A1-4-O	(in Japanese) Effects of Unit-Based Pricing on Municipal Solid Waste in Akita-City <i>Akita University</i> ○Hiroataka Kumamaru	p.7
	A1-5-O	(in Japanese) Scenario Analysis of Radioactively Contaminated Waste Management Options: Towards Final Disposal Outside Fukushima Prefecture <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Eriko Minari, Kasuo Yamada, Kazuto Endo, Masahiro Osako	p.9
	A1-6-O	(in Japanese) Basic research on littering and scattered litter collection activities: Part 1 <i>Environmental Control Center Co., Ltd.</i> ○Ayako Kaneko, Ryo Hasegawa, Takahiro Suzuki, Pirika, Inc. Yoshikazu Miwa, Megu Tsuchimura, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Rokuta Inaba, <i>Hokkaido University</i> Susumi Ohnuma, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Masahiro Osako	p.11
Poster1	A1-7-P	(in Japanese) Analysis of the Relationship between the Demand for Food Delivery and Takeaway Services and the Associated Plastic Packaging Waste during the COVID-19 Pandemic <i>Kobe University</i> Mai Imuro, ○Tomohiro Tabata	p.13
Poster2	A1-8-P	(in Japanese) Implementation of COVID-19 Infection Prevention Measures in Municipal Solid Waste Collection Services <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Masato Yamada, Tomonori Ishigaki, Kosuke Kawai, Ryo Tajima	p.15
Poster1	A1-9-P	(in Japanese) Investigation of microplastic emissions via wastewater from a plastic recycling facility <i>Kyoto University</i> ○Miyabi Tsunematsu, Kazuyuki Oshita, Kenji Shiota, Masaki Takaoka	p.17
Poster2	A1-10-P	A survey study on Odor-Causing Substances from Livestock Waste <i>Anyang University</i> ○Hyeonjun Cho, Jinseok Yeom, Minsung Kim, Suchul Yoon	p.19

A2 Waste reduction/ Material flow analysis 【Sept 12 (Tue) 10:45–12:15 Venue#1】

Chair : Hirofumi Nakayama (Kyushu University) Co-chair : Yasuhiro Hirai (Kyoto University)

	A2-1-O	(in Japanese) A study of the economic evaluation of water refill spots for reusable bottles using conjoint analysis <i>Osaka University of Commerce</i> ○Aoto Matsumoto, <i>Doshisha University</i> Sadao Harada	p.21
	A2-2-O	(in Japanese) A Study on Construction of Waste Paper Sorting Support System by Image Recognition Using Deep Learning <i>Kyushu University</i> ○Naoya Kojo, Takayuki Shimaoka, Yasuhiro Sugisaki	p.23
	A2-3-O	Waste generation and characterization by tourism sectors in Jeju Island <i>Chungnam National University</i> ○Hakyun Song, Yong-Chul Jang, Kyunghoon Choi, Byeonghwan Kim, Youngsun Kwon, Chonghee Lee	p.25
	A2-4-O	Waste Flow Analysis in Riverside Community: A Case Study of Kampung Melayu Subdistrict, Jakarta <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Aff Faiq Muhammad, Ryo Tajima	p.27
	A2-5-O	(in Japanese) Consideration of Methods for Estimating Waste Plastic Flow at the Municipal Level <i>NTT Data Institute of Management Consulting, Inc.</i> The University of Kitakyushu ○Shin Okubo, The University of Kitakyushu Toru Matsumoto, Atsushi Fujiyama	p.29
	A2-6-O	(in Japanese) Comparative study on survey methods for estimating the amount of plastic fishing gear discharged into the sea <i>Kyushu University</i> ○Fumiya Ishibashi, Hirofumi Nakayama, Satoko Seino, Takayuki Shimaoka	p.31
Poster1	A2-7-P	(in Japanese) Impact of awareness-raising campaigns on household waste generation <i>Gunma Prefectural Institute for Public Health and Environmental Sciences</i> ○Yoshinori Saitoh, <i>Kinki University</i> Yuichi Ishimura	p.33
Poster2	A2-8-P	(in Japanese) Basic Considerations for Establishing an Efficient Waste Sorting and Collection System in Business Facilities <i>Waseda University</i> Tianhao Cheng, ○Qinghan Liu, Daiki Kojima, Hiroshi Onoda	p.35

Poster1 A2-9-P (in Japanese) Estimation of Municipal Waste Plastics Flow in Hokkaido, Japan p.37
Hokkaido Research Organization ○Ken Asakura, Katsuyuki Yamaguchi, Hirohide Aga, Shinobu Niwa,
 Yoichiro Fukuda, Shinichiro Nagahora, Satoru Ono

A3 Public awareness/ Environmental education 【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#1】

Chair : Atsuko Hanashima (Osaka Sangyo University) Co-chair : Maiko Iwai (Hitachi Zosen)

A3-1-O (in Japanese) Examining the Impact of Others' Behavior on Individual Waste Reduction Practices p.39
Chuo University ○Mikiko Shinoki, *Yamagata University* Koji Abe

A3-2-O (in Japanese) The system of sorting recyclable waste with collaborative robots based in artificial intelligence and its environmental education p.41
Kawasaki Heavy Industry ○Miki Koyama, Yasutaka Honda, Hiroshi Nakano, Tsukasa Umemoto, Tadashi Katsuragi

A3-3-O (in Japanese) Impact of eco-mark and resource recycling information for plastic products on consumer behavior p.43
Ritsumeikan University ○Daisuke Tanaka, Sébastien M. R. Dente, Seiji Hashimoto

A3-4-O Content Analysis of Geopolymer Dissemination through Internet Video Sharing Platform p.45
Tokyo Institute of Technology ○Aura Amca Diputra, Fumitake Takahashi

A3-5-O Awareness of Athletes regarding Waste and Environmental Issues Brought about Sports p.47
Tokyo Institute of Technology ○Loren Chloe Balaoing, Naoya Abe

Poster2 A3-6-P (in Japanese) Campaing on food loss reduction by web-app for online broadcasting at food corner p.49
Okayama University ○Yasuhiro Matsui, *Okayama City* Ryota Inaba, *Daiei Kankyo Co., Ltd.* Haruna Takagawa

A4 Food loss and waste 【Sept 11 (Mon) 11:00–12:00 Venue#1】

Chair : Hajime Yamakawa (Kyoto Prefectural University) Co-chair : Yasuhiro Matsui (Okayama University)

A4-1-O Improving Food Loss Quantification in Milk Supply Chain: Case: Study in Japan and Mongolia p.51
Gakushuin University ○Erdenekhuu Unurjargal

A4-2-O (in Japanese) Research of Food Waste Reduction Using a Cloud-Based Automatic Weighing System: Effectiveness of Interventions Using Five Support Tools in Reducing Household Food Waste p.53
Kyoto Prefectural University ○Yasuko Seta, Hajime Yamakawa, *Taisho University* Tomoko Okayama,
Teikyo University Kohei Watanabe, *Tokyo University of Agriculture* Maki Nonomura

A4-3-O (in Japanese) Consumers' attitudes regarding leftovers at restaurants p.55
Taisho University Tomoko Okayama, Shu Nakamura, *Teikyo University* ○Kohei Watanabe

A4-4-O (in Japanese) Reducing Leftovers in University Cafeterias Using Nudges p.57
Taisho University ○Tomoko Okayama, Kaoru Homma

A5 Industrial waste 【Sept 11 (Mon) 13:30–15:00 Venue#1】

Chair : Shin Okubo (NTT Data Institute of Management Consulting) Co-chair : Yumi Matsuda (Takuma)

A5-1-O (in Japanese) Is the Bottom Mud of the Irrigation Pond Waste? Is it Sediment? p.59
AICO Co., Ltd. ○Minoru Tokita, *Tobishima Corporation* Masayuki Tsutsui,
AICO Co., Ltd. Takahiro Hirata, Jun-ichi Kojima,
Mud Recycling Association Shin-ichi Noguchi, Miho Nishikawa

A5-2-O (in Japanese) Study on the current status and issues of electronic manifest usage in industrial waste disposal businesses p.61
Japan Industrial Waste Information Center ○Motoki Sasaki, Hiroyoshi Fujiwara, Izumi Sasaki

A5-3-O (in Japanese) Implementation Status of Employee Training Programs on the Environment and Waste Treatment at Industrial Waste Generators p.63
Japan Industrial Waste Information Center ○Izumi Sasaki, Hiroyoshi Fujiwara, Motoki Sasaki

A5-4-O (in Japanese) Influence of Insulation Specifications on the Amount of Insulation Offcuts due to House Construction p.65
Shinshu University ○Taiju Ueno, Hideki Takamura

A5-5-O (in Japanese) Fixation of carbon dioxide from neutralization treatment of construction sludge p.67
Shibaura Institute of Technology ○Motoki Shiina, Koki Nakao, Shinya Inazumi,
Nozaki Kogyo Co. Ltd. Tetsuya Nozaki, Seiji Hayao, Hiroko Tsuchiya

A5-6-O (in Japanese) Applicability of waste glass cullet to the sand cushion of interlocking block pavement p.69
Osaka Institute of Technology ○Daiki Tateyama, Kazuaki Hioki,
Fujino Kogyo Co., Ltd. Koichi Yamamoto, Akira Nakaoka,
Kansai Geo and Environment Research Center Kenta Hattori

Poster1 A5-7-P (in Japanese) Study of the impact of end-of-life photovoltaic panels on the residual capacity of controlled-type landfill sites in Hokkaido, Japan p.71
Hokkaido Research Organization ○Yoichiro Fukuda, Ken Asakura, Katsuyuki Yamaguchi

B1 Waste management and planning (1) 【Sept 11 (Mon) 13:30–15:00 Venue#3】

Chair : Yasuo Horii (EX Research Institute) Co-chair : Hiroki Harada (Kyoto University)

B1-1-O (in Japanese) Study on incineration plant siting in urban area with a disaster prevention function 8 -Residents' consciousness survey around the Shibuya Incineration Plant adjacent to the downtown area- p.73
Nihon University ○Osamu Hashimoto, Katsuya Uozaki, Masaji Kaneshima,
Research Institute of Environmental Management, Administration and Maintenance of JAPAN Hiromi Mitsuhashi

B1-2-O	(in Japanese) Application of Mathematical Optimization to Waste Allocation among Waste-to-Energy Plants for Wide-Area Disposal <i>Kawasaki Heavy Industry</i> ○Yu Yamane, Kohei Hashimoto, Akihiro Kunimasa, Koya Takeda	p.75
B1-3-O	(in Japanese) Pit crane altitude automatic operation system implemented with optimum route search simulation <i>Mitsubishi Heavy Industries</i> ○Shinji Matsumoto, Shun Gunji, Nobuharu Iwashita, Toshihiko Setoguchi, <i>Mitsubishi Heavy Industries Environmental & Chemical Engineering</i> Katsuhiko Takahashi, Keiichi Hayashi, Yoshinori Terasawa, Tomomichi Egusa	p.77
B1-4-O	(in Japanese) Application of CO ₂ capture technology by solid sorbent to exhaust gas from refuse disposal facilities <i>Kawasaki Heavy Industry</i> ○Ryohei Numaguchi, Takeshi Okumura, Shohei Nishibe, Takahiro Yamaguchi, Norihiko Kumada, Toshifumi Nariai, Takuma Kikunaga, Munechiyo Iwamura, Koya Takeda	p.79
B1-5-O	(in Japanese) Environmental performance of waste incineration plants with biogasification and methanation <i>EX Research Institute Ltd.</i> ○Tomio Nishimura, Gaku Hashimoto, Katsuhiko Yoshikawa, <i>Osaka Gas Co., Ltd.</i> Shinya Akimoto, Jun Tsubota	p.81
B1-6-O	(in Japanese) Waste management systems recommended from landfill site <i>NPO Environmental Technical Support Network</i> ○Sotaro Higuchi	p.83
Poster2 B1-7-P	(in Japanese) Environmental and Economic Evaluation of Waste Management Systems Focus on Infrastructure Integration <i>Waseda University</i> ○Nan Huang, Akihisa Ogawa, Hiroshi Onoda	p.85

B2 Waste management and planning (2) 【Sept 11 (Mon) 15:15–16:45 Venue#3】
Chair : Kazuei Ishii (Hokkaido University) Co-chair : Norikazu Nishida (Mie Prefecture)

B2-1-O	(in Japanese) Case Study on Sewage Treatment Cost Reduction by Completely Closed Self-Oxidation Process including Rehabilitaiton Period <i>Toyama Prefectural University</i> ○Masafumi Tateda, Ryoko Sekifuji, <i>Shouei Consultant Ltd., Co.</i> Yoshiki Takabe, Masashi Watanabe	p.87
B2-2-O	(in Japanese) Study on an Optimal Matching Scheme for Plastic Waste Recycling based on Life Cycle Assessment <i>The University of Kitakyushu</i> ○Richao Cong, Atsushi Fujiyama, Toru Matsumoto	p.89
B2-3-O	(in Japanese) Evaluation of the paper circulation project using social return on investment and SDGs evaluation based on this evaluation <i>The University of Kitakyushu</i> ○Atsushi Fujiyama, Miho Nagamatsu, Toru Matsumoto	p.91
B2-4-O	(in Japanese) A prediction model of PET bottle and can collections by a recycling bin at public space <i>Tokyo Institute of Technology</i> ○Marina Wada, <i>KDDI Research</i> Masakuni Tsunazawa, Kouhei Sugiyama, <i>Tokyo Institute of Technology</i> Fumitake Takahashi	p.93
B2-5-O	(in Japanese) Analysis of the current status on information provision measures and support systems for source separation and discharge of household waste in municipalities in Hokkaido <i>Hokkaido University</i> ○Yui Kawahara, Kazuei Ishii, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham, Kunihiro Kishi	p.93
B2-6-O	Paddy Farmers' Perception of Solid Waste Compost as an Organic Fertilizer Supplement in Sri Lanka <i>Toyo University</i> ○Fernando Chamila Jeewanee, Aramaki Toshiya	p.97
Poster1 B2-7-P	A feasibility study on the utilization of tea and coffee waste as a raw material in compost production in the Khartoum state- Sudan <i>Toyo University</i> ○Rania Elsadig, Toshiya Aramaki	p.99
Poster2 B2-8-P	The Development of Urban Cleanliness Evaluation Indicators in A-City by The Analytic Hierarchy Process (AHP) <i>University of Seoul</i> ○Jeong-hyun Lee, Dong-kyu Park, Jai-young Lee	p.101

B3 Disaster waste management 【Sept 12 (Tue) 9:00–10:15 Venue#3】
Chair : Tomohiro Tabata (Kobe University) Co-chair : Ryo Tajima (National Institute for Environmental Studies)

B3-1-O	(in Japanese) Estimation of chemical emissions from business establishments including that of below-threshold in PRTR aiming chemically polluted disaster waste management plan <i>Osaka Metropolitan University</i> ○Ayumu Ikeda, Satoshi Mizutani, <i>Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture</i> Satoshi Nakamura	p.103
B3-2-O	(in Japanese) Inspection of near-infrared spectrum information acquisition method for waste composition estimation <i>Taisei Corporation</i> ○Kouzi Hashimoto, Ryohei Miyata, Hideya Ohkubo, <i>Pasco Corporation</i> Toshiaki Satoh, <i>Deep Sensing Initiatives, Inc.</i> Yukio Kosugi	p.105
B3-3-O	(in Japanese) Issues of public-private partnership for disaster wastes disposal at temporary Storage Site - A case study on Hiroshima city - <i>fukken Co., Ltd.</i> ○Takashi Mikami, Yukie Kiruu, <i>hshigen</i> Nobuo Masatou	p.107
B3-4-O	(in Japanese) Current situation of collaboration between local governments and residents for disaster waste preparedness <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Ryo Tajima, Junko Morishima, <i>Japan Waste Research Foundation</i> Yoshiyuki Natsume, Shohei Iida	p.109

- B3-5-O (in Japanese) Disaster Situation-aware Scenario for Disaster Debris Workshop with Projection Mapping System p.111
Nagoya University ○Nagahisa Hirayama, Kazuyasu Nomura, Nobuo Fukuwa

B4 Culture/ History of waste 【Sept 12 (Tue) 10:45–11:45 Venue#3】
Chair : Yasushi Matsufuji (SWAN-FUKUOKA) Co-chair : Kohei Nagaoka (Takuma)

- B4-1-O (in Japanese) Public Waste Collectors in Singapore p.113
Takushoku University ○Yasushi Yokozawa
- B4-2-O (in Japanese) The research on Self organization effects to solid waste management improvement project in foreign country and project effectiveness evaluation will do through the entropy p.115
Toyo University ○Akio Ishii
- B4-3-O (in Japanese) Seiichi Oi, professor at Kyoto Imperial University, elected to the Kyoto City Council p.117
Study group on waste culture and history ○Tatsuo Yamazaki
- B4-4-O (in Japanese) Responding to the 1991 Revision of the Waste Management and Public Cleansing Law by Local Governments -Case Study of Hachioji City- p.119
NPO Hachioji Citizen Activity Council ○Kazuo Nakagawa

B5 LCA/ Low-carbon society (1) 【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#3】
Chair : Rokuta Inaba (National Institute for Environmental Studies) Co-chair : Tomoko Okayama (Taisho University)

- B5-1-O (in Japanese) Creation of a logic model for plastic resource circulation p.121
National Institute for Environmental Studies ○Aya Yoshida,
Mitsubishi UFJ Research and Consulting Yamato Hosoi, Shingo Kanezawa, Masafumi Hagiwara, Toshiya Kayama
- B5-2-O (in Japanese) Greenhouse gas reduction by material replacement of plastics in household waste p.123
Kyoto University ○Junya Yano, Ebara Corporation Kazuki Hirota, Kyoto University Yasuhiro Hirai,
Advanced Science, Technology & Management Research Institute of KYOTO Shin-ichi Sakai
- B5-3-O (in Japanese) Demonstration of methanation using flue gas from waste incineration plant as feedstock p.125
Hitachi Zosen Corporation ○Naohiro Nakataya, Mariko Sakamoto, Sachiko Shigemasa, Sachiko Ohchi
- B5-4-O (in Japanese) Future scenarios on energy consumption and production related to combustible waste management in depopulation areas of Japan p.127
National Institute for Environmental Studies ○Kosuke Kawai, Ishikawa Prefectural University Takasei Kusube,
Kyoto University Kazuyuki Oshita
- B5-5-O (in Japanese) A Study on the Future of Plastic Recycling Based on Material Flow Analysis and CO₂ Emissions Calculation p.129
Mitsubishi Research Institute, Inc. ○Mei Nagase, Yumi Saito, Junichi Sakuda, Jiro Furuki
- Poster1 B5-6-P (in Japanese) Classification of trade-offs between material cycles/waste management and other fields p.131
National Institute for Environmental Studies ○Rokuta Inaba, Muhamad Afif Faiq, Haruhisa Yamamoto,
Kaoru Suzuki, Ryo Tajima, Kosuke Kawai, Aya Yoshida, Masahiro Oguchi, Tomohiro Tasaki

B6 LCA/ Low-carbon society (2) 【Sept 11 (Mon) 11:00–12:15 Venue#3】
Chair : Kosuke Kawai (National Institute for Environmental Studies) Co-chair : Geun-Yong Ham (Hokkaido University)

- B6-1-O (in Japanese) Scenarios for reducing greenhouse gas emissions from municipal solid waste incineration plants: Effect of CO₂ emission factor of electricity p.133
Ritsumeikan University ○Yichen Ge, Seiji Hashimoto
- B6-2-O (in Japanese) Study of a method for evaluating CO₂ emissions associated with the demolition and transportation of houses damaged by residential damage p.135
Nagoya University ○Hiroyasu Osugi, Nagahisa Hirayama
- B6-3-O (in Japanese) Optimal Facility Locating for Wide-Area Municipal Solid Waste Treatment: A Case Study of Kyoto Prefecture in 2050 p.137
Kyoto University ○Yasuhiro Hirai, Toi Makino, Junya Yano
- B6-4-O** A Study on greenhouse gas emissions from MSW incineration in South Korea p.139
Chungnam National University ○Chonghee Lee, Yong-Chul Jang, Kyoungheon Choi,
Choong Real Baek, Hakgyun Song
- B6-5-O** Life cycle assessment of the single use plastic bag ban in Kenya p.141
Kyoto University ○Isaac Omondi, Misuzu Asari
- Poster2 B6-6-P (in Japanese) Proposal of a Mathematical Optimization Model as a Theoretical Framework for the Introduction of CCUS Technologies into Waste Treatment Facilities p.143
Pacific Consultants Co., Ltd. ○Naoya Nagano, Hiroki Naoi, Yu Nagatomo, Madoka Yamamoto, Ryota Ii

C1 Packaging/ Plastics (1) 【Sept 11 (Mon) 15:15–16:45 Venue#4】
Chair : Jun Nakatani (The University of Tokyo) Co-chair : Teppei Nunoura (The University of Tokyo)

- C1-1-O (in Japanese) Development of Biodegradable Plastics as Alternative Materials for Shiitake Mushroom Spawning Caps p.145
Tottori University of Environmental Studies ○Hiroyuki Doyama, City of Hokota Reina Uchida,
Tottori University of Environmental Studies Sangyul Kim

	C1-2-O	(in Japanese) Discrimination of plastics by MT method using near-infrared spectral characteristics <i>Advanced Institute of Industrial Technology</i> ○Shigeomi Koshimizu, Kenichirou Koda	p.147
	C1-3-O	(in Japanese) Resin analysis of the food container packing plastic and precaution of the distinction method <i>Tokyo Metropolitan Research Institute for Environmental Protection</i> ○Hiroyasu Koizumi, Yushi Terajima, Sukehisa Tatsuichi, Akira Hasegawa	p.149
	C1-4-O	(in Japanese) Research on the collection and biogasification of biomass plastic (polylactic acid) <i>Osaka Gas Co., Ltd.</i> ○Jun Tsubota, Shinya Akimoto, Junpei Miyazaki	p.151
	C1-5-O	(in Japanese) Recycle method of used diaper, addition of bag breaking function <i>Kurita Water Industries Ltd.</i> ○Mayu Umemoto, Takaaki Tokutomi	p.153
	C1-6-O	(in Japanese) research on production of combustible gas from plastics using high temperature steam gasification technology <i>Nagasaki Institute of Applied Science</i> ○Takahiro Nakamichi, Kazuma Iwanaga, Ryusei Honda, Prefectural University of Kumamoto Yasuhiro Ishibashi, <i>Nagasaki Institute of Applied Science</i> Nobuaki Murakami	p.155
Poster1	C1-7-P	(in Japanese) A study of the improvement on analytical precision in various plastic analyses by near-infrared spectrophotometer <i>Tokyo Metropolitan Research Institute for Environmental Protection</i> ○Yushi Terajima, Sukehisa Tatsuichi, Akira Hasegawa, Hiroyasu Koizumi	p.157
Poster2	C1-8-P	(in Japanese) Design and experiment of vertical precipitation apparatus by waste plastics <i>Chubu University</i> Masao Yukumoto, Hisanori Hirate, ○Sera Tabata	p.159
Poster1	C1-9-P	(in Japanese) Shape Collapse of Thick-walled Polylactic Acid Mouldings with Metal Hydroxide Flame Retardants in Industrial Compost <i>Hitachi</i> ○Shunsuke Mori, <i>Hitachi Astemo</i> Toshiaki Ishii	p.161
Poster2	C1-10-P	Investigation of Marine Biodegradability and Biocompatibility of KP-PVA Eco-Friendly Packaging Materials <i>KAIST</i> ○Jaewook Myung	p.163

C2 Packaging/ Plastics (2) 【Sept 12 (Tue) 9:00–10:30 Venue#4】
Chair : Miwako Hata (EX Research Institute) Co-chair : Fumitake Takahashi (Tokyo Institute of Technology)

	C2-1-O	(in Japanese) An empirical study of plastic waste trade and international aid <i>Yamanashi Eiwa College</i> ○Kai Nomura, <i>Kinki University</i> Yuichi Ishimura	p.165
	C2-2-O	(in Japanese) An Analysis of Recent Plastic Resource Circulation Policies of the United Kingdom and Japan from the Perspective of EPR <i>Waseda University</i> ○Chiaki Itabashi, Takashi Nozu	p.167
	C2-3-O	(in Japanese) Plastic resin composition survey in the Chikugo area of Fukuoka (2 nd report) <i>Fukuoka University</i> ○Shinya Suzuki, Ikuyo Kikusawa, <i>The University of Kitakyushu</i> Atsushi Fujiyama, <i>Kyushu University</i> Yuriko Hayabuchi, <i>The University of Kitakyushu</i> Toru Matsumoto, <i>Kyushu University</i> Kayoko Kondo	p.169
	C2-4-O	(in Japanese) Estimation of Potential Emissions of Plastic Waste and Analysis of Regional Factors in Japanese Municipalities <i>The University of Tokyo</i> ○Tomohiro Tabata, Jun Nakatani, Toru Hayashi, Tsuyoshi Fujita	p.171
	C2-5-O	(in Japanese) Life cycle analysis on resource circulation system introducing PHBH food containers <i>Kyoto University</i> ○Daichi Yamada, Junya Yano, Hirotaro Sakai, Yasuhiro Hirai, <i>Advanced Science, Technology & Management Research Institute of KYOTO</i> Shin-ichi Sakai	p.173
	C2-6-O	(in Japanese) Trade-off Analysis between plastic recycling and material substitution for decarbonization <i>The University of Tokyo</i> ○Kazuma Hirata, Jun Nakatani, Satoshi Ohara, Aya Misuta, Toru Hayashi, Tsuyoshi Fujita	p.175
Poster1	C2-7-P	(in Japanese) Concerns regarding the presence of chemical substances used as plastic additives in the circular use of plastics <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Masahiro Oguchi, Natsuko Kajiwara, Atsushi Terazono	p.177

C3 Packaging/ Plastics (3) 【Sept 12 (Tue) 10:45–12:00 Venue#4】
Chair : Yuko Saito (Tohoku University) Co-chair : Kazuhiro Nakaishi (EX Research Institute)

	C3-1-O	(in Japanese) Impact on Steel Can Recycling due to the Spread of COVID-19 <i>Dynax Urban Research Institute</i> ○Yoko Kitasaka, Shinichi Sakuma, <i>Japan Steel Can Recycling Association</i> Ryohei Nakata	p.179
	C3-2-O	(in Japanese) Analysis of psychological determinants of pro-environmental behavior regarding plastic products <i>Kyoto University</i> ○Yuta Ando, Haruki Yokoi, Misuzu Asari	p.181
	C3-3-O	(in Japanese) What are the potential consequences of the joint collection of plastic products, and how can we prevent them? <i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Haruhisa Yamamoto, Rokuta Inaba, Masahiro Oguchi, Kosuke Kawai, <i>EX Research Institute Ltd.</i> Kayoko Ogawa, Yasuo Nemoto, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Tomohiro Tasaki	p.183
	C3-4-O	(in Japanese) Research on sector-specific issues in the value chain for building a plastic recovery system <i>Fukuoka University</i> ○Ikuyo Kikusawa, Shinya Suzuki	p.185

C3-5-O	(in Japanese) A Plastic Waste Separation and Recycling Project for The Floating Village on Tonle Sap Lake	Okayama University ○ Takeshi Fujiwara, Makoto Tsukiji, Habuer, Royal University of Phnom Penh Vin Spoann, Phat Chandara	p.187
Poster2 C3-6-P	(in Japanese) Research on recovery methods and recyclability of waste plastics from commercial facilities	Fukuoka University ○ Ikuyo Kikusawa, Recotech Ei Nozaki, Hiroki Omura, Shinkoh Sangyo Tsuyoshi Tanaka, Fukuoka University Shigeru Yao, Shinya Suzuki	p.189

C4 C&D waste/ Other inorganic waste **【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#5】**
 Chair : Tohru Kamo (Waseda University) Co-chair : Taisuke Watanabe (EX Research Institute)

C4-1-O	(in Japanese) Nationwide survey on the shape of concrete block products reusing waste fresh concrete	Hokkaido University ○ Ryoma Kitagaki, Wakayama Ready-Mixed Concrete Industrial Association Yuki Ohmae, Mitoyo Sangyo Yumie Takeuchi	p.191
C4-2-O	(in Japanese) Study on the utilization of byproducts for geopolymer synthesis	Obayashi Corp. ○ Koga Miyamoto, Toshihiko Miura, Yukinobu Kimura, Tetsunosuke Morotomi, Hiroshi Hasegawa	p.193
C4-3-O	(in Japanese) A Study on Methods of Promoting the Use of Recycled Construction Sludge and Other Products	Japan Industrial Waste Management Foundation ○ Atsushi Yamawaki, Center for Environmental Science in Saitama Mikio Kawasaki, Advanced Construction Technology Center Hiroaki Niizuma	p.195
C4-4-O	(in Japanese) Hexavalent chromium leaching behavior from concrete debris to seawater	National Institute for Environmental Studies Takayuki Honjo, ○ Hirofumi Sakanakura	p.197
C4-5-O	(in Japanese) Potential of siding chips as a ground improvement material	Shibaura Institute of Technology ○ Haruma Kato, Shinya Inazumi, Arnest One Corporation Kousuke Kumanda, Takahisa Yoshida, Doboku-Chishitsu Co., Ltd. Ryo Hashimoto	p.199
Poster1 C4-6-P	(in Japanese) Fundamental study on CO ₂ curing conditions for efficiently neutralizing alkali construction sludge treated by paper sludge ash	Yokohama National University ○ Aya Sakaguchi, Kimitoshi Hayano, Su Myat Mon, domi environmental solutions Hiromoto Yamauchi	p.201
Poster2 C4-7-P	(in Japanese) Influencing factors of variation of boron elution from coal bottom ash	Miyazaki University ○ Michito Fukuda, Tomoo Sekito, Yutaka Dote	p.203

C5 Automobile/ Battery/ Heavy electrics **【Sept 11 (Mon) 11:00–12:00 Venue#5】**
 Chair : Atsushi Terazono (National Institute for Environmental Studies)
 Co-chair : Kiyohisa Terauchi (Japan Environmental Sanitation Center)

C5-1-O	(in Japanese) Issues in understanding the structure of international trade in used vehicles	Yamaguchi University ○ Arata Abe	p.205
C5-2-O	(in Japanese) Evaluating of peak power of Photovoltaic modules using EL image	Toshiba Environmental Solutions Corporation ○ Yasuhiro Morosawa, Nobuyuki Kumakura, Mitsuharu Okada, Kouji Takizawa, Kouichi Okada	p.207
C5-3-O	(in Japanese) Fluorine Recovery from Spent Small Lithium-ion Batteries	Tohoku University Yoshinori Morita, ○ Yuko Saito, Shogo Kumagai, Tomohito Kameda, Toshikazu Shiratori, Toshiaki Yoshioka	p.209
C5-4-O	(in Japanese) Research on the reception performance of RFID tags in detecting lithium-ion batteries using RFID tags	Kyushu University ○ Eriko Aibara, Takayuki Shimaoka, Koji Sakakibara, Kenji Ito, Haruichi Kanaya	p.211
Poster1 C5-5-P	(in Japanese) Study of sample preparation method for fluorescent X-ray analysis of recycled lithium-ion battery raw materials	Rigaku ○ Yiqun Wang, Wataru Matsuda, Hikari Takahara, Takao Moriyama	p.213
Poster2 C5-6-P	(in Japanese) The importance of efficient collection system: Survey on the current situation of End-of-Life management of photovoltaic panels	National Institute for Environmental Studies ○ Haruhisa Yamamoto, Muhamad Afif Faiq, Eriko Minari, Guida Yago	p.215

C6 WEEEs **【Sept 12 (Tue) 9:00–10:30 Venue#5】**
 Chair : Hideki Miyakawa (Veolia Japan) Co-chair : Naohisa Yamaguchi (EX Research Institute)

C6-1-O	(in Japanese) Effects of Iron on Waste Printed Circuit Boards and Analysis of the Reaction Mechanism	Tohoku University ○ Wataru Shimomura, Yuko Saito, Shogo Kumagai, Tomohito Kameda, DOWA Metals & Mining Co., Ltd. Satoshi Nakagawara, Akiyoshi Horiuchi, Hiromitsu Watanabe, Tohoku University Toshiaki Yoshioka	p.217
C6-2-O	(in Japanese) Examination of Optimization Method of Sorting Conditions Considering Seasonal Fluctuation in the Plastic Input Material Composition Ratio in Electrostatic Separation	Mitsubishi Electric ○ Shinji Kuroda, Masaru Kinugawa, Yasuhiro Nakamura, Shinsuke Miki, Kazunari Tsutsui	p.219

- C6-3-O (in Japanese) Ignition Incidents Caused by Lithium-Ion Batteries in Waste Treatment Facilities p.221
National Institute for Environmental Studies ○Atsushi Terazono, Masahiro Oguchi,
Mizuho Research & Technologies Toru Hagiwara, Hiromitsu Tomozawa
- C6-4-O (in Japanese) Research Study on Expanding the Reuse of Used Home Appliances (PfR) p.223
 -Results of a study on PfR projects by Yamada Holdings Co., Ltd.
Kyushu University ○Xinran Guo, Kayoko Kondo, *YAMADA Holdings Co., Ltd.* Kouichi Kiyomura
- C6-5-O (in Japanese) Construction of low-environmental-impact batteries and investigation of p.225
 environmental impact assessment at the time of their disposal
NTT Device Technology Labs, NTT Corporation ○Masahiko Hayashi, Shuhei Sakamoto, Mikayo Iwata, Sho Okubo
 Masaya Nohara, Hiroaki Taguchi, Atsushi Aratake
- C6-6-O (in Japanese) Durability evaluation method of flame retardant recycled materials using p.227
 polypropylene parts collected from waste home appliances
SHARP ○Hiromichi Ueda, Tatsuya Arai, Akihide Toda

C7 Composting/ Processing to feed [Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#6]

Chair : Mitsuhiro Koyama (Nagasaki University) Co-chair : Kazuei Ishii (Hokkaido University)

- C7-1-O Improvement of Composting Efficiency in Kaluthara Composting plant, Sri Lanka through p.229
 Introduction of a Forced Aeration System
EX Research Institute Ltd. ○Cherki Mohamed Hamza, Sato Naofumi,
Sri Lanka Waste Management Authority Nalin Mannapperruma, Palitha Udayanaga,
Peradeniya University Anurudda Karunarathna
- C7-2-O Composting Strategies Using Agricultural Waste for Recirculation of Agricultural Organic Resources p.231
Kyonggi University ○Donggyu Bang, Soonwoong Chang, Van Hong Thi Pham,
National Institute of Agricultural Science JaeHong Shim, *Kyonggi University* Woojin Chung
- C7-3-O Effect of leachates' inoculation and particle size on the composting time of the organic fraction of p.233
 municipal solid waste in Bordo Poniente, Mexico City
CIEMAD IPN ○Tovar-Galvez Luis, Rodriguez-Tapia Claudia
- C7-4-O (in Japanese) Increasing Productivity with solar cell-powered electrokinetic treatment p.235
Tokyo University of Agriculture ○Narong Touch, Kohei Ogawa, Takahiko Nakamura
- C7-5-O (in Japanese) Study on numerical modeling of ammonia deodorization by a glass foaming material p.237
Hokkaido University ○Ayano Nakashima, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham, Kazuei Ishii
- Poster1 C7-6-P (in Japanese) Study on the stability of compost quality based on analysis of N and P in the p.239
 anaerobic digestion facility for food waste
Hokkaido University ○Yoshiyuki Azuma, Geun-Yong Ham, Kazuei Ishii, Satoru Ochiai

C8 Conversion to biogas and fuel [Sept 11 (Mon) 11:00–12:15 Venue#6]

Chair : Hiroyuki Daimon (Toyoashi University of Technology) Co-chair : Naohisa Yashiro (Fuji Clean)

- C8-1-O (in Japanese) Fundamental Study of Inhibition Factors in Anaerobic Digestion at a Biogas p.241
 Plant for Food Waste
Pacific Consultants ○Taichi Endo, *Hokkaido University* Kazuei Ishii, Satoru Ochiai, Geun-Yong HAM
- C8-2-O (in Japanese) Landfill avoidance by carbonization of organic waste and concept of coal p.243
 replacement in steelmaking process
Nippon Steel Corporation ○Masahiro Sekiya, Kazuaki Kobayashi, Hiroyuki Yoshino
- C8-3-O (in Japanese) Ethanol fermentation and assimilation of protein using protein sources from p.245
 food wastes
Fukuoka University ○Kenma Kato, Nana Ishida, Masatoshi Todaka, Mikiji Shigematsu
- C8-4-O Catalyst efficiency evaluation study according to Ni catalyst for DRM (Dry Reforming of Methane) p.247
 application in bio facility
Kyonggi University ○Ga Young Lim, Ha Young Cho, Jeong Yoon Ahn, Woo Jin Chung, Soon Woong Chang
- C8-5-O Bioaugmentation using genetically overexpressed *Clostridium acetobutylicum* ATCC 824 for p.249
 biohydrogen production
Yonsei University ○Hwan-Hong Joo, Young-Bo Sim, Saint Moon Kim, Jisu Yang,
 Ashutosh Kumar Pandey, Jeun Ko, Youngkyu Lee, Sang-Hyouon Kim
- Poster2 C8-6-P (in Japanese) A biomethanation reactor that keeps the liquid phase in a foamy state p.251
Osaka Institute of Technology ○Hanhan Ding, Yasunori Kosaki
- Poster1 C8-7-P Anaerobic digestion evaluation to get AI (artificial intelligence) applicable data with a variable p.253
 organic loading rate (OLR) and microbial analysis
Kyonggi University ○Min Gyu Kim, Su Hwan Kim, Soon Woong Chang, Woo Jin Chung
- Poster2 C8-8-P (in Japanese) An examination on model of biogasification and methanation in waste p.255
 incineration plants
EX Research Institute Ltd. ○Gaku Hashimoto, Tomio Nishimura, Katsuhiko Yoshikawa,
Osaka Gas Co., Ltd. Shinya Akimoto, Jun Tsubota

C9 Methane fermentation (1)		【Sept 11 (Mon) 13:30–15:00 Venue#6】
		Chair : Kazunori Machikawa (Fuji Clean) Co-chair : Kiyohiko Nakasaki (Soka University)
C9-1-O	(in Japanese) Performance of anaerobic membrane bioreactor for liquid dairy biomass treatment	p.257
		<i>Kobe University</i> ○Fumihito Ikeda, Gen Yoshida, Ikko Ihara
C9-2-O	(in Japanese) Mitigation of ammonia inhibition in continuous operation of anaerobic digestion by addition of biochar	p.259
		<i>Kobe University</i> ○Kazutaka Ueno, Gen Yoshida, Mohamed Farghali, Ikko Ihara, <i>Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine</i> Kazutaka Umezu
C9-3-O	(in Japanese) Effect of zero-valent iron addition during anaerobic digestion on methane concentration and methane production	p.261
		○Jun Takezaki, Akira Akashi
C9-4-O	(in Japanese) Effect of pre-pulverization treatment of energy crop <i>Miscanthus giganteus</i> on methane fermentation	p.263
		<i>Hokkaido University</i> ○Satoru Ochiai, Taiga Tanaka, Geun-Yong Ham, Kazuei Ishii
C9-5-O	(in Japanese) Characteristics of biochar produced by pyrolysis and loaded with ash from biomass and its effect on anaerobic digestion	p.265
		<i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Takuro Kobayashi, Hidetoshi Kuramochi
C9-6-O	(in Japanese) Analysis and understanding of dynamics of bacterial flora during anaerobic fermentative decomposition of glycerol	p.267
		<i>Osaka Metropolitan University College of Technology</i> Kensuke Kurahashi, <i>Osaka Metropolitan University</i> Kenta Michishige, ○Hayato Tokumoto
Poster1 C9-7-P	(in Japanese) Investigation of Recycling by Separating and Concentrating Ammonia Nitrogen Contained in Methane Fermentation Digestive Fluid	p.269
		<i>Mie Prefecture Industrial Research Institute</i> ○Shinya Matsuura, Masaki Murayama, Akihiro Maegawa, <i>Daiei Kogyo Corporation</i> Takayoshi Kawaoka, Yasuyuki Kanzaki
Poster2 C9-8-P	(in Japanese) Scale-up verification of anaerobic fermentation process using minivials and pilot plant	p.271
		<i>Idemitsu Engineering Co., Ltd.</i> ○Katsu Miyazaki, Motohito Hayashi, Toshihisa Konishi, Riku Masuda, Satoshi Morita, <i>Osaka Metropolitan University College of Technology</i> Kensuke Kurahashi, <i>Osaka Metropolitan University</i> Kazuya Okamoto, Hayato Tokumoto
C10 Methane fermentation (2)		【Sept 11 (Mon) 15:15–16:30 Venue#6】
		Chair : Jun Takezaki (Kobelco Eco-Solutions) Co-chair : Hiroyuki Daimon (Toyohashi University of Technology)
C10-1-O	(in Japanese) Operation status of the first vertical dry methane fermentation system in Japan	p.273
		<i>FUJI CLEAN Co., Ltd.</i> Kazunori Machikawa, ○Naohisa Yashiro, Hisato Kinjo, <i>Toyohashi University of Technology</i> Hikaru Kaneko, Hiroyuki Daimon
C10-2-O	(in Japanese) Evaluation of nutrient leaching and algal growth characteristics by anaerobic digestate pellets for marine fertilization	p.275
		<i>Kobe University</i> ○Takuma Kawai, Gen Yoshida, Ikko Ihara, <i>Hiroshima University</i> Satoshi Asaoka
C10-3-O	(in Japanese) Effect of Voltage Application and Various Accelerators on Methane Production Efficiency in Anaerobic Digestion	p.277
		<i>Toyohashi University of Technology</i> ○Mao Miyazato, Hironosuke Imai, <i>Toyohashi Biomass Solutions</i> Yoichi Atsuta, <i>Toyohashi University of Technology</i> Hiroyuki Daimon
C10-4-O	(in Japanese) Study on the change of parameters of food waste CSSTR methane fermentation system during load raising shock	p.279
		<i>Tohoku University</i> ○Xu Wang, Yuanyuan Ren, Qingkang Zeng, Yuyou Li
C10-5-O	Assessing the Practicality of an Artificial Neural Network (ANN) Model for Monitoring and Forecasting the Continuous Anaerobic Digestion of Waste Sludge	p.281
		<i>Yonsei University</i> ○Soyoung Park, Ashutosh Kumar Pandey, Gi-Beom Kim, Sang-Hyoun Kim
Poster1 C10-6-P	(in Japanese) Study on Selection of Cow Manure-derived Biogas Utilization Methods Considering Regional Conditions for Decarbonized Society	p.283
		<i>Hokkaido University</i> ○Minoru Takahashi, Kazuei Ishii, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham
Poster2 C10-7-P	(in Japanese) Study on the Feasibility of Microalgae Cultivation and Harvesting by Using dialysis bags	p.285
		<i>Hokkaido University</i> ○Keita Sawada, Jumana Al-mallahi, Kazuei Ishii, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham
C11 Sludge/ Other organic waste		【Sept 12 (Tue) 9:00–10:15 Venue#6】
		Chair : Satoru Ochiai (Hokkaido University) Co-chair : Nobusuke Kobayashi (Gifu University)
C11-1-O	Optimization of Selective Oxidation Catalyst Process for Hydrogen Sulfide Resource Recovery	p.287
		<i>Kyonggi University</i> ○Jun Oh Kim, Sung Su Kim, Soonwoong Chang
C11-2-O	(in Japanese) Fertilization Tests of MAP Recovered from Sewage for Germination and Growth of <i>Zostera marina</i>	p.289
		<i>Ritsumeikan University</i> ○Yuki Tanabe, Satoshi Soda
C11-3-O	(in Japanese) Selective removal of heavy metals from incinerated ash of sewage sludge	p.291
		<i>Fukuoka Institute of Technology</i> ○Hironori Tsuru, Takuya Yoshida, Hironari Kubo
C11-4-O	(in Japanese) Estimation of Drying Acceleration Mechanism	p.293
		<i>Gifu University</i> ○Ryoma Hayakawa, Nobusuke Kobayashi, <i>Gen Gen Corporation</i> Takumi Ito, Hironari Oki

C11-5-O	(in Japanese) Energy recovery with non-fossil fuels in metal recycling furnace	p.295
	<i>Nagoya University</i> ○Hiromitsu Watanabe, Yasuaki Ueki, Ryo Yoshiie, Ichiro Naruse, <i>DOWA Metals & Mining Co., Ltd.</i> Yusuke Oshima, Satoshi Nakagawara	
Poster1	C11-6-P Carbon removal role and certification standards for biochar	p.297
	<i>The University of Seoul</i> ○Soyee Park, Jai-Young Lee	

C12 Food waste/ Garbage **[Sept 12 (Tue) 10:45–12:00 Venue#6]**
 Chair : Nobusuke Kobayashi (Gifu University) Co-chair : Yasuaki Ueki (Nagoya University)

	C12-1-O Research on the effect of recirculation on two-phase anaerobic fermentation system of food waste and paper waste	p.299
	<i>Tohoku University</i> ○Qingkang Zeng, Yuanyuan Ren, Yu-you Li	
	C12-2-O (in Japanese) Proposal of the structure of anode chamber of steelmaking slag and food waste-used sediment microbial fuel cell	p.301
	<i>Tokyo University of Agriculture</i> ○Kota Shigetomi, Narong Touch, Takahiko Nakamura, <i>Tokyo Metropolitan University</i> Xiao Xiao	
	C12-3-O (in Japanese) Establishment of a new valorisation in compliance with Black Soldier Fly (<i>Hermetia illucens</i>) Japanese production guidelines.	p.303
	<i>Kagawa University</i> ○Akane Hirokawa, <i>HIMEJI KOUN</i> Shigehiko Nakamura, <i>Insect Business Research and Development Platform</i> Yasuhiro Fujitani, <i>Kagawa Prefecture Eastern Regional Livestock Hygiene</i> Koichi Tanaka, Yasuhiro Izumikawa, <i>Kagawa University</i> Yoshiki Matsumoto	
	C12-4-O (in Japanese) Microbial community structure from an organic waste treatment facility and the effects of artificially controlled environments	p.305
	<i>komham</i> ○Hajime Morimoto	
	C12-5-O (in Japanese) Effect of activation treatment conditions on pore structure and specific surface area of rice husk activated carbon	p.307
	<i>Saitama Institute of Technology</i> Shunya Shiratori, Souhei Ooki, ○Teruhisa Hongo	
Poster2	C12-6-P (in Japanese) Development of food waste collection and solid recovery system for high rise apartment in Korea (Focusing on background and process)	p.309
	<i>University of Seoul</i> ○Donghoon Lee, <i>HYENA</i> Kyeongsik Kim, Doojae Lee, <i>KTL</i> Yongwoo Jeon	
Poster2	C12-7-P (in Japanese) Development of food waste collection and solid recovery system for high rise apartment in Korea (2) (Focusing on the quality characteristics of recovered solid as recycling materials)	p.311
	<i>University of Seoul</i> Donghoon Lee, Donha Choi, Hyo Kim, Hyunwook Kim, <i>KTL</i> ○Yongwoo Jeon, <i>HYENA</i> Kyeongsik Kim, Doojae Lee, <i>Andong National University</i> Taedong Kim	
Poster1	C12-8-P (in Japanese) Study on the recovery potential of nitrogen and phosphorus and GHG Emissions from Biomass Waste Management Systems in Japan	p.313
	<i>Hokkaido University</i> ○Geun-Yong Ham, Nanako Shinoda, Kazuei Ishii, Satoru Ochiai	
Poster1	C12-9-P (in Japanese) Prediction of General Waste Discharge in Fukuoka City by Multiple Regression Analysis Using Retail Sales Data	p.315
	<i>Kyushu University</i> ○Masaya Hamachi, Takayuki Shimaoka, Yasuhiro Sugisaki	

C13 Recovery of valuables **[Sept 11 (Mon) 15:15–16:30 Venue#1]**
 Chair : Shogo Kumagai (Tohoku University) Co-chair : Osamu Yamamoto (EX Research Institute)

	C13-1-O The recovery of vanadium from VTM minerals by CaO roasting and hydrometallurgy processes	p.317
	<i>Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources</i> ○Dong Ju Shin, Yong Yeon Joo, Dongseok Lee, Shun Myung Shin	
	C13-2-O (Canceled)	
	C13-3-O Shape-Specific Recovery of Copper and Poly(vinyl chloride) from Waste Wire Harness Cables using Swelling and Subsequent Ball Milling	p.321
	<i>Tohoku University</i> ○Harendra Kumar, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	
	C13-4-O (in Japanese) Basic study on the preparation of high purity silica material from coal ash	p.323
	<i>Mitsubishi UBE Cement Corporation</i> ○Eiji Maruya, Youichi Ueda, Tomoaki Washio, Atsushi Yamaguchi	
	C13-5-O (in Japanese) Recovery of heavy metals and phosphate with urine or sewage	p.325
	<i>Ryukoku University</i> ○Hiromoto Koshikawa, <i>Shimadzu Access Corporation</i> Yoshio Kikukawa, <i>Nishihara Engineering Co., Ltd.</i> Yuki Taniguchi	
Poster2	C13-6-P (in Japanese) Development of treatment and nickel recovery technology which using electroless plating reaction for electroless nickel plating waste solution.	p.327
	<i>Kotoku Cleaner Corpration</i> ○Shotaro Yukawa, Ryo Seko, Hiroyuki Kamide	
Poster2	C13-7-P Reclaim of Waste Photoresister Thinners from Semiconductor Industry by Enhanced Distillation Techniques	p.329
	<i>Yeungnam University</i> ○Moonyong Lee, <i>UNIST</i> Yus Donald Chaniago	
Poster1	C13-8-P Analysis of factors affecting DES absorption capacity: Observation of differences by constituent elements of DES using tetravalent ammonium salts and polyamines	p.331
	<i>Chungbuk National University</i> ○Seokho Kwon, Minseok Park, Jaehan Jo, Dongyon Choi, Seonho Kim, Dongwoo Kang	

Poster2	C13-9-P	Simultaneous Treatment of Carbon Dioxide and Desalination Brine Using KOH <i>Yonsei University</i> ○Dongwook Lee, Won yong Choi, Kyumin Jang, Eunsil Kim, Jinwon Park	p.333
Poster1	C13-10-P	The recovery of zinc from EAFD wastes by hydrometallurgy process <i>Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources</i> ○Shun Myung Shin, Yong Yeon Joo, Dong Ju Shin, Dongseok Lee	p.335
Poster2	C13-11-P	Adaptation of organic supporting electrolyte for extension of potential window and energy recovery in redox-mediated electro dialysis <i>Kongju National University</i> ○Hyunjin Kim, Gamin Kim, Minhui Kim, Choonsoo Kim	p.337
Poster1	C13-12-P	Effective Recovery of Rare Earth Elements from Coal Ash Wastes by a Modified Sequential Extraction Procedure <i>KonKuk University</i> Siyu Chen, Sang Woon Woo, ○Han.S. Kim	p.339

D1 Incineration **【Sept 11 (Mon) 13:30–15:00 Venue#2】**
Chair : Keisuke Edazawa (Pacific Consultants) Co-chair : Naomichi Fukuda (Nippon Steel Engineering)

	D1-1-O	(in Japanese) Relationship between Homogenization and Pit Crane Scatter Operation in General Waste Incineration Plant <i>Fukushima University</i> ○Yuki Hakkei, Yoshiyuki Higuchi	p.341
	D1-2-O	(in Japanese) Application of AI/IoT technology in the waste incinerator facilities (III) <i>Mitsubishi Heavy Industries Environmental & Chemical Engineering</i> ○Mana Kato, Wataru Suzuki, Tomomichi Egusa, Yoshinori Terasawa, Tomohiro Harada	p.343
	D1-3-O	(in Japanese) Development of a refuse pit 3D layered model with refuse attribute information <i>TAKUMA</i> ○Ryoichi Sekine, Shou Nakamoto, Kazuhiro Koga, Hiroyuki Fujikawa, <i>Okayama University</i> Takeshi Fujiwara	p.345
	D1-4-O	(in Japanese) A Study on the Application of Reinforcement Learning to the Operation of Dust Feeders of Stoker-type Refuse Incinerators <i>Mitsubishi Heavy Industries</i> ○Shunya Sasaki, Takashi Ikeda, Toshihiko Setoguchi, Junji Imada	p.347
	D1-5-O	(in Japanese) Realization of long-term stable operation of waste-to-energy plants with AI technology <i>Hitachi Zosen Corporation</i> ○Akifumi Ise, Hisashi Tetsutani, Chikako Nishihara, Yukio Onuki, Shinji Motoyama, Sachiko Shigemasa	p.349
	D1-6-O	(in Japanese) Reduction of steam volume fluctuation on waste disposal facilities by control based on prediction using machine learning <i>Kobelco Eco-Solutions</i> ○Ayato Shibazaki, Hiroki Fukukawa, Kei Watanabe, Katsuyoshi Tanida, Nobuhiro Okuzumi	p.351
Poster1	D1-7-P	(in Japanese) Fundamental Study on Waste Combustion in the Vertical Incinerator <i>Osaka Metropolitan University College of Technology</i> ○Kunihiko Namba, <i>PLANTEC Inc.</i> Kosuke Iwanaga, Soichiro Makihara, <i>Yoshimoto Engineer Design Office</i> Takamitsu Yoshimoto	p.353
Poster2	D1-8-P	(in Japanese) Numerical simulation of rotary combustor using DEM-CFD method <i>Kobelco Eco-Solutions</i> ○Naoko Inoue, Yoshihiro Kurisu, Tpsiya Tada, Jun Fujita, Yoshio Kajihara	p.355
Poster1	D1-9-P	(in Japanese) Investigation of the combustion mechanism of a Vertical Combustor using a small experimental furnace <i>PLANTEC Inc.</i> ○Soichiro Makihara, Kosuke Iwanaga, Akihiro Takeyama, <i>Osaka Metropolitan University College of Technology</i> Kunihiko Namba, <i>Yoshimoto Engineer Design Office</i> Takamitsu Yoshimoto	p.357
Poster2	D1-10-P	(in Japanese) Characteristics of pyrolysis and combustion characteristics of solid waste under high concentration of CO ₂ atmosphere <i>Hokkaido University</i> ○Takeshi Yamauchi, In-hee Huang, Yasumasa Tojo, Takayuki Matsuo, <i>PLANTEC Inc.</i> Kengo Masuda	p.359
Poster1	D1-11-P	(in Japanese) Development of a uniformity index of waste mixing in the pit yard of incineration facility <i>Okayama University</i> ○Takeshi Fujiwara, Sou Ogawa, <i>TAKUMA</i> Ryoichi Sekine	p.361
Poster2	D1-12-P	A Study on the Combustion reaction analysis of multi-stage cyclone pre-heater and pre-calcining furnace when waste plastic auxiliary fuel is used in cement firing process <i>Kongju National University</i> ○Myeongjong Lee, Jimin Jeon, Guhoe Lee, Jaehyung Kim, San Kang, Wootae Kim, Secheon Oh	p.363

D2 Pyrolysis/ Gasification/ Melting **【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#2】**
Chair : Masahiro Tozaki (Takuma) Co-chair : Takahiro Masuda (Takuma)

	D2-1-O	(in Japanese) Understanding the gasification characteristics of dried sludge using a two-stage fluidized bed reactor system <i>Hitachi Zosen Corporation</i> ○Satoshi Uehara, Satoshi Okumura, <i>National Institute of Advanced Industrial Science and Technology</i> Sharma Atul	p.365
	D2-2-O	(in Japanese) Development of direct biomass fuel cells for effective use of unutilized biomass <i>Central Research Institute of Electric Power Industry</i> ○Makoto Kawase, Akifumi Ido	p.367
	D2-3-O	(in Japanese) Studies on the Production of Biofuels such as SAF from Biomass and Waste Plastics <i>REVO International Inc.</i> Shoi Koshikawa, Yuki Yokoyama, Syun Tanikaga, ○Kotetsu Matsunaga	p.369
	D2-4-O	(in Japanese) Combustion quality evaluation of biomass coke in shaft-type gasification and melting furnace <i>Nippon Steel Engineering</i> ○Naomichi Fukuda, Kazuki Matsui, Jun Koike, Junichi Takada, Tooru Izumiya	p.371

D2-5-O	(in Japanese) Development of energy-saving technology for a melting furnace using RPF as a combustion improver	p.373
	<i>Kubota Corporation</i> ○Yasumasa Hirato, Fumiki Hoshō, Shigenori Inoue, Eiichi Tsuji	
Poster1 D2-6-P	(in Japanese) Basic Research of Pyrolysis Characteristics of Municipal Solid Waste for Advanced Waste Utilization	p.375
	<i>Kyoto University</i> ○Wenxi Zhao, Hiroki Harada, Sylwia Oleszek, Kenji Shiota, Masaki Takaoka	
Poster2 D2-7-P	(in Japanese) Studies on the suppression of hydrochloric acid gas generation during thermal decomposition of mixed waste plastics	p.377
	<i>University of Toyama</i> ○Shintarou Hirose, Guiqing Liu, ZE Energy Inc. Hiroshi Sekiguchi, Kouji Kobayashi, Hiromichi Morii	

D3 Pyrolysis/ Gasification/ Carbonization 【Sept 11 (Mon) 11:00–12:15 Venue#2】

Chair : Masaki Takaoka (Kyoto University) Co-chair : Kazuyuki Oshita (Kyoto University)

D3-1-O	(in Japanese) Pyrolysis Behavior of Sewage Sludge toward Energy and Resource Recovery	p.379
	<i>Kyoto University</i> ○Ryoka Mitsui, Hiroki Harada, Hitachi Zosen Corporation Yuya Sakurai, Kyoto University Kenji Shiota, Masaki Takaoka	
D3-2-O	Co-pyrolysis characteristics of vacuum residue and bio-oil	p.381
	<i>Tohoku University</i> ○Miranti Budi Kusumawati, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	
D3-3-O	Low-Temperature Pyrolysis Characteristics of Tire Rubber	p.383
	<i>Tohoku University</i> ○Awosu Emmanuel, Yoshioka Toshiaki, Kumagai Shogo, Saito Yuko, Hirano Yuka, Bridgestone Corporation Tahara Seiichi, Homma Masahiro, Hojo Masahiro	
D3-4-O	(in Japanese) Carbonization behavior of nitrile butadiene rubber pyrolysis residue under inert gas atmosphere	p.385
	<i>Gunma Industrial Technology Center</i> ○Koki Onda, Yosuke Watanuki, Motohiro Watanabe, Mitsumine Industry Co., Ltd. Shin-ichi Murakami	
D3-5-O	(in Japanese) Reduction characteristics of iron oxide by waste plastic and woody biomass	p.387
	<i>Nagoya University</i> ○Kohei Kada, Yasuaki Ueki, Ryo Yoshiie, Ichiro Naruse	
Poster1 D3-6-P	A feasibility on Bio-coal with Hydrothermal carbonization by Organic Waste as a Solid Fuel	p.389
	<i>University of Seoul</i> ○Hyewon Park, Jai-Young Lee	

D4 Gas treatment and monitoring 【Sept 11 (Mon) 15:15–16:45 Venue#2】

Chair : Tadashi Yokoyama (JFE Engineering) Co-chair : Takashi Nagayama (Kubota)

D4-1-O	(in Japanese) Suppression of 1,4-dioxane by environmentally friendly high reactive slaked lime	p.391
	<i>Okutama Kogyo</i> ○Shoutarou Matsuno, Tetsuya Morikawa	
D4-2-O	(in Japanese) Development of energy-saving CO ₂ separation and capture	p.393
	<i>TAKUMA</i> ○Muneharu Fujikawa, Kyouhei Kenmotsu, Kazuhiro Sato, Takahiro Masuda, Kenichi Shishida	
D4-3-O	(in Japanese) Development of technology to convert CO ₂ into solid carbon	p.395
	<i>TAKUMA</i> ○Yo Agata, Kazuhiro Sato, Takahiro Masuda	
D4-4-O	(in Japanese) New type of dry flue gas treatment using layered double hydroxide	p.397
	<i>Kurita Water Industries Ltd.</i> ○Koichi Mori, Ichiro Ito, Satoshi Fujita, Yoshikazu Yatsu, JFE Engineering Corporation Hiroshi Yamamoto, Toshimasa Shirai, Hajime Fukai, Tohoku University Tomohito Kameda, Toshiaki Yoshioka	
D4-5-O	(in Japanese) Characterization of Mg-Al layered double hydroxide intercalated with CO ₃ ²⁻ for HCl removal	p.399
	<i>Tohoku University</i> ○Sayaka Nishitani, Tomohito Kameda, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Kurita Water Industries Ltd. Koichi Mori, Ichiro Ito, Sakai Chemical Industry Masahiro Suzuki, Tohoku University Toshiaki Yoshioka	
D4-6-O	(in Japanese) CO ₂ adsorption and conversion to ethylene urea using Zr-doped Mg-Al layered double hydroxides	p.401
	<i>Tohoku University</i> ○Yota Kunii, Tomohito Kameda, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	
Poster2 D4-7-P	(in Japanese) Water vapour recovery system from waste incineration flue gas using organosilica membranes	p.403
	<i>PLANTEC Inc.</i> ○Taichi Yamaotoko, Akihiro Takeyama, Hiroshima University Norihiro Moriyama, Hiroki Nagasawa, Masakoto Kanezashi, Toshinori Tsuru	
Poster1 D4-8-P	(in Japanese) Effect of intermittent water vapor addition on the removal efficiency of HCl and SO _x in dry scrubbing of waste incineration flue gas	p.405
	<i>Hokkaido University</i> Yudai Masuda, ○In-hee Huang, Yasumasa Tojo, Takayuki Matsuo, TAKUMA Hiroshi Minoya	

D5 Power generation/ Heat utilization 【Sept 12 (Tue) 9:00–10:30 Venue#2】

Chair : Yoshihiro Ono (Nippon Steel Engineering) Co-chair : Jun Fujita (Kobelco Eco-Solutions)

D5-1-O	(in Japanese) A Study of Optimization for Combustion Control of Municipal Waste Incineration Boiler	p.407
	<i>Tokyo Denki University</i> ○Hideo Sugahara, Hiroki Sakakibara, Masakazu Kato, TAKUMA Yumi Matsuda, Kazuhiro Sato	
D5-2-O	(in Japanese) Development of Thermal Spray Materials for Waste to Energy Boilers	p.409
	<i>Kawasaki Heavy Industry</i> ○Daichi Sampei, Hiroyuki Morita, Shohei Suzuki, TOCALO Takashi Sakoda, Satoshi Uegaki	

D5-3-O	(in Japanese) Evaluation of Corrosion of Superheater Tubes under CO ₂ -rich Environment in Waste to Energy Plant	p.411
	<i>Kyoto University</i> ○Tsuayoshi Shinohara, Hiroki Harada, Masaki Takaoka, Kenji Shiota	
D5-4-O	(in Japanese) Investigation of low-temperature corrosive environment using ACM sensors in incineration plants	p.413
	<i>Ebara Environmental Plant Co., Ltd.</i> ○Keisuke Miwa, Hiromitsu Cho, So Murasue, <i>Ebara Co.</i> Manabu Noguchi, <i>Syrinx Inc.</i> Tomoyasu Suzuki, Yasuhiko Saijo, Yu Iwanaga	
D5-5-O	(in Japanese) Actual WtE performances of MSW incinerators under the change in fed-waste quality over the years	p.415
	○Yasuo Shino	
D5-6-O	(in Japanese) Cascading Use of Waste Heat from Incineration Plants in Tokyo	p.417
	<i>Tokyo Institute of Technology</i> ○Mayumi Hamada, <i>Tata Consultancy Services Japan</i> Jia Ren, <i>Tokyo Institute of Technology</i> Kazuhiro Yuasa	
Poster2 D5-7-P	(in Japanese) Analysis of Actual Plant Operation Data and Its Simulation	p.419
	<i>Tokyo Denki University</i> ○Hiroki Sakakibara, Hideo Sugahara, Masakazu Kato, <i>TAKUMA</i> Muneharu Fujikawa, Yumi Matsuda, Kazuhiro Sato	
Poster1 D5-8-P	(in Japanese) Development of a Refuse Boiler Simulator with Separated Combustion Gas System and Boiler Heat Transfer System	p.421
	<i>Tokyo Denki University</i> ○Yuki Sakurai, Hideo Sugahara, Masakazu Kato, <i>PLANTEC Inc.</i> Kengo Masuda, Ryoji Sameshima	
Poster2 D5-9-P	Numerical study on the design of incinerator for solid refuse fuel for power plant	p.423
	<i>Hanbat National University</i> ○Tae-In Ohm, Byoung-Chan Sang	

D6 Cinder and fly ash **【Sept 12 (Tue) 10:45–12:15 Venue#2】**
 Chair : Michitaka Furubayashi (Hitachi Zosen) Co-chair : Yuji Miyoshi (Kawasaki Heavy Industry)

D6-1-O	(in Japanese) Development of Pressure Wave Boiler Dust Removal System	p.425
	<i>TAKUMA</i> Hiromitsu Takahashi, Keiji Tatsumi, Kyohei Hayashi, ○Shohei Yamasaki	
D6-2-O	(in Japanese) Research on suppression of hydrogen generation by the Reaction of Al Contained in Incinerated Ash with Water	p.427
	<i>Japan Aerospace Exploration Agency</i> ○Hideyuki Onodera	
D6-3-O	(in Japanese) Effect on fly ash and an example of reducing the amount of heavy metal insolubilizer used when hydrated dolomite is used as acidic-gas treating agent	p.429
	<i>Yoshizawa Lime Industry</i> ○Takuya Nakamura, Tatsuya Okamura, Shuichi Takahashi	
D6-4-O	(in Japanese) Demonstration of carbon capture and utilization for biomass APCr with accelerated carbonation treatment	p.431
	<i>Kobelco Eco-Solutions</i> ○Yukihiro Goto, Hiroshi Fujiwara, Yuki Maeda, Yuta Fukutomi, Ayako Takimoto, Masahiro Ogura, Hisanori Shimakura, <i>O.C.O TECHNOLOGY Ltd.</i> Peter Gunning	
D6-5-O	(in Japanese) About desalination of fly ash generated the fluidized bed incinerator	p.433
	<i>Tokyo Metropolitan Research Institute for Environmental Protection</i> ○Sukehisa Tatsuichi, Akira Hasegawa, Yushi Terajima, Hiroyasu Koizumi	
D6-6-O	(in Japanese) Ash adhesion control technology for energy recovery of industrial waste	p.435
	<i>Nagoya University</i> ○Shun Mukomoto, Yasuaki Ueki, Ryo Yoshiie, Ichiro Naruse, <i>Toyota Chemical Engineering</i> Nobuharu Nagatsu	

E1 Management/ Monitoring of landfill site **【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#7】**
 Chair : Kentaro Miyawaki (Meisei University) Co-chair : Yugo Isobe (Center for Environmental Science in Saitama)

E1-1-O	(in Japanese) The significance to monitor gas composition in observation wells at waste landfills	p.437
	<i>Center for Environmental Science in Saitama</i> ○Masanao Nagamori, <i>Miyagi Prefectural Government Sennan Public Health Center</i> Shintaroh Hagiwara, <i>Chiba Prefectural Environmental Research Center</i> Masaaki Morisaki, <i>Environmental Sanitation Research Center of Tottori Prefecture</i> Tomohiro Naruoka, Akihiro Mori, <i>Fukuoka Institute of Health and Environmental Sciences</i> Kazuhiro Fujikawa, Tomoko Koga, <i>Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment</i> Gou Inoue, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Tomonori Ishigaki, Masato Yamada	
E1-2-O	(in Japanese) A study on the long-term monitoring of semi-aerobic landfill site by using the electric resistivity survey	p.439
	<i>Center for Environmental Science in Saitama</i> ○Yugo Isobe, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Hiroyuki Ishimori	
E1-3-O	(in Japanese) Assessment of the amount of microplastics released into the environment via landfills and verification of the effectiveness of policy measures	p.441
	<i>National Institute for Environmental Studies</i> ○Tomonori Ishigaki, Panida Payomthip, <i>Hokkaido University</i> Geun-Yong Ham, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Masato Yamada, Masahiro Osako	
E1-4-O	(in Japanese) Experiments to confirm the effectiveness of alternative soil cover materials in reducing rainwater infiltration	p.443
	<i>Yoshiura Co., Ltd.</i> ○Houliang Yan, Toshiyuki Yoshiura, Sei Inoue, Hiroki Hidaka, <i>Fukuoka University</i> Kazuo Tameda, <i>NPO Environmental Technical Support Network</i> Sotaro Higuchi	
E1-5-O	(in Japanese) Measurement of areal temperature distribution in capping layer of waste landfill using optical fiber sensor	p.445
	<i>Kyushu University</i> ○Rion Hamada, Takayuki Shiomaoka, Teppei Komiya	

Poster1	E1-6-P	(in Japanese) Numerical simulation of deformation of a landfill gas extraction well in a sanitary landfill <i>Muroran Institute of Technology</i> ○Ikuya Tsuchida, Hideki Yoshida, <i>Yachiyo Engineering</i> Yuto Kumagai	p.447
Poster2	E1-7-P	(in Japanese) Modified chamber methods with monitoring well for measuring gas flux from landfill site <i>Fukuoka University</i> ○Osamu Hirata, Shinya Suzuki	p.449
Poster1	E1-8-P	(in Japanese) Ergonomic approach on optimization of work environment for waste hand-sorting processes <i>Hokkaido University</i> ○Taichi Imamura, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham, <i>National Institute for Environmental Studies</i> Masato Yamada, <i>Hokkaido University</i> Kazuei Ishii	p.451
Poster2	E1-9-P	(in Japanese) Landfill Gas Flow Study at a covered type landfill site Ver2 <i>Fukuoka University</i> ○Kazuo Tameda, Shoji Takakura, Lingjie Yu, Jianlei Pan, Sotaro Higuchi	p.453
Poster1	E1-10-P	Assessment of anaerobic activity in an aerobic municipal solid waste landfill <i>TerraTherm Asia, Inc.</i> ○Tomotaka Sakaue, Hatsue Braatz, <i>Fukuoka University</i> Kazuo Tameda, <i>Ecowillplus Co., Ltd.</i> Jinkyu Park, <i>Anyang University</i> Namhoon Lee	p.455

E2 Early stabilization of landfill site **【Sept 11 (Mon) 11:00–12:00 Venue#7】**

Chair : Masanao Nagamori (Center for Environmental Science in Saitama) Co-chair : Teppei Komiya (Kyushu University)

E2-1-O	(in Japanese) Life Cycle Cost Assessment of Solid Waste Disposal Systems <i>Kyushu University</i> ○Yuki Komori, Hirofumi Nakayama, Teppei Komiya, Takayuki Shimaoka	p.457
E2-2-O	(in Japanese) Study on Early Stabilization of Sea Surface Landfill <i>Fukuoka University</i> ○Lingjie Yu, Kazui Tameda, Mikiji Shigematsu, Jianlei Pan, Jiaying Liu, <i>NPO Environmental Technical Support Network</i> Sotaro Higuchi	p.459
E2-3-O	(in Japanese) Experiments on dissolution of carbon dioxide in seawater and calcium leaching from cement <i>Toyo Construction Co., Ltd.</i> Keigo Fukuda, ○Kazuki Noshō, Tomohiro Yamasaki	p.461
E2-4-O	(in Japanese) Investigation of gas collection pipes buckling mechanism by compressive test using Higher performance polyethylene (HPPE) pipes <i>Obayashi Corp.</i> ○Miki Mitsuhashi, So Takezaki, Kenji Shibata, Tetsumi Higasayama	p.463
Poster2	E2-5-P (in Japanese) Leachate in closed landfill sites after post-closure care is finished <i>JDC Corporation</i> ○Atsushi Sakamoto, <i>Nippon Koei Co., Ltd.</i> Shigeyuki Shoji, <i>Ohmoto Gumi Co., Ltd.</i> Toshihiko Hamada, <i>Obayashi Corp.</i> Kenji Shibata, <i>Chuden Engineering Consultants Co., Ltd.</i> Syuji Watanabe, <i>Fukuda Corporation</i> Masatoshi Kobayashi, <i>Mitsuboshi Belting Ltd.</i> Michio Iba, <i>Eight-Japan Engineering Consultants Inc.</i> Takaaki Fukushima, <i>Tobishima Corporation</i> Kazuhiro Nakamura, <i>Hokkaido Research Organization</i> Hirohide Aga, <i>Yachiyo Engineering Co., Ltd.</i> Tomoyasu Kudou, <i>Environment & Biochemistry Research Institute., Ltd.</i> Michio Honda, <i>Meisei University</i> Kentaro Miyawaki, <i>Hokkaido University</i> Kazuei Ishii	p.465
Poster1	E2-6-P (in Japanese) Behavior of high carbon dioxide dissolved solution in reclaimed layer (glass bead layer) <i>Meisei University</i> ○Ayana Matsumoto, Kentaro Miyawaki	p.467
Poster2	E2-7-P (in Japanese) Study on neutralization of incineration ash layer using highly dissolved carbon dioxide solution (CO ₂ -UFB water) (Part 2) <i>Meisei University</i> ○Kentaro Miyawaki, Tomohiro Kishi, Ayana Matsumoto	p.469

E3 Leachate/ Landfill gas **【Sept 12 (Tue) 9:00–10:30 Venue#7】**

Chair : Hideki Yoshida (Muroran Institute of Technology) Co-chair : Kazuei Ishii (Hokkaido University)

E3-1-O	(in Japanese) The relationship of CH ₄ gas emission from the landfill site and the fluctuation of atmospheric pressure <i>Matsuyama City</i> ○Dai Koyama, Fujio Shiomi, Yosuke Yatsuzuka, <i>CTI engineering Co., Ltd.</i> Takiya Wada, Rika Makino, <i>Kyushu University</i> Takayuki Shimaoka	p.471
E3-2-O	(in Japanese) Study of Change in Leachate Stored in a Regulating Reservoir by Long-term Prediction Using the Leachate Generation Model <i>Hokkaido University</i> ○Kazuei Ishii, Mei Narita, Satoru Ochiai, Geun-Yong Ham	p.473
E3-3-O	(in Japanese) Quantitative Analysis Results of Leachate Collected at Five Municipal Waste Final Disposal Sites in Fukushima Prefecture <i>Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation</i> ○Kazuyuki Takase, Kazuaki Kusakabe, Kouki Kokubun	p.475
E3-4-O	(in Japanese) Study on electrical treatment of leachate <i>Fukuoka University</i> ○Jiaying Liu, Lingjie Yu, Jianlei Pan, Kazuo Tameda, <i>NPO Environmental Technical Support Network</i> Sotaro Higuchi	p.477
E3-5-O	Leachate management in landfills using capping <i>Kobelco Eco-Solution Co., Ltd.</i> ○Shiro Toyohisa, Naomi Fujiwara, <i>ERC TAKAJO Co., Ltd.</i> Ayumi Morioka, Yasuhiro Miyago, <i>Fukuoka University</i> Kenichi Sato	p.479
E3-6-O	Effect of Blue Light for Nitrite Accumulation on Shortcut Nitrogen Removal <i>Yonsei University</i> Yejin Lee, Hyunsoo Lim, ○Seunga Kim, Joonhong Park	p.481
Poster1	E3-7-P (in Japanese) Simulation of landfill gas compositions in landfill gas extraction wells at a closed sanitary landfill <i>Muroran Institute of Technology</i> ○Ayaka Ito, Hideki Yoshida	p.483

- Poster2 E3-8-P (in Japanese) Adaptability of physical adsorption treatment to residual chelates and chelates derived COD and T-N p.485
Fukuoka University ○Jianlei Pan, Lingjie Yu, Kazuo Tameda, Jiaying Liu,
GE lab analysis Corporation Masanobu Uchida, *NPO Environmental Technical Support Network* Sotaro Higuchi
- Poster1 E3-9-P Detection of microplastics in municipal waste landfill leachate p.487
Mokpo National Maritime University ○Nawon Kim, Gayeong Lee, Yong-jin Kim

E4 Elution of harmful substances/ Soil pollution 【Sept 12 (Tue) 10:45–12:15 Venue#7】

Chair : Hirofumi Sakanakura (National Institute for Environmental Studies)

Co-chair : Yoshinori Yabuki (Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture)

- E4-1-O (in Japanese) Insolubilization of Pb by excessively added chelating agent in chemical-stabilized fly ash p.489
Osaka City University (Hitachi Zosen Corporation) ○Keisuke Takubo,
Osaka Metropolitan University Satoshi Mizutani, Yoshinori Kanjo, Hirokazu Toshimi
- E4-2-O (in Japanese) Relationship between the age of landfills and PFAS concentrations in leachate p.491
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture ○Yoshinori Yabuki, Junko Ono,
 Yuto Ido, Koji Ito, Arisa Banno,
Hyogo Prefectural Institute of Environmental Sciences Chisato Matsumura, *Osaka Metropolitan University* Satoshi Mizutani,
National Institute for Environmental Studies Hidenori Matsukami, Yuka Ogata, Kazuto Endo
- E4-3-O (in Japanese) The removal performance of organic matter and nitrogen by floating constructed wetland for landfill leachate in Japan p.493
National Institute for Environmental Studies ○Yuka Ogata, Hidenori Matsukami, Hiroyuki Ishimori
- E4-4-O Accelerated weathering of bio- and oxo-degradable plastics and their biodegradability under soil conditions p.495
Hokkaido University ○Geun-Yong Ham,
National Institute for Environmental Studies Kanami Nagamoto, Tomonori Ishigaki, Masato Yamada
- E4-5-O The impact of dissolved CO₂ on the biological treatment process p.497
Kyonggi University ○Su Young Choi, Hyeok June Kwon, Sung Chul Kim, Soon Woong Chang
- E4-6-O Development of electrochemical T-N removal and ammonia-hydrogen conversion system for Landfill-leachate Treatment p.499
Yonsei University ○Eun kyung Byun, Juwon Lee, Hyung-il Kim
- Poster2 E4-7-P (in Japanese) Effect of by-product biochar addition on oil degradation using microbial formulations p.501
Fujita ○Shota Masaki, Hiroshi Kubota, Yoichiro Murakami, Hibiki Kurasawa, Shota Fukuro
- Poster1 E4-8-P (in Japanese) Elution behavior of heavy metals in woody biomass ash that fixes CO₂ by carbonation under low liquid-solid ratio p.503
Fujita ○Kouga Shigeizumi, Hiroshi Kubota, Haruna Kochi, Shota Masaki, *Nihon University* Kazunori Nakano
- Poster2 E4-9-P (in Japanese) Development of leaching model of chloride ion from cement-solidified fly ash p.505
Miyazaki University ○Yutaka Dote, Tomoo Sekito

F1 Analysis/ Estimation of harmful substances 【Sept 11 (Mon) 9:30–10:45 Venue#4】

Chair : Satoshi Mizutani (Osaka Metropolitan University)

Co-chair : Tomohiro Naruoka (Environmental Sanitation Research Center of Tottori Prefecture)

- F1-1-O (in Japanese) Panel data analysis of atmospheric perfluoroalkyl substances (PFASs) concentrations p.507
Kyoto University ○Akihito Iwamoto, Yasuhiro Hirai, Junichiro Koshiba
- F1-2-O Toxicity Potentials of Mercury Emission and Release: A Case Study in Waste Treatment Sector in China p.509
Okayama University ○Habuer, Takeshi Fujiwara, *Kyoto University* Masaki Takaoka
- F1-3-O (in Japanese) Study of differential determination of trivalent/hexavalent chromium using a chelating resin for application to leachate from solid waste p.511
Osaka Metropolitan University ○Fumika Takaoka, Satoshi Mizutani, *Kanazawa University* Hiroshi Hasegawa,
National Environmental Research and Training Institute Eiji Fujimori
- F1-4-O (in Japanese) Detection of asbestos by staining with dyes for the building materials wasted at disaster and demolition sites p.513
Saga University ○Masaaki Harada, Mukuta Haraguchi, Mitsunori Yada, Tomoya Umehara, Hisho Furukawa
- F1-5-O (in Japanese) Development of flow monitoring system based on in-pipe noise analysis p.515
Kawasaki Heavy Industry ○Shohei Yamakawa, Hirokazu Kanda, Ryo Ogura, Koya Takeda
- Poster1 F1-6-P (in Japanese) Application of simple analytical methods in the monitoring of harmful elements on its removal processes from incinerated ash p.517
Yokkaichi University ○Masaaki Takahashi, Yukimasa Takemoto, Seiji Iwasaki,
Okamoto-doseki Kogyo Ltd. Tadaharu Kado
- Poster2 F1-7-P (in Japanese) The investigation of PFAS extraction conditions from waste activated carbon adsorbed PFAS p.519
Konoike Construction Co., Ltd. ○Toshihiro Hirao, Sho Oyama, *Mizuken* Tomoko Nakai, Takeshi Yonezawa
- Poster1 F1-8-P (in Japanese) Evaluation of Carbonate in Incineration Ash Before and After Carbonation by Step-heating Carbon Analysis p.521
Fujita ○Haruna Kochi, Hiroshi Kubota, Kouga Shigeizumi, Shota Masaki,
Horiba Techno Service Co., Ltd. Mai Sakaguchi, Satoru Tanaka

- Poster2 F1-9-P (in Japanese) Attempt to determine the amount of asbestos waste disposal based on public data p.523
National Institute for Environmental Studies ○Takashi Yamamoto, Kohji Yamada, Kyoko Takata
- Poster2 F1-10-P A Study on the Prediction and Evaluation of PRB Reactive Materials by Soil and Groundwater p.525
 Characteristics Using AI
University of Seoul ○Su-hee Kim, Minah Oh, Seungjin Oh, Jai-young Lee

F2 Behavior/ Treatment of harmful substances (1) [Sept 11 (Mon) 11:00–12:15 Venue#4]

Chair : Takashi Yamamoto (National Institute for Environmental Studies)

Co-chair : Gou Inoue (Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment)

- F2-1-O (in Japanese) Study on the behavior of 1,4-dioxane in industrial waste final disposal sites p.527
Fukuoka Institute of Health and Environmental Sciences ○Kazuhiro Fujikawa, Takaoki Koga, Kazuhiro Nakamura, Naruyasu Itagaki, Yuko Ishibashi, Daisuke Yasutake
- F2-2-O (in Japanese) Leached concentration of PFAS from incineration ash in leaching test with p.529
 different pH leachant
Osaka Metropolitan University ○Satoshi Mizutani, Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture Junko Ono, Yuto Ido, Yoshinori Yabuki
- F2-3-O (in Japanese) Long-term Stability of Sulfurized and Solidified Waste Mercury using Serial p.531
 Batch Leaching Test: Part 2
Osaka Institute of Technology ○Taketoshi Kusakabe, Kyoto University Shoichi Egawa, Kanta Funaki, Masaki Takaoka
- F2-4-O (in Japanese) Development of technology for suppressing mercury concentration in flue gas p.533
 using feedforward control
Kobelco Eco-Solutions ○Kenichi Maeda, Koichi Shima, Jun Fujita, Yoshio Kajihara, Nobuhiro Okuzumi
- F2-5-O (in Japanese) Analysis of horizontal diffusion of metal contamination in soil focusing on the p.535
 heavy metal retention capacity of nematodes
Osaka Metropolitan University Yui Endo, Hayato Tokumoto, Osaka Metropolitan University College of Technology ○Kensuke Kurahashi
- Poster2 F2-6-P (in Japanese) Relationship between crystalline phase compositions in municipal solid waste p.537
 incineration fly ash and elution mechanism before and after elution test
Meiji University ○Hibiki Shirata, Rina Sekino, Taiga Kaseda, Rigaku Atsushi Ohbuchi, Wataru Matsuda, Meiji University Narihito Ogawa, Yuya Koike
- Poster1 F2-7-P (in Japanese) Reduction of Mercury in Exhaust Gas by Controlling the Amount of Drain Water p.539
 for Wet Scrubber
Osaka City Research Center of Environmental Science ○Akito Takakura, Junji Masuda
- Poster2 F2-8-P (in Japanese) Insolubilization treatment of heavy metals in Municipal Solid Waste Incineration p.541
 fly ash by water repellent treatment blended with fatty acids
Meiji University ○Shunsuke Hashizume, Rina Sekino, Yuka Akino, Taiga Kaseda, Rigaku Atsushi Ohbuchi, Meiji University Narihito Ogawa, Yuya Koike
- Poster1 F2-9-P (in Japanese) Insolubilization of heavy metals in Municipal Solid Waste Incineration fly ash by p.543
 geopolymer solidification using akadama soil
Meiji University ○Rina Sekino, Yuuki Umezawa, Rigaku Wataru Matsuda, Meiji University Yuya Koike
- Poster1 F2-10-P Detection of Microplastics and Leaching Characteristics of Heavy Metals from Bottom Ashes of p.545
 Municipal Waste Incinerators
Mokpo National Maritime University ○Gayeong Lee, Nawon Kim, Yong-jin Kim

F3 Behavior/ Treatment of harmful substances (2) [Sept 11 (Mon) 13:30–15:00 Venue#4]

Chair : Ryo Hasegawa (Environmental Control Center) Co-chair : Fumitake Takahashi (Tokyo Institute of Technology)

- F3-1-O (in Japanese) Softening of disinfected wild boars infected with classical swine fever at a p.547
 temporary incineration facility in Namie Town
OYO Corporation ○Kenji Nakamura, Ministry of the Environment Takahisa Ono, Hitachi Zosen Corporation Kohzoh Yamada, OYO Corporation Taihei Kusumoto
- F3-2-O (in Japanese) Usefulness of Ion Exchange Theory in Radioactive Cs Adsorbent for High p.549
 Enrichment
National Institute for Environmental Studies ○Yuhei Tanaka, Kazuo Yamada, Kazuo Endo
- F3-3-O (in Japanese) Cognitive analysis of public perceptions and attitudes toward mercury waste p.551
 landfill - Part I: Perceived reliability to mercury immobilization technologies and prospective immobilization period for public attitude mitigation
Tokyo Institute of Technology ○Fumitake Takahashi
- F3-4-O (in Japanese) Development of decomposition treatment technology for PFASs adsorbed on p.553
 powdered activated carbon using high-temperature superheated steam generated by hydrogen combustion
Konoike Construction Co. Ltd. ○Sho Oyama, Takashi Matsuike, Takuo Nakashima, Toshihiro Hirao, Chugai Ro Co., Ltd. Tomoya Ohkubo, Noriyuki Myoga, Tomoro Kawano, Satoshi Kojima
- F3-5-O (in Japanese) Effect of thermal dechlorination on polychlorinated naphthalenes in incineration p.555
 fly ash
Osaka Metropolitan University ○Yuichiro Kawahara, Satoshi Mizutani, Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture Koji Ito, Osaka Metropolitan University Saki Aihara, Ryotaro Naoi, Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries Osaka Prefecture Yoshinori Yabuki

F3-6-O	(in Japanese) Synthesis of Mg-Fe-Al layered double oxide (LDO) and its application to arsenate anion adsorption	p.557
	<i>Tohoku University</i> ○Itsuki Takanashi, Tomohito Kameda, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Kumagai Gumi Co., Ltd. Yasuyuki Nomura, Daiki Kawamura, <i>Tohoku University</i> Toshiaki Yoshioka	
Poster1 F3-7-P	(in Japanese) A Case Study Report of Remediation of Dioxin-PCB Contaminated Soil at the DRMO Camp Market, a Former U.S. military base in Korea	p.559
	<i>TerraTherm Asia, Inc.</i> ○Hatsue Minato Braatz, Yeonho Jeon, Yutaro Shimada, Tomotaka Sakaue, <i>Hyundai Engineering and Construction</i> Hong-Seok Kim, <i>Fukuoka University</i> Kazuo Tameda, <i>Anyan University</i> Namhoon Lee	
Poster2 F3-8-P	(in Japanese) Insolubilization of heavy metals in municipal solid waste incineration fly ash by water repellent cement solidification method	p.561
	<i>Meiji University</i> ○Hidetaka Ito, Yuka Akino, Narihito Ogawa, Yuya Koike	
Poster1 F3-9-P	(in Japanese) FT-IR/ATR analysis of the surface state of municipal waste incineration fly ash treated with carboxylic acids	p.563
	<i>Meiji University</i> ○Taiga Kaseda, Narihito Ogawa, Yuya Koike	
Poster2 F3-10-P	(in Japanese) Selective separation and recovery of Sr from environmental ions by lanthanide oxalate frameworks	p.565
	<i>Japan Atomic Energy Agency</i> Takuya Nankawa, Yurina Sekine, <i>The University of Tokyo</i> ○Teppei Yamada	
Poster1 F3-11-P	(in Japanese) The Combustion Validation Test for the Proper Treatment of Waste Agricultural Chemicals containing Dicofol	p.567
	<i>Kureha Ecology Management Co., Ltd.</i> Yukihiro Oooka, Youhei Kusano, ○Masatoshi Kato	

研究発表（口頭発表・ポスター発表）

発表予定件数：284編（口頭発表：197編、ポスター発表：87編）

※ポスター発表は、1日目(Poster1)と2日目(Poster2)に開催されます。

ポスター発表 会場：3号館2階、3階、4階

Poster1: 9月11日(月) 17:00 - 18:15 / Poster2: 9月12日(火) 13:30 - 14:45

A1 ごみ発生抑制・性状分析 【12(火)9:00-10:30 第1会場】

座長：帝京大学 渡辺浩平 副座長：自然エネルギー財団 古澤康夫

A1-1-O	使い捨てプラスチックの2R行動：全国的な実態と啓発による受容可能性	p.1
	京都府立大学 ○山川肇	
A1-2-O	製品プラスチックの回収方法の違いによる排出実態に関する研究	p.3
	富山県立大学 ○佐伯孝, 森田雄大	
A1-3-O	茶系飲料のパッケージフリー販売の実現可能性と課題	p.5
	京都府立大学 ○那波夏美, 山川肇	
A1-4-O	秋田市の家庭ごみ有料化政策が生活系ごみ発生量に与える影響	p.7
	秋田大学 ○熊丸博隆	
A1-5-O	県外最終処分の実現に向けた放射性物質汚染廃棄物の処理・処分シナリオ分析	p.9
	国立環境研究所 ○三成映理子, 山田一夫, 遠藤和人, 大迫政浩	
A1-6-O	ポイ捨て・散乱ごみの回収活動に関する基礎研究(第1報)	p.11
	環境管理センター ○金子紋子, 長谷川亮, 鈴木隆央, ピリカ 三輪芳和, 土村萌, 国立環境研究所 稲葉陸太, 北海道大学 大沼進, 国立環境研究所 大迫政浩	
Poster1 A1-7-P	コロナ禍におけるテイクアウト・デリバリーの需要とプラスチックごみとの関係性の分析	p.13
	神戸大学 飯室舞, ○田畑智博	
Poster2 A1-8-P	ごみ収集事業におけるコロナ感染防止対策の実施状況について	p.15
	国立環境研究所 ○山田正人, 石垣智基, 河井紘輔, 多島良	
Poster1 A1-9-P	プラスチックリサイクル関連施設からの排水経路におけるマイクロプラスチック排出調査	p.17
	京都大学 ○恒松雅, 大下和徹, 塩田憲司, 高岡昌輝	
Poster2 A1-10-P	A survey study on Odor-Causing Substances from Livestock Waste	p.19
	Anyang University ○Hyeonjun Cho, Jinseok Yeom, Minsung Kim, Suchul Yoon	

A2 ごみ発生抑制・物質フロー分析 【12(火)10:45-12:15 第1会場】

座長：九州大学 中山裕文 副座長：京都大学 平井康宏

A2-1-O	コンジョイント分析を用いたマイボトル用給水スポットの経済的評価の研究	p.21
	大阪商業大学 ○松本青虎, 同志社大学 原田禎夫	
A2-2-O	深層学習を用いた画像認識による古紙分別支援システムの構築に関する研究	p.23
	九州大学 ○小城直也, 島岡隆行, 杉崎康弘	
A2-3-O	Waste generation and characterization by tourism sectors in Jeju Island	p.25
	Chungnam National University ○Hakyun Song, Yong-Chul Jang, Kyunghoon Choi, Byeonghwan Kim, Youngsun Kwon, Chonghee Lee	
A2-4-O	Waste Flow Analysis in Riverside Community: A Case Study of Kampung Melayu Subdistrict, Jakarta	p.27
	National Institute for Environmental Studies ○Afif Faiq Muhammad, Ryo Tajima	
A2-5-O	市町村レベルの廃プラスチックフロー推計手法の検討	p.29
	NTTデータ経営研究所・北九州市立大学 ○大久保伸, 北九州市立大学 松本亨, 藤山淳史	
A2-6-O	プラスチック漁具の海洋流出量推定のための調査手法に関する比較研究	p.31
	九州大学 ○石橋文也, 中山裕文, 清野聡子, 島岡隆行	
Poster1 A2-7-P	生活系ごみ減量化を目的とした自治体の普及啓発施策の実証分析	p.33
	群馬県衛生環境研究所 ○齊藤由倫, 近畿大学 石村雄一	
Poster2 A2-8-P	事業所等における合理的なごみ分別・回収システムの構築に関する基礎的検討	p.35
	早稲田大学 程天顯, ○劉軽寒, 小嶋大樹, 小野田弘士	
Poster1 A2-9-P	北海道における一般廃棄物中のプラスチック処理フローの推計と課題について	p.37
	北海道立総合研究機構 ○朝倉賢, 山口勝透, 阿賀裕英, 丹羽忍, 福田陽一朗, 永洞真一郎, 小野理	

A3 住民意識・環境教育 【11(月)9:30-10:45 第1会場】

座長：大阪産業大学 花嶋温子 副座長：日立造船 岩井麻衣子

A3-1-O	他者の行動が個人のごみ減量行動に与える影響	p.39
	中央大学 ○篠木幹子, 山形大学 阿部晃士	
A3-2-O	協働ロボットを適用したAI搭載資源ごみ選別作業支援システムと環境教育	p.41
	川崎重工業 ○香山実希, 本田泰崇, 中野裕, 梅本司, 桂木格	
A3-3-O	プラスチック製品におけるエコマーク・資源循環情報の消費者行動への影響	p.43
	立命館大学 ○田中大介, Sébastien M. R. Dente, 橋本征二	

A3-4-O	Content Analysis of Geopolymer Dissemination through Internet Video Sharing Platform Tokyo Institute of Technology ○Aura Amca Diputra, Fumitake Takahashi	p.45
A3-5-O	Awareness of Athletes regarding Waste and Environmental Issues Brought about Sports Tokyo Institute of Technology ○Loren Chloe Balaing, Naoya Abe	p.47
Poster2 A3-6-P	食品売場ライブ中継アプリによる食品ロス削減の取り組み 岡山大学 ○松井康弘, 岡山市 因幡亮汰, 大栄環境 高川晴名	p.49

A4 食品ロス 【11(月)11:00-12:00 第1会場】

座長：京都府立大学 山川肇 副座長：岡山大学 松井康弘

A4-1-O	Improving Food Loss Quantification in Milk Supply Chain: Case: Study in Japan and Mongolia Gakushuin University ○Erdenekhuu Unurjargal	p.51
A4-2-O	クラウド型自動計量システムを用いた食品ロス削減実験： 5つの支援ツールを用いた介入による家庭系食品ロス発生抑制への効果 京都府立大学 ○瀬田康子, 山川肇, 大正大学 岡山朋子, 帝京大学 渡辺浩平, 東京農業大学 野々村真希	p.53
A4-3-O	飲食店での食べ残しに関する消費者の意識 大正大学 岡山朋子, 中村崇, 帝京大学 ○渡辺浩平	p.55
A4-4-O	ナッジを活用した大学食堂における食べ残しの削減 大正大学 ○岡山朋子, 本間薫	p.57

A5 産業廃棄物 【11(月)13:30-15:00 第1会場】

座長：NTTデータ経営研究所 大久保伸 副座長：タクマ 松田由美

A5-1-O	ため池底泥土は廃棄物か？土砂か？ アイコ ○鶴田稔, 飛島建設 筒井雅行, アイコ 平田貴博, 小島淳一, 泥土リサイクル協会 野口真一, 西川美穂	p.59
A5-2-O	産業廃棄物処理業者における電子マニフェスト利用の現状と課題に関する考察 日本産業廃棄物処理振興センター ○佐々木基了, 藤原博良, 佐々木いづみ	p.61
A5-3-O	排出事業者における社内研修に関するアンケート調査結果 日本産業廃棄物処理振興センター ○佐々木いづみ, 藤原博良, 佐々木基了	p.63
A5-4-O	断熱仕様が住宅建設時に発生する断熱材の端材発生量に与える影響 信州大学 ○上野大樹, 高村秀紀	p.65
A5-5-O	建設汚泥の中和処理に伴う二酸化炭素の固定化 芝浦工業大学 ○椎名基貴, 中尾晃揮, 稲積真哉, 野崎興業 野崎鉄也, 早尾清司, 土屋弘子	p.67
A5-6-O	ILB舗装の敷砂層への廃ガラスカレットの適用性について 大阪工業大学 ○館山大輝, 日置和昭, 藤野興業 山本剛一, 中岡明, 関西地盤環境研究センター 服部健太	p.69
Poster1 A5-7-P	北海道における使用済み太陽光パネルが最終処分場の残余容量へ与える影響の検討 北海道立総合研究機構 ○福田陽一朗, 朝倉賢, 山口勝透	p.71

B1 廃棄物管理・計画(1) 【11(月)13:30-15:00 第3会場】

座長：エックス都市研究所 堀井安雄 副座長：京都大学 原田浩希

B1-1-O	防災機能を持つ市街地清掃工場の立地に関する研究 その8 — 繁華街に隣接する渋谷清掃工場周辺地域における住民意識調査— 日本大学 ○橋本治, 宇於崎勝也, 金島正治, 日本環境管理学会 三橋博巳	p.73
B1-2-O	ごみ処理の広域化へ向けた、廃棄物発電施設間の分担処理への数値最適化適用 川崎重工業 ○山根雄, 橋本康平, 國政瑛大, 竹田航哉	p.75
B1-3-O	最適経路探索シミュレーションを実装したピットクレーン高度自動運転システム 三菱重工業 ○松本慎治, 郡司駿, 岩下信治, 瀬戸口稔彦, 三菱重工環境・化学エンジニアリング 高橋克博, 林慶一, 寺沢良則, 江草知通	p.77
B1-4-O	固体吸収材を用いたCO ₂ 回収技術のごみ処理施設排ガスへの展開 川崎重工業 ○沼口遼平, 奥村雄志, 西部祥平, 山口貴大, 熊田憲彦, 成相俊文, 菊永拓馬, 岩村宗千代, 竹田航哉	p.79
B1-5-O	清掃工場におけるバイオガス化とメタネーション導入の環境性 エックス都市研究所 ○西村富男, 橋本岳, 吉川克彦, 大阪ガス 秋元真也, 坪田潤	p.81
B1-6-O	最終処分から提言する廃棄物管理システム NPO環境技術支援ネットワーク ○樋口壯太郎	p.83
Poster2 B1-7-P	インフラ連携に着目した廃棄物処理システムの環境性・経済性評価 早稲田大学 ○黄楠, 小川聡久, 小野田弘士	p.85

B2 廃棄物管理・計画(2) 【11(月)15:15-16:45 第3会場】

座長：北海道大学 石井一英 副座長：三重県 西田憲一

B2-1-O	リバウンドを考慮したクローズド自己酸化法による下水処理経費削減の検証 富山県立大学 ○立田真文, 関藤良子, ショウエイコンサル 高部芳基, 渡辺正志	p.87
B2-2-O	ライフサイクル評価に基づく廃プラスチックリサイクルの最適選択に関する研究 北九州市立大学 ○叢日超, 藤山淳史, 松本亨	p.89
B2-3-O	社会的投資収益率を用いた紙循環プロジェクトの評価とそれに基づくSDGs評価 北九州市立大学 ○藤山淳史, 永松弥歩, 松本亨	p.91

B2-4-O	ゴミ箱の廃棄物回収量予測モデルの検討(ペットボトル・缶) 東京工業大学 ○和田万里奈, KDDI総合研究所 経沢正邦, 杉山浩平, 東京工業大学 高橋史武	p.93
B2-5-O	北海道内市町村の家庭ごみの分別・排出に関する情報提供手段および支援制度の現状分析 北海道大学 ○川原ゆい, 石井一英, 落合知, Ham Geun-Yong, 岸邦宏	p.93
B2-6-O	Paddy Farmers' Perception of Solid Waste Compost as an Organic Fertilizer Supplement in Sri Lanka Toyo University ○Fernando Chamila Jeewanee, Aramaki Toshiya	p.97
Poster1 B2-7-P	A feasibility study on the utilization of tea and coffee waste as a raw material in compost production in the Khartoum state- Sudan Toyo University ○Rania Elsadig, Toshiya Aramaki	p.99
Poster2 B2-8-P	The Development of Urban Cleanliness Evaluation Indicators in A-City by The Analytic Hierarchy Process (AHP) University of Seoul ○Jeong-hyun Lee, Dong-kyu Park, Jai-young Lee	p.101

B3 災害廃棄物の管理・計画 【12(火)9:00-10:15 第3会場】
座長：神戸大学 田畑智博 副座長：国立環境研究所 多島良

B3-1-O	化学汚染廃棄物対策への活用を見据えたす切り以下データを含む化学物質排出量の推計 大阪公立大学 ○池田歩夢, 水谷聡, 大阪府立環境農林水産総合研究所 中村智	p.103
B3-2-O	廃棄物組成推計に用いる近赤外線領域スペクトル情報取得方法に関する検証 大成建設 ○橋本宏治, 宮田涼平, 大久保英也, パスコ 佐藤俊明, ディープ・センシング・イニシアティブ 小杉幸夫	p.105
B3-3-O	広島市を対象とした災害廃棄物の一次仮置場における官民連携の課題 復建調査設計 ○三上貴士, 桐生侑恵, 広島県資源循環協会 政藤信夫	p.107
B3-4-O	災害廃棄物処理に関する住民連携の取組み実態に関する研究 国立環境研究所 ○多島良, 森嶋順子, 廃棄物・3R研究財団 夏目吉行, 飯田勝平	p.109
B3-5-O	プロジェクションマッピングを活用した災害廃棄物ワークショップの状況付与シナリオに関する考察 名古屋大学 ○平山修久, 野村一保, 福和伸夫	p.111

B4 ごみ文化・歴史 【12(火)10:45-11:45 第3会場】
座長：SWAN-FUKUOKA 松藤康司 副座長：タクマ 長岡耕平

B4-1-O	シンガポールの公共廃棄物収集業者(Public Waste Collectors) 拓殖大学 ○横沢泰志	p.113
B4-2-O	技術協力における廃棄物処理プロジェクトへの自己組織化が及ぼす影響の研究 —エントロピーによるプロジェクトの評価— 東洋大学 ○石井明男	p.115
B4-3-O	大井清一 京都帝国大学教授、京都市会議員に当選する ごみ文化歴史研究会 ○山崎達雄	p.117
B4-4-O	1991年廃棄物処理法改正を受けての地方公共団体の対応—八王子市の事例から— NPO法人八王子市民活動協議会 ○中川和郎	p.119

B5 LCA・低炭素社会(1) 【11(月)9:30-10:45 第3会場】
座長：国立環境研究所 稲葉陸太 副座長：大正大学 岡山朋子

B5-1-O	プラスチック資源循環に関するロジックモデルの作成 国立環境研究所 ○吉田綾, 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 細井山豊, 兼澤真吾, 萩原理史, 加山俊也	p.121
B5-2-O	家庭系一般廃棄物中プラスチックの素材代替による温室効果ガス削減効果 京都大学 ○矢野順也, 荏原製作所 廣田和暉, 京都大学 平井康宏, 京都高度技術研究所 酒井伸一	p.123
B5-3-O	清掃工場の排ガスを原料としたメタネーション実証(環境省委託事業) 日立造船 ○中田谷直広, 坂元真理子, 重政祥子, 大地佐智子	p.125
B5-4-O	人口減少地域における将来の可燃ごみ処理に伴うエネルギー消費及び生産に係るシナリオ分析 国立環境研究所 ○河井紘輔, 石川県立大学 楠部孝誠, 京都大学 大下和徹	p.127
B5-5-O	マテリアルフロー分析とCO ₂ 排出量算定に基づくプラスチック循環利用の未来像に関する考察 三菱総合研究所 ○永瀬萌, 齋藤有美, 作田純一, 古木二郎	p.129
Poster1 B5-6-P	資源循環・廃棄物管理と他分野とのトレードオフの分類 国立環境研究所 ○稲葉陸太, MUHAMAD Afif Faiq, 山本悠久, 鈴木薫, 多島良, 河井紘輔, 吉田綾, 小口正弘, 田崎智宏	p.131

B6 LCA・低炭素社会(2) 【11(月)11:00-12:15 第3会場】
座長：国立環境研究所 河井紘輔 副座長：北海道大学 Ham Geun-Yong

B6-1-O	都市ごみ焼却施設からの温室効果ガス排出削減シナリオ:電力のCO ₂ 排出係数の影響 立命館大学 ○Yichen Ge, 橋本征二	p.133
B6-2-O	住家被害による家屋解体及び運搬に伴うCO ₂ 排出量評価手法の検討 名古屋大学 ○大杉裕康, 平山修久	p.135
B6-3-O	ごみ処理広域化における最適施設配置の検討:2050年京都府の事例研究 京都大学 ○平井康宏, 牧野斗威, 矢野順也	p.137

B6-4-O	A Study on greenhouse gas emissions from MSW incineration in South Korea Chungnam National University ○Chonghee Lee, Yong-Chul Jang, Kyoungsoon Choi, Choong Real Baek, Hakgyun Song	p.139
B6-5-O	Life cycle assessment of the single use plastic bag ban in Kenya Kyoto University ○Isaac Omondi, Misuzu Asari	p.141
Poster2 B6-6-P	廃棄物処理施設へのCCUS技術導入の理論的枠組みとしての数値最適化モデルの提案 パシフィックコンサルタンツ ○長野尚也, 直井宏樹, 永友佑, 山本圓, 井伊亮太	p.143

C1 容器包装・プラスチック(1) 【11(月)15:15-16:45 第4会場】

座長：東京大学 中谷隼 副座長：東京大学 布浦鉄兵

C1-1-O	しいたけ形成菌フタ材に用いる生分解性プラスチックの開発 公立鳥取環境大学 ○銅山裕之, 銚田市 内田怜那, 公立鳥取環境大学 金相烈	p.145
C1-2-O	近赤外分光特性を用いたMT法によるプラスチックの判別 東京都立産業技術大学院大学 ○越水重臣, 香田健一朗	p.147
C1-3-O	食品容器包装プラスチックの樹脂などの組成分析及び判別方法について 東京都環境公社 東京都環境科学研究所 ○小泉裕靖, 寺嶋有史, 辰市祐久, 長谷川明良	p.149
C1-4-O	バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)の回収・バイオガス化に関する研究 大阪ガス ○坪田潤, 秋元真也, 宮崎準平	p.151
C1-5-O	使用済紙おむつの分別処理技術に関する研究 -破袋機能の追加検討- 栗田工業 ○梅本麻由, 徳富孝明	p.153
C1-6-O	高温水蒸気ガス化技術を用いたプラスチックからの可燃性ガス製造に関する基礎研究 長崎総合科学大学 ○中道隆広, 岩永和真, 本田龍星, 熊本県立大学 石橋康弘, 長崎総合科学大学 村上信明	p.155
Poster1 C1-7-P	近赤外線分光光度計によるプラスチック判別における判別精度向上に関する研究 東京都環境公社 東京都環境科学研究所 ○寺嶋有史, 辰市祐久, 長谷川明良, 小泉裕靖	p.157
Poster2 C1-8-P	廃プラスチック分別縦型沈降分離装置の設計と実験 中部大学 行本正雄, 平手久徳, ○田畑星夏	p.159
Poster1 C1-9-P	産業用コンポスト環境でのポリ乳酸厚肉成型体の形状崩壊に対する金属水酸化物難燃剤の影響評価 日立製作所 ○森俊介, 日立Astemo 石井利昭	p.161
Poster2 C1-10-P	Investigation of Marine Biodegradability and Biocompatibility of KP-PVA Eco-Friendly Packaging Materials KAIST ○Jaewook Myung	p.163

C2 容器包装・プラスチック(2) 【12(火)9:00-10:30 第4会場】

座長：エクス都市研究所 秦三和子 副座長：東京工業大学 高橋史武

C2-1-O	国際的な廃棄物処理支援とプラスチック廃棄物貿易に関する実証分析 山梨英和大学 ○野村魁, 近畿大学 石村雄一	p.165
C2-2-O	EPRからみたイギリス, 日本の近時のプラスチック資源循環政策の分析 早稲田大学 ○板橋千明, 野津喬	p.167
C2-3-O	福岡筑後地域におけるプラスチック樹脂組成調査(第2報) 福岡大学 ○鈴木慎也, 菊澤育代, 北九州市立大学 藤山淳史, 九州大学 早瀬百合子, 北九州市立大学 松本亨, 九州大学 近藤加代子	p.169
C2-4-O	全国市町村におけるプラスチック廃棄物の排出量推計と要因分析 東京大学 ○田畑智佑, 中谷隼, 林徹, 藤田壮	p.171
C2-5-O	PHBH製食品容器を導入した資源循環システムのライフサイクル分析 京都大学 ○山田大智, 矢野順也, 酒井寛太郎, 平井康宏, 京都高度技術研究所 酒井伸一	p.173
C2-6-O	脱炭素化に向けた従来プラスチックのリサイクルと素材代替の均衡点分析 東京大学 ○平田一馬, 中谷隼, 小原聡, 翠田文, 林徹, 藤田壮	p.175
Poster1 C2-7-P	リサイクルを通じたプラスチック循環への樹脂添加剤流入の懸念に関する考察 国立環境研究所 ○小口正弘, 梶原夏子, 寺園淳	p.177

C3 容器包装・プラスチック(3) 【12(火)10:45-12:00 第4会場】

座長：東北大学 齋藤優子 副座長：エクス都市研究所 中石一弘

C3-1-O	新型コロナウイルス感染症拡大によるスチール缶資源化への影響 ダイナックス都市環境研究所 ○北坂容子, 佐久間信一, スチール缶リサイクル協会 中田良平	p.179
C3-2-O	プラスチック製品に対する環境配慮行動の心理学的規定因の分析 京都大学 ○安藤悠太, 横井晴紀, 浅利美鈴	p.181
C3-3-O	プラスチックの一括回収による影響の調査と対策の検討 国立環境研究所 ○山本悠久, 稲葉陸太, 小口正弘, 河井紘輔, エクス都市研究所 小川佳代子, 根本康男, 国立環境研究所 田崎智宏	p.183
C3-4-O	プラスチックの回収システム構築に向けたバリューチェーンの工程別課題に関する研究 福岡大学 ○菊澤育代, 鈴木慎也	p.185
C3-5-O	トンレサップ湖水上集落におけるプラスチックごみ分別・リサイクル事業 岡山大学 ○藤原健史, 築地淳, 哈布尔, 王立ブノンベン大学 Vin Spoann, Phat Chandara	p.187

Poster2 C3-6-P 商業施設の廃プラスチックの回収方法および再生可能性に関する研究 p.189
 福岡大学 ○菊澤育代, レコテック 野崎衛, 大村拓輝, 新興産業 田中毅, 福岡大学 八尾滋, 鈴木慎也

C4 建設廃棄物・その他無機廃棄物 【11(月)9:30-10:45 第5会場】
 座長：早稲田大学 加茂徹 副座長：エックス都市研究所 渡辺泰介

- C4-1-O 残コンを再利用したブロック製品の形状に関する全国調査 p.191
 北海道大学 ○北垣亮馬, 和歌山県生コンクリート工業組合 大前祐樹, 三豊産業 竹内弓恵
- C4-2-O 副産物を利用したジオポリマーの検討 p.193
 大林組 ○宮本航雅, 三浦俊彦, 木村志照, 諸富鉄之助, 長谷川宏
- C4-3-O 建設汚泥等の再生品の利用促進手法に関する一考察 p.195
 産業廃棄物処理事業振興財団 ○山脇敦, 埼玉県環境科学国際センター 川寄幹生, 先端建設技術センター 新妻弘章
- C4-4-O コンクリート殻から海水への六価クロムの溶出挙動 p.197
 国立環境研究所 本條貴之, ○肴倉宏史
- C4-5-O サイディング切粉の地盤改良材としての可能性 p.199
 芝浦工業大学 ○加藤遥馬, 稲積真哉, アーネストワン 九万田浩介, 吉田隆久, 土地地質 橋本亮
- Poster1 C4-6-P ペーパースラッジ灰により改質したアルカリ建設汚泥のCO₂養生に伴う効率的な中性化条件に関する基礎的研究 p.201
 横浜国立大学 ○坂口綾, 早野公敏, Su Myat Mon, domi環境 山内裕元
- Poster2 C4-7-P クリンカッシュ中ホウ素の溶出量変動とその要因解明に関する研究 p.203
 宮崎大学 ○福田理人, 関戸知雄, 土手裕

C5 自動車・電池および強電機器 【11(月)11:00-12:00 第5会場】
 座長：国立環境研究所 寺園淳 副座長：日本環境衛生センター 寺内清修

- C5-1-O 中古車の貿易構造の把握における課題 p.205
 山口大学 ○阿部新
- C5-2-O 太陽電池モジュールEL画像を用いた出力特性(発電量)評価 p.207
 東芝環境ソリューション ○諸澤泰裕, 熊倉信行, 岡田光晴, 瀧澤孝司, 岡田耕一
- C5-3-O 使用済み小型リチウムイオン電池からのフッ素回収 p.209
 東北大学 森田宜典, ○齋藤優子, 熊谷将吾, 亀田知人, 白鳥寿一, 吉岡敏明
- C5-4-O RFIDタグを用いたリチウムイオン電池の検知におけるタグの受信性能に関する研究 p.211
 九州大学 ○相原愛里子, 島岡隆行, 榊原恒治, 伊藤憲司, 金谷晴一
- Poster1 C5-5-P リチウムイオン電池リサイクル原料の蛍光X線分析における試料調製法の検討 p.213
 リガク ○王諒群, 松田渉, 高原晃里, 森山孝男
- Poster2 C5-6-P 使用済み太陽光パネルの適正処理に関する調査:収集運搬の効率化に注目して p.215
 国立環境研究所 ○山本悠久, AfifFaiq Muhamad, 三成映理子, Yago Guida

C6 廃電気電子製品 【12(火)9:00-10:30 第5会場】
 座長：ヴェオリア・ジャパン 宮川英樹 副座長：エックス都市研究所 山口直久

- C6-1-O 廃電子基板に及ぼす鉄の効果と反応機構の解析 p.217
 東北大学 ○下村亘, 齋藤優子, 熊谷将吾, 亀田知人, DOWAメタルマイン 中川原聡, 堀内章芳, 渡邊宏満, 東北大学 吉岡敏明
- C6-2-O 静電選別におけるプラスチック原料組成比の季節変動を考慮した選別条件適正化法の検討 p.219
 三菱電機 ○黒田真司, 衣川勝, 中村保博, 三木伸介, 筒井一就
- C6-3-O 廃棄物処理施設におけるリチウムイオン電池起因の発火等事象の発生状況 p.221
 国立環境研究所 ○寺園淳, 小口正弘, みずほリサーチ&テクノロジーズ 萩原透, 友澤弘充
- C6-4-O 使用済み家電のリユース(PfR)の拡大に関する調査研究 p.223
 ヤマダホールディングスによる PfR 事業の調査結果
 九州大学 ○郭欣然, 近藤加代子, ヤマダホールディングス 清村浩一
- C6-5-O 低環境負荷電池の構築及び廃棄時の環境影響の検討 p.225
 日本電信電話 NTT先端集積デバイス研究所 ○林政彦, 阪本周平, 岩田三佳誉, 大久保匠, 野原正也, 田口博章, 荒武淳
- C6-6-O 廃家電から回収したポリプロピレン廃材の難燃リサイクル材の耐久性評価手法 p.227
 シャープ ○上田拡充, 荒井辰哉, 戸田明秀

C7 堆肥化・飼料化 【11(月)9:30-10:45 第6会場】
 座長：長崎大学 小山光彦 副座長：北海道大学 石井一英

- C7-1-O Improvement of Composting Efficiency in Kaluthara Composting plant, Sri Lanka through Introduction of a Forced Aeration System p.229
 EX Research Institute Ltd. ○Cherki Mohamed Hamza, Sato Naofumi, Sri Lanka Waste Management Authority Nalin Mannapperruma, Palitha Udayanaga, Peradeniya University Anurudda Karunarathna

C7-2-O	Composting Strategies Using Agricultural Waste for Recirculation of Agricultural Organic Resources	p.231
	Kyonggi University ○Donggyu Bang, Soonwoong Chang, Van Hong Thi Pham, National Institute of Agricultural Science JaeHong Shim, Kyonggi University Woojin Chung	
C7-3-O	Effect of leachates' inoculation and particle size on the composting time of the organic fraction of municipal solid waste in Bordo Poniente, Mexico City	p.233
	CIEMAD IPN ○Tovar-Galvez Luis, Rodriguez-Tapia Claudia	
C7-4-O	太陽電池を用いた動電学的手法による作物生産性向上の検討	p.235
	東京農業大学 ○トウナロン, 小川航平, 中村貴彦	
C7-5-O	発泡ガラス材を用いたアンモニア脱臭の数値モデル化に関する研究	p.237
	北海道大学 ○中嶋彩乃, 落合知, Ham Geun-Yong, 石井一英	
Poster1 C7-6-P	食品廃棄物メタン発酵施設における窒素及びリン分析に基づく堆肥の品質安定性に関する研究	p.239
	北海道大学 ○東恵之, Ham Geun-Yong, 石井一英, 落合知	

C8 バイogas化・燃料化 【11(月)11:00-12:15 第6会場】

座長：豊橋技術科学大学 大門裕之 副座長：富士クリーン 八代直久

C8-1-O	食品廃棄物バイオガスプラントにおける発酵阻害回避に関する基礎的研究	p.241
	パシフィックコンサルタンツ ○遠藤太一, 北海道大学 石井一英, 落合知, Geun-Yong HAM	
C8-2-O	有機系ごみ炭化による埋立て回避と製鉄プロセスでの石炭置換構想	p.243
	日本製鉄 ○関屋政洋, 小林一暁, 吉野博之	
C8-3-O	食品廃棄物をタンパク源としたエタノール発酵とタンパク質の資化	p.245
	福岡大学 ○加藤賢馬, 石田奈菜, 戸高昌俊, 重松幹二	
C8-4-O	Catalyst efficiency evaluation study according to Ni catalyst for DRM (Dry Reforming of Methane) application in bio facility	p.247
	Kyonggi University ○Ga Young Lim, Ha Young Cho, Jeong Yoon Ahn, Woo Jin Chung, Soon Woong Chang	
C8-5-O	Bioaugmentation using genetically overexpressed <i>Clostridium acetobutylicum</i> ATCC 824 for biohydrogen production	p.249
	Yonsei University ○Hwan-Hong Joo, Young-Bo Sim, Saint Moon Kim, Jisu Yang, Ashutosh Kumar Pandey, Jeun Ko, Youngkyu Lee, Sang-Hyouon Kim	
Poster2 C8-6-P	液相を泡沫状態で保持するバイオメタネーションリアクタ	p.251
	大阪工業大学 ○丁含含, 古崎康哲	
Poster1 C8-7-P	Anaerobic digestion evaluation to get AI (artificial intelligence) applicable data with a variable organic loading rate (OLR) and microbial analysis	p.253
	Kyonggi University ○Min Gyu Kim, Su Hwan Kim, Soon Woong Chang, Woo Jin Chung	
Poster2 C8-8-P	清掃工場におけるバイオガス化及びメタネーションのモデルに関する検討	p.255
	エックス都市研究所 ○橋本岳, 西村富男, 吉川克彦, 大阪ガス 秋元真也, 坪田潤	

C9 メタン発酵(1) 【11(月)13:30-15:00 第6会場】

座長：富士クリーン 町川和倫 副座長：創価大学 中崎清彦

C9-1-O	嫌気性MBRによる液体酪農バイオマスのメタン発酵特性評価	p.257
	神戸大学 ○池田文仁, 吉田弦, 井原一高	
C9-2-O	バイオ炭の添加によるメタン発酵連続運転におけるアンモニア阻害の克服	p.259
	神戸大学 ○上野和隆, 吉田弦, Mohamed Farghali, 井原一高, 帯広畜産大学 梅津一孝	
C9-3-O	消化汚泥へのゼロ価鉄添加がメタン濃度およびメタン発生量に及ぼす影響	p.261
	神鋼環境ソリューション ○竹崎潤, 赤司昭	
C9-4-O	資源作物ジャイアントミスカンサスの粉碎前処理がメタン発酵に及ぼす影響	p.263
	北海道大学 ○落合知, 田中大賀, Ham Geun-Yong, 石井一英	
C9-5-O	木質燃焼灰を負荷したバイオマス熱分解で生成したバイオ炭の特性とメタン発酵促進効果	p.265
	国立環境研究所 ○小林拓朗, 倉持秀敏	
C9-6-O	グリセリン嫌気発酵分解における細菌叢変化の解析と動態把握	p.267
	大阪公立大学工業高等専門学校 倉橋健介, 大阪公立大学 道繁健太, ○徳本勇人	
Poster1 C9-7-P	メタン発酵消化液に含まれるアンモニア体窒素の分離と濃縮による再資源化の検討	p.269
	三重県工業研究所 ○松浦真也, 村山正樹, 前川明弘, 大栄工業 川岡孝督, 神寄康之	
Poster2 C9-8-P	ミニバイアルとパイロットプラントを用いた嫌気発酵プロセスのスケールアップ検証	p.271
	出光エンジニアリング ○宮崎克, 林幹人, 小西俊久, 増田陸, 森田敏史, 大阪公立大学工業高等専門学校 倉橋健介, 大阪公立大学 岡本和也, 徳本勇人	

C10 メタン発酵(2) 【11(月)15:15-16:30 第6会場】

座長：神鋼環境ソリューション 竹崎潤 副座長：豊橋技術科学大学 大門裕之

C10-1-O	国内で初めて導入した縦型乾式メタン発酵システムの稼働状況	p.273
	富士クリーン 町川和倫, ○八代直久, 金城寿人, 豊橋技術科学大学 金子光瑠, 大門裕之	
C10-2-O	海洋肥沃化のためのメタン発酵消化液ペレットによる栄養塩溶出および藻類増殖特性の評価	p.275
	神戸大学 ○川井拓真, 吉田弦, 井原一高, 広島大学 浅岡聡	
C10-3-O	電圧印加や各種アクセラレータの併用が嫌気性消化のメタン生成効率に与える効果	p.277
	豊橋技術科学大学 ○宮里真珠, 今井裕之輔, 豊橋バイオマスソリューションズ 熱田洋一, 豊橋技術科学大学 大門裕之	

C10-4-O	負荷上げショックにおける生ごみCSTRメタン発酵システムパラメータの変化解析研究 東北大学 ○王旭, 任媛媛, 曾慶康, 李玉友	p.279
C10-5-O	Assessing the Practicality of an Artificial Neural Network (ANN) Model for Monitoring and Forecasting the Continuous Anaerobic Digestion of Waste Sludge Yonsei University ○Soyoung Park, Ashutosh Kumar Pandey, Gi-Beom Kim, Sang-Hyouon Kim	p.281
Poster1 C10-6-P	脱炭素社会に向けた地域特性に応じた牛ふん由来のバイオガス利用方法の選択に関する研究 北海道大学 ○高橋実乃理, 石井一英, 落合知, Ham Geun-Yong	p.283
Poster2 C10-7-P	透析バッグを用いた微細藻類の培養と回収可能性に関する研究 北海道大学 ○澤田啓太, Jumana Al-mallahi, 石井一英, 落合知, Ham Geun-Yong	p.285

C11 汚泥・その他有機廃棄物 【12(火)9:00-10:15 第6会場】

座長：北海道大学 落合知 副座長：岐阜大学 小林信介

C11-1-O	Optimization of Selective Oxidation Catalyst Process for Hydrogen Sulfide Resource Recovery Kyonggi University ○Jun Oh Kim, Sung Su Kim, Soonwoong Chang	p.287
C11-2-O	アマモの発芽と成長に対する下水から回収したMAPの施肥試験 立命館大学 ○田邊裕樹, 惣田訓	p.289
C11-3-O	下水汚泥焼却灰に含まれる重金属類の選択除去 福岡工業大学 ○鶴裕功, 吉田拓矢, 久保裕也	p.291
C11-4-O	乾燥促進剤添加汚泥の乾燥メカニズムの解明 岐阜大学 ○早川龍馬, 小林信介, 玄々化学工業 伊藤拓美, 大木博成	p.293
C11-5-O	金属リサイクル炉における非化石燃料によるエネルギーリカバリ 名古屋大学 ○渡邊宏満, 植木保昭, 義家亮, 成瀬一郎, DOWAメタルマイン 大嶋祐介, 中川原聡	p.295
Poster1 C11-6-P	Carbon removal role and certification standards for biochar The University of Seoul ○Soyee Park, Jai-Young Lee	p.297

C12 食品廃棄物・生ごみ 【12(火)10:45-12:00 第6会場】

座長：岐阜大学 小林信介 副座長：名古屋大学 植木保昭

C12-1-O	Research on the effect of recirculation on two-phase anaerobic fermentation system of food waste and paper waste Tohoku University ○Qingkang Zeng, Yuanyuan Ren, Yu-you Li	p.299
C12-2-O	食品廃棄物を燃料とした高炉スラグー堆積物微生物燃料電池のアノード層構造の提案 東京農業大学 ○重富宏太, トウナロン, 中村貴彦, 東京都立大学 シャオシャオ	p.301
C12-3-O	アメリカミズアブ (<i>Hermetia illucens</i>) 生産ガイドラインを遵守した新しい資源循環系の確立 香川大学 ○廣川海香音, 姫路港運 中村滋彦, 昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム 藤谷泰裕, 香川県東部家畜保健衛生所 田中宏一, 泉川康弘, 香川大学 松本由樹	p.303
C12-4-O	有機性廃棄物処理施設由来の微生物群集構造と人工的制御環境が及ぼす影響 komham ○森本一	p.305
C12-5-O	賦活処理条件がもみ殻活性炭の細孔構造および比表面積に及ぼす影響 埼玉工業大学 白鳥隼也, 大木爽平, ○本郷照久	p.307
Poster2 C12-6-P	韓国の高層マンションにおける生ごみ共同収集及び固形物自動回収システム開発(第一報) (背景と処理工程を中心に) ソウル市立大学 ○李東勲, ハイエナ 金敬植, 李斗才, 韓国産業技術試験院 全庸佑	p.309
Poster2 C12-7-P	韓国の高層マンションにおける生ごみ共同収集及び固形物自動回収システム開発(第二報) (回収固形物の資源化原料としての品質特性を中心に) ソウル市立大学 李東勲, 崔惇厦, 金孝, 金鉉旭, 韓国産業技術試験院 ○全庸佑, ハイエナ 金敬植, 李斗才, 国立安東大學 金台東	p.311
Poster1 C12-8-P	廃棄物系バイオマス処理システムにおける窒素・リンの回収ポテンシャルとGHG排出量に関する研究 北海道大学 ○Ham Geun-Yong, 篠田奈々子, 石井一英, 落合知	p.313
Poster1 C12-9-P	小売り販売データを用いた重回帰分析による福岡市の一般廃棄物排出量予測 九州大学 ○濱地雅也, 島岡隆行, 杉崎康弘	p.315

C13 有価物の分離回収 【11(月)15:15-16:30 第1会場】

座長：東北大学 熊谷将吾 副座長：エックス都市研究所 山本攻

C13-1-O	The recovery of vanadium from VTM minerals by CaO roasting and hydrometallurgy processes Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources ○Dong Ju Shin, Yong Yeon Joo, Dongseok Lee, Shun Myung Shin	p.317
C13-2-O	(発表中止)	
C13-3-O	Shape-Specific Recovery of Copper and Poly(vinyl chloride) from Waste Wire Harness Cables using Swelling and Subsequent Ball Milling Tohoku University ○Harendra Kumar, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	p.321
C13-4-O	石炭灰からの高純度シリカ質材料の調製に関する基礎的検討 UBE三菱セメント ○丸屋英二, 上田陽一, 鷲尾知昭, 山口敦至	p.323

C13-5-O	尿または下水添加による重金属とリンの回収	p.325
Poster2 C13-6-P	無電解メッキ反応を用いた無電解ニッケルメッキ廃液の処理とニッケル回収技術の開発	p.327
Poster2 C13-7-P	Reclaim of Waste Photoresister Thinners from Semiconductor Industry by Enhanced Distillation Techniques	p.329
Poster1 C13-8-P	Analysis of factors affecting DES absorption capacity: Observation of differences by constituent elements of DES using tetravalent ammonium salts and polyamines	p.331
Poster2 C13-9-P	Simultaneous Treatment of Carbon Dioxide and Desalination Brine Using KOH	p.333
Poster1 C13-10-P	The recovery of zinc from EAFD wastes by hydrometallurgy process	p.335
Poster2 C13-11-P	Adaptation of organic supporting electrolyte for extension of potential window and energy recovery in redox-mediated electroanalysis	p.337
Poster1 C13-12-P	Effective Recovery of Rare Earth Elements from Coal Ash Wastes by a Modified Sequential Extraction Procedure	p.339

D1 焼却 【11(月)13:30-15:00 第2会場】
 座長：パシフィックコンサルタンツ 枝澤圭祐 副座長：日鉄エンジニアリング 福田尚倫

D1-1-O	一般廃棄物焼却施設のごみピット内ばら撒き動作と均質化の関係	p.341
D1-2-O	ごみ焼却工場へのAI・IoT技術適用に関する取り組み(第3報)	p.343
D1-3-O	ごみ属性情報を持ったごみピット3次元レイヤーモデルの開発	p.345
D1-4-O	ストーカ式ごみ焼却炉の給じん装置操作への強化学習の適用に関する研究	p.347
D1-5-O	AI技術を活用したごみ焼却施設の長期的な安定操炉の実現	p.349
D1-6-O	機械学習を用いた予測制御技術による廃棄物処理施設の主蒸気流量安定化	p.351
Poster1 D1-7-P	縦型ストーカ式焼却炉廃棄物燃焼に関する基礎研究	p.353
Poster2 D1-8-P	DEM-CFDによる回転ストーカ式ごみ焼却炉の燃焼シミュレーション	p.355
Poster1 D1-9-P	小型実験炉による縦型ストーカ式焼却炉の燃焼機構調査	p.357
Poster2 D1-10-P	高濃度CO ₂ 雰囲気での廃棄物の熱分解および燃焼特性に関する研究	p.359
Poster1 D1-11-P	焼却炉ごみピットにおける攪拌均一度指標の開発	p.361
Poster2 D1-12-P	A Study on the Combustion reaction analysis of multi-stage cyclone pre-heater and pre-calcining furnace when waste plastic auxiliary fuel is used in cement firing process	p.363

D2 熱分解・ガス化・溶融 【11(月)9:30-10:45 第2会場】
 座長：タクマ 戸崎正裕 副座長：タクマ 増田孝弘

D2-1-O	2段階気泡流動層試験装置を用いた乾燥汚泥のガス化挙動の把握	p.365
D2-2-O	未利用バイオマスの利用を想定したダイレクトバイオマス燃料電池の開発	p.367
D2-3-O	バイオマスと廃プラスチックからのSAF等バイオ燃料の製造に関する研究	p.369
D2-4-O	シャフト炉式ガス化溶融炉におけるバイオマスコークスの燃焼性評価	p.371
D2-5-O	RPFを助燃材とした溶融炉の省エネ技術の開発	p.373

Poster1 D2-6-P	廃棄物の高度利用に向けた実ごみの熱分解特性の基礎的研究 京都大学 ○趙文溪, 原田浩希, Sylwia Oleszek, 塩田憲司, 高岡昌輝	p.375
Poster2 D2-7-P	混合廃プラスチックの熱分解時に塩酸ガス発生抑制に関する研究 富山大学 ○広瀬慎太郎, 劉貴慶, ZEエナジー 富山研究所 関口裕司, 小林公二, 森井博道	p.377

D3 熱分解・ガス化・炭化 【11(月)11:00-12:15 第2会場】

座長：京都大学 高岡昌輝 副座長：京都大学 大下和徹

D3-1-O	下水汚泥からの資源エネルギー回収を目的とした熱分解の基礎的検討 京都大学 ○三井瞭佳, 原田浩希, 日立造船 櫻井優矢, 京都大学 塩田憲司, 高岡昌輝	p.379
D3-2-O	Co-pyrolysis characteristics of vacuum residue and bio-oil Tohoku University ○Miranti Budi Kusumawati, Shogo Kumagai, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	p.381
D3-3-O	Low-Temperature Pyrolysis Characteristics of Tire Rubber Tohoku University ○Awosu Emmanuel, Yoshioka Toshiaki, Kumagai Shogo, Saito Yuko, Hirano Yuka, Bridgestone Corporation Tahara Seiichi, Homma Masahiro, Hojo Masahiro	p.383
D3-4-O	不活性ガス雰囲気下におけるニトリルブタジエンゴム熱分解残渣の炭化挙動 群馬県立群馬産業技術センター ○恩田紘樹, 綿貫陽介, 渡辺元浩, 三峰工業 村上慎一	p.385
D3-5-O	廃プラスチックおよび木質バイオマスによる酸化鉄の還元特性 名古屋大学 ○加田航平, 植木保昭, 義家亮, 成瀬一郎	p.387
Poster1 D3-6-P	A feasibility on Bio-coal with Hydrothermal carbonization by Organic Waste as a Solid Fuel University of Seoul ○Hyewon Park, Jai-Young Lee	p.389

D4 排ガス処理・監視 【11(月)15:15-16:45 第2会場】

座長：JFEエンジニアリング 横山唯史 副座長：クボタ 永山貴志

D4-1-O	低環境負荷型高反応消石灰による1,4-ジオキサンの発生抑制 奥多摩工業 ○松野祥太郎, 森川徹也	p.391
D4-2-O	省エネルギー型CO ₂ 分離回収に関する開発 タクマ ○藤川宗治, 鋤持恭平, 佐藤和宏, 増田孝弘, 穴田健一	p.393
D4-3-O	CO ₂ を固体炭素に変換する技術の開発 タクマ ○阿形葉, 佐藤和宏, 増田孝弘	p.395
D4-4-O	層状複水酸化物を適用した新型乾式排ガス処理 栗田工業 ○森浩一, 伊藤一郎, 藤田聡, 谷津愛和, JFEエンジニアリング 山本浩, 白井利昌, 深井一, 東北大学 亀田知人, 吉岡敏明	p.397
D4-5-O	HCl除去に及ぼすCO ₃ 型Mg-Al系層状複水酸化物の性状の影響 東北大学 ○西谷清花, 亀田知人, 熊谷将吾, 齋藤優子, 栗田工業 森浩一, 伊藤一郎, 堺化学工業 鈴木雅博, 東北大学 吉岡敏明	p.399
D4-6-O	ZrドーブMg-Al系層状複水酸化物を用いたCO ₂ 吸着およびエチレン尿素への変換 東北大学 ○國井陽太, 亀田知人, 熊谷将吾, 齋藤優子, 吉岡敏明	p.401
Poster2 D4-7-P	オルガノシリカ膜を用いた廃棄物焼却炉排ガスからの水蒸気回収システム プランテック ○山床太一, 武山彰宏, 広島大学 森山教洋, 長澤寛規, 金指正言, 都留稔了	p.403
Poster1 D4-8-P	水蒸気間欠添加がごみ焼却排ガス中HClおよびSO _x 除去効率に及ぼす影響 北海道大学 増田雄大, ○黄仁姫, 東條安匡, 松尾孝之, タクマ 美濃谷広	p.405

D5 発電・熱利用 【12(火)9:00-10:30 第2会場】

座長：日鉄エンジニアリング 小野義広 副座長：神鋼環境ソリューション 藤田淳

D5-1-O	ごみボイラ燃焼制御の最適化に関する研究 東京電機大学 ○菅原秀雄, 榊原大貴, 加藤政一, タクマ 松田由美, 佐藤和宏	p.407
D5-2-O	廃棄物発電ボイラ向け溶射材の開発 川崎重工業 ○三瓶大地, 森田拓之, 鈴木祥平, トーカロ 迫田貴史, 上垣智	p.409
D5-3-O	都市ごみ焼却発電施設におけるボイラ過熱器管のCO ₂ リッチ環境下での腐食性評価 京都大学 ○篠原剛志, 原田浩希, 高岡昌輝, 塩田憲司	p.411
D5-4-O	廃棄物処理施設におけるセンサを活用した低温腐食環境の調査 荏原環境プラント ○三輪佳祐, 長洋光, 村末創, 荏原製作所 野口学, シュリンクス 鈴木智康, 西條康彦, 岩永悠	p.413
D5-5-O	処理可燃ごみ質経年度変化の下でのWtE実稼働成績 ○篠靖夫	p.415
D5-6-O	東京都における清掃工場排熱のカスケード利用に関する検討 東京工業大学 ○浜田真祐未, 日本タタ・コンサルタンシー・サービス 任嘉, 東京工業大学 湯浅和博	p.417
Poster2 D5-7-P	プラント実機運転データの解析およびシミュレーション 東京電機大学 ○榊原大貴, 菅原秀雄, 加藤政一, タクマ 藤川宗治, 松田由美, 佐藤和宏	p.419
Poster1 D5-8-P	燃焼ガス系とボイラ熱伝達系を分離したごみボイラシミュレータの開発 東京電機大学 ○櫻井勇樹, 菅原秀雄, 加藤政一, プランテック 増田俊吾, 鮫島良二	p.421
Poster2 D5-9-P	Numerical study on the design of incinerator for solid refuse fuel for power plant Hanbat National University ○Tae-In Ohm, Byoung-Chan Sang	p.423

D6 焼却主灰・飛灰 【12(火)10:45-12:15 第2会場】

座長：日立造船 古林通孝 副座長：川崎重工業 三好裕司

- D6-1-O 圧力波式ボイラダスト除去装置の開発 p.425
タクマ 高橋広光, 巽圭司, 林京平, 〇山崎翔平
- D6-2-O アルミニウムを含んだ焼却灰と水による水素発生の抑制に関する研究 p.427
宇宙航空研究開発機構 〇小野寺英之
- D6-3-O 水酸化ドロマイトでの酸性ガス処理における飛灰への影響と不溶化剤使用量削減事例 p.429
吉澤石灰工業 〇中村拓哉, 岡村達也, 高橋修一
- D6-4-O 高速炭酸化処理による木質バイオマス灰へのCO₂固定化・資材化の実証 p.431
神鋼環境ソリューション 〇後藤幸宏, 藤原大, 前田有貴, 福富裕太, 瀧本絢子, 小倉正裕, 島倉久範, O.C.O TECHNOLOGY Ltd. Peter Gunning
- D6-5-O 流動床式焼却炉からの飛灰の脱塩について p.433
東京都環境公社 東京都環境科学研究所 〇辰市祐久, 長谷川明良, 寺嶋有史, 小泉裕靖
- D6-6-O 産業廃棄物によるエネルギーリカバリ時の灰付着制御 p.435
名古屋大学 〇向本舜, 植木保昭, 義家亮, 成瀬一郎, 豊田ケミカルエンジニアリング 永津伸治

E1 最終処分場の維持管理・モニタリング 【11(月)9:30-10:45 第7会場】

座長：明星大学 宮脇健太郎 副座長：埼玉県環境科学国際センター 磯部友護

- E1-1-O 廃棄物最終処分場における観測井内ガス組成のモニタリング意義 p.437
埼玉県環境科学国際センター 〇長森正尚, 仙南保健福祉事務所 萩原晋太郎, 千葉県環境研究センター 森崎正昭, 鳥取県衛生環境研究所 成岡朋弘, 森明寛, 福岡県保健環境研究所 藤川和浩, 古賀智子, 沖縄県衛生環境研究所 井上豪, 国立環境研究所 石垣智基, 山田正人
- E1-2-O 比抵抗探査を用いた廃棄物最終処分場の長期モニタリングに関する研究 p.439
埼玉県環境科学国際センター 〇磯部友護, 国立環境研究所 石森洋行
- E1-3-O 廃棄物最終処分場からのマイクロプラスチック環境放出量評価とその削減対策の効果の検証 p.441
国立環境研究所 〇石垣智基, Panida Payomthip, 北海道大学 Geun-Yong Ham, 国立環境研究所 山田正人, 大迫政浩
- E1-4-O 覆土代替材による雨水の浸透抑制効果の確認実験 p.443
吉浦 〇巖厚亮, 吉浦敏幸, 井上誓, 日高宏樹, 福岡大学 為, 田一雄, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壯太郎
- E1-5-O 光ファイバセンサを用いた廃棄物埋立地のキャッピング層の面的温度分布計測 p.445
九州大学 〇浜田梨央, 島岡隆行, 小宮哲平
- Poster1 E1-6-P 廃棄物最終処分場のガス抜き管の変形特性の数値解析 p.447
室蘭工業大学 〇土田育矢, 吉田英樹, 八千代エンジニアリング 熊谷祐人
- Poster2 E1-7-P ボーリング孔内を利用したチャンパー法による埋立ガスフラックスの測定 p.449
福岡大学 〇平田修, 鈴木慎也
- Poster1 E1-8-P 廃棄物処理場における手選別作業の作業環境の標準化に関する人間工学的検討 p.451
北海道大学 〇今村太一, 落合知, Ham Geun-Yong, 国立環境研究所 山田正人, 北海道大学 石井一英
- Poster2 E1-9-P 被覆型廃棄物最終処分場の埋立層ガス流動調査(その2) p.453
福岡大学 〇為, 田一雄, 高倉昭二, 兪霊傑, 潘劍磊, 樋口壯太郎
- Poster1 E1-10-P Assessment of anaerobic activity in an aerobic municipal solid waste landfill p.455
TerraTherm Asia, Inc. 〇Tomotaka Sakaue, Hatsue Braatz, Fukuoka University Kazuo Tameda, Ecowillplus Co., Ltd. Jinkyu Park, Anyang University Namhoon Lee

E2 埋立地早期安定化 【11(月)11:00-12:00 第7会場】

座長：埼玉県環境科学国際センター 長森正尚 副座長：九州大学 小宮哲平

- E2-1-O 廃棄物固化式処分システムのライフサイクルコスト評価に関する研究 p.457
九州大学 〇小森祐輝, 中山裕文, 小宮哲平, 島岡隆行
- E2-2-O 海面処分場の早期安定化に関する研究 p.459
福岡大学 〇兪霊傑, 為, 田一雄, 重松幹二, 潘劍磊, 劉佳星, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壯太郎
- E2-3-O 海水への二酸化炭素の溶解とセメントからのカルシウムの溶出に関する実験 p.461
東洋建設 福田慶吾, 〇納庄一希, 山崎智弘
- E2-4-O 高密度ポリエチレン管を用いた圧縮試験によるガス抜き管座屈メカニズムの検討 p.463
大林組 〇三橋実季, 竹崎聡, 柴田健司, 日笠山徹巳
- Poster2 E2-5-P アンケートによる一般廃棄物最終処分場の廃止事例調査(その4) p.465
日本国土開発 〇坂本篤, 日本工営 庄司茂幸, 大林組 浜田利彦, 大林組 柴田健司, 中電技術コンサルタント 渡辺修士, 福田組 小林正利, 三ツ星ベルト 井場道夫, エイト日本技術開発 福島孝亮, 飛鳥建設 中村和弘, 北海道立総合研究機構 阿賀裕英, 八千代エンジニアリング 工藤友康, 環境生物化学研究所 本多美智男, 明星大学 宮脇健太郎, 北海道大学 石井一英
- Poster1 E2-6-P 二酸化炭素高溶存溶液の埋立層(ガラスビーズ層)における挙動 p.467
明星大学 〇松本紋奈, 宮脇健太郎
- Poster2 E2-7-P 二酸化炭素高溶存溶液(CO₂-UFB水)を用いた焼却灰埋立層中和の検討(2) p.469
明星大学 〇宮脇健太郎, 岸智央, 松本紋奈

E3 浸出水・発生ガス 【12(火)9:00-10:30 第7会場】

座長：室蘭工業大学 吉田英樹 副座長：北海道大学 石井一英

E3-1-O	管理型最終処分場における埋立廃棄物中からのメタンガス放出と気圧変化の関係について 松山市 ○小山大, 汐見不二雄, 八束陽介, 建設技術研究所 和田卓也, 榎納吏製, 九州大学 島岡隆行	p.471
E3-2-O	浸出水量予測モデルを用いた長期予測に基づく調整池貯留量変化に関する研究 北海道大学 ○石井一英, 成田愛唯, 落合知, Ham Geun-Yong	p.473
E3-3-O	福島県内5か所の一般廃棄物最終処分場で取得した浸出水の定量分析結果 福島県環境創造センター ○高瀬和之, 日下部一晃, 国分宏城	p.475
E3-4-O	浸出水の電氣的処理に関する研究 福岡大学 ○劉佳星, 俞靈傑, 潘劍磊, 為, 田一雄, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壯太郎	p.477
E3-5-O	Leachate management in landfills using capping KOBELCO ECO-SOLUTIONS Co.,Ltd ○Shiro Toyohisa, Naomi Fujiwara, ERC TAKAJO Co.,Ltd Ayumi Morioka, Yasuhiro Miyago, Fukuoka University Kenichi Sato	p.479
E3-6-O	Effect of Blue Light for Nitrite Accumulation on Shortcut Nitrogen Removal Yonsei University Yejin Lee, Hyunsoo Lim, ○Seunga Kim, Joonhong Park	p.481
Poster1 E3-7-P	廃棄物最終処分場のガス抜き管内の埋立ガス成分シミュレーション 室蘭工業大学 ○伊藤綾華, 吉田英樹	p.483
Poster2 E3-8-P	残留キレート及びキレート由来COD、T-Nに対する物理吸着処理の適応性 福岡大学 ○潘劍磊, 俞靈傑, 為, 田一雄, 劉佳星, GEラボアナリシス 内田正信, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壯太郎	p.485
Poster1 E3-9-P	Detection of microplastics in municipal waste landfill leachate Mokpo National Maritime University ○Nawon Kim, Gayeong Lee, Yong-jin Kim	p.487

E4 有害物質の溶出・土壌汚染 【12(火)10:45-12:15 第7会場】

座長：国立環境研究所 肴倉宏史 副座長：大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教

E4-1-O	薬剤処理飛灰中の余剰キレート薬剤による通水されたPbの不溶化現象 大阪市立大学(現 日立造船) ○田久保圭祐, 大阪公立大学 水谷聡, 貫上佳則, 年見寛和	p.489
E4-2-O	廃棄物埋立処分場の年代と浸出水中のPFAS濃度との関係 大阪府立環境農林水産総合研究所 ○矢吹芳教, 小野純子, 井戸優人, 伊藤耕二, 伴野有彩, 兵庫県環境研究センター 松村千里, 大阪公立大学 水谷聡, 国立環境研究所 松神秀徳, 尾形有香, 遠藤和人	p.491
E4-3-O	国内の実浸出水を対象とした浮遊型人工湿地による有機物と窒素の除去性能 国立環境研究所 ○尾形有香, 松神秀徳, 石森洋行	p.493
E4-4-O	Accelerated weathering of bio- and oxo-degradable plastics and their biodegradability under soil conditions Hokkaido University ○Geun-Yong Ham, National Institute for Environmental Studies Kanami Nagamoto, Tomonori Ishigaki, Masato Yamada	p.495
E4-5-O	The impact of dissolved CO ₂ on the biological treatment process Kyonggi University ○Su Young Choi, Hyeok June Kwon, Sung Chul Kim, Soon Woong Chang	p.497
E4-6-O	Development of electrochemical T-N removal and ammonia-hydrogen conversion system for Landfill-leachate Treatment Yonsei University ○Eun kyung Byun, Juwon Lee, Hyung-il Kim	p.499
Poster2 E4-7-P	微生物製剤を用いた油分解に対する副生バイオ炭添加の影響 フジタ ○正木祥太, 久保田洋, 村上陽一郎, 倉澤響, 袋昭太	p.501
Poster1 E4-8-P	CO ₂ を固定した木質バイオマス燃焼灰における低液固比下での重金属の溶出挙動 フジタ ○繁泉恒河, 久保田洋, 高地春菜, 正木祥太, 日本大学 中野和典	p.503
Poster2 E4-9-P	セメント固化飛灰からの塩化物イオン溶出モデルの開発 宮崎大学 ○土手裕, 関戸知雄	p.505

F1 有害性物質の測定・検査法および試算 【11(月)9:30-10:45 第4会場】

座長：大阪公立大学 水谷聡 副座長：鳥取県衛生環境研究所 成岡朋弘

F1-1-O	大気中ペルフルオロアルキル物質(PFASs)濃度に関するパネルデータ分析 京都大学 ○岩本在仁, 平井康宏, 小柴絢一郎	p.507
F1-2-O	Toxicity Potentials of Mercury Emission and Release: A Case Study in Waste Treatment Sector in China Okayama University ○Habuer, Takeshi Fujiwara, Kyoto University Masaki Takaoka	p.509
F1-3-O	キレート樹脂を用いた3価/6価クロム分別定量法の廃棄物への適用に向けた検討 大阪公立大学 ○高岡ふみか, 水谷聡, 金沢大学 長谷川浩, 環境省環境調査研修所 藤森英治	p.511
F1-4-O	災害・建物解体時に廃棄された建材の表面色素染色による石棉検出法 佐賀大学 ○田端正明, 原口椋多, 矢田光徳, 梅原智也, 古川飛翔	p.513
F1-5-O	配管内音解析による配管流量監視システムの開発 川崎重工工業 ○山川翔平, 神田宏和, 小椋凌, 竹田航哉	p.515
Poster1 F1-6-P	焼却灰無害化を想定した有害物の挙動把握における簡易分析法の適用 四日市大学 ○高橋正昭, 武本行正, 岩崎誠二, 岡本土石工業 角忠治	p.517
Poster2 F1-7-P	PFASを吸着した廃活性炭からのPFAS抽出条件の検討 鴻池組 ○平尾壽啓, 大山将, 総合水研究所 中井智子, 米澤武志	p.519

Poster1 F1-8-P	ステップ加熱式炭素分析による炭酸化前後の焼却灰中炭酸塩の評価 フジタ ○高地春菜, 久保田洋, 繁泉恒河, 正木祥太, 堀場テクノサービス 阪口真以, 田中悟	p.521
Poster2 F1-9-P	公開データに基づくアスベスト廃棄物処分量把握の試み 国立環境研究所 ○山本貴士, 山田幸司, 高田恭子	p.523
Poster2 F1-10-P	A Study on the Prediction and Evaluation of PRB Reactive Materials by Soil and Groundwater Characteristics Using AI University of Seoul ○Su-hee Kim, Minah Oh, Seungjin Oh, Jai-young Lee	p.525

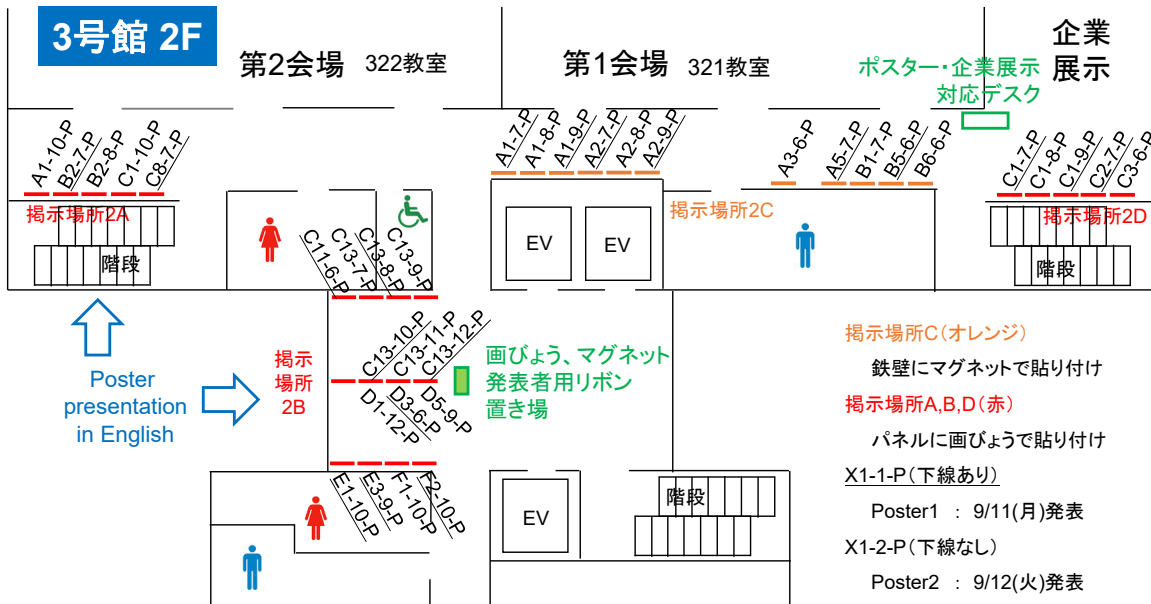
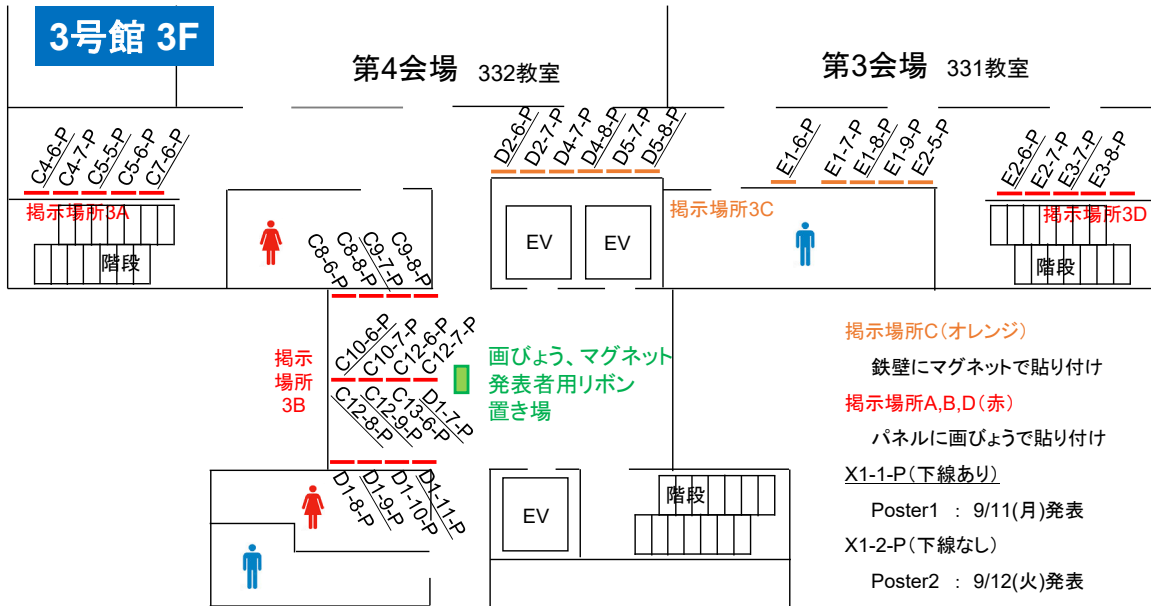
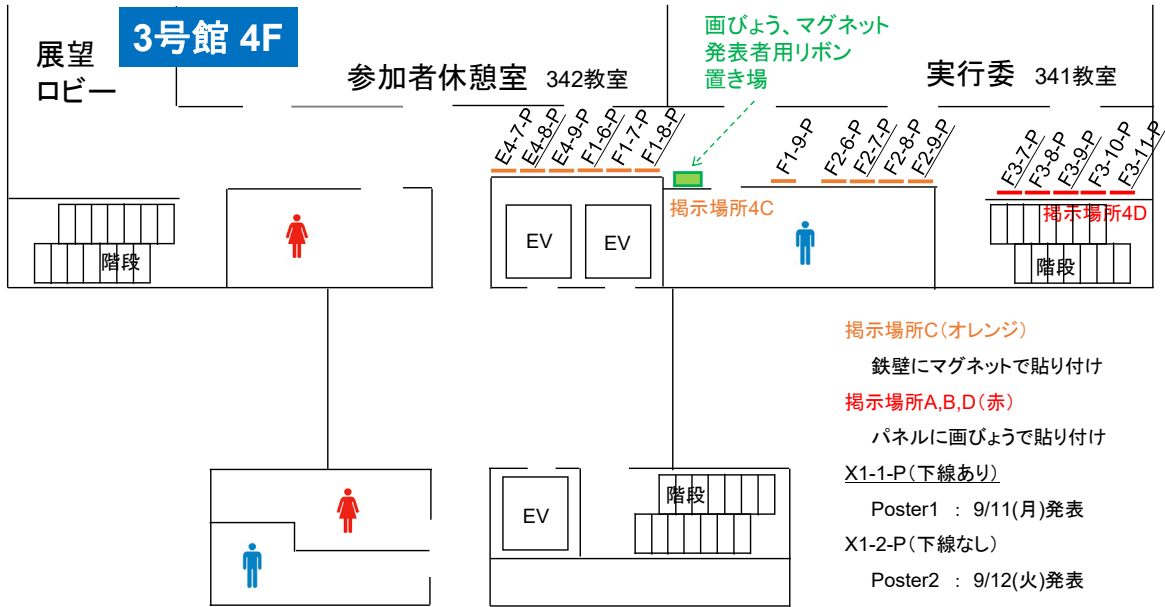
F2 有害性物質の挙動・無害化処理(1) 【11(月)11:00-12:15 第4会場】
座長：国立環境研究所 山本貴士 副座長：沖縄県衛生環境研究所 井上豪

F2-1-O	産業廃棄物最終処分場における1,4-ジオキサンの挙動に関する研究 福岡県保健環境研究所 ○藤川和浩, 古賀敬興, 中村和宏, 板垣成泰, 石橋融子, 安武大輔	p.527
F2-2-O	pHの異なる溶出試験における焼却灰からのPFASの溶出濃度 大阪公立大学 ○水谷聡, 大阪府立環境農林水産総合研究所 小野純子, 井戸優人, 伊藤耕二, 矢吹芳教	p.529
F2-3-O	廃水銀等処理物の連続バッチ溶出試験による長期安定性評価(2) 大阪工業大学 ○日下部武敏, 京都大学 江川葵一, 船木敢大, 高岡昌輝	p.531
F2-4-O	フィードフォワード制御を用いた燃焼排ガス中水銀濃度抑制技術の開発 神鋼環境ソリューション ○前田健一, 島孝一, 藤田淳, 梶原吉郎, 奥住宣裕	p.533
F2-5-O	線虫の重金属保持能力に着目した土壌における金属汚染の水平拡散の解析 大阪公立大学 遠藤悠衣, 徳本勇人, 大阪公立大学工業高等専門学校 ○倉橋健介	p.535
Poster2 F2-6-P	溶出試験前後における焼却飛灰中結晶相組成と溶出メカニズムの関係 明治大学 ○白田ひびき, 関野梨名, 加世田大雅, リガク 大淵敦司, 松田渉, 明治大学 小川熟人, 小池裕也	p.537
Poster1 F2-7-P	洗煙引抜き水量の制御による排ガス中水銀の低減に関する検討 大阪市立環境科学研究センター ○高倉晃人, 増田淳二	p.539
Poster2 F2-8-P	都市ごみ焼却飛灰と脂肪酸の混練撥水処理による重金属溶出抑制効果の検証 明治大学 ○橋爪駿介, 関野梨名, 秋野友香, 加世田大雅, リガク 大淵敦司, 明治大学 小川熟人, 小池裕也	p.541
Poster1 F2-9-P	赤玉土混合ジオポリマー固化処理による都市ごみ焼却飛灰中重金属の溶出抑制 明治大学 ○関野梨名, 梅澤有希, リガク 松田渉, 明治大学 小池裕也	p.543
Poster1 F2-10-P	Detection of Microplastics and Leaching Characteristics of Heavy Metals from Bottom Ashes of Municipal Waste Incinerators Mokpo National Maritime University ○Gayeong Lee, Nawon Kim, Yong-jin Kim	p.545

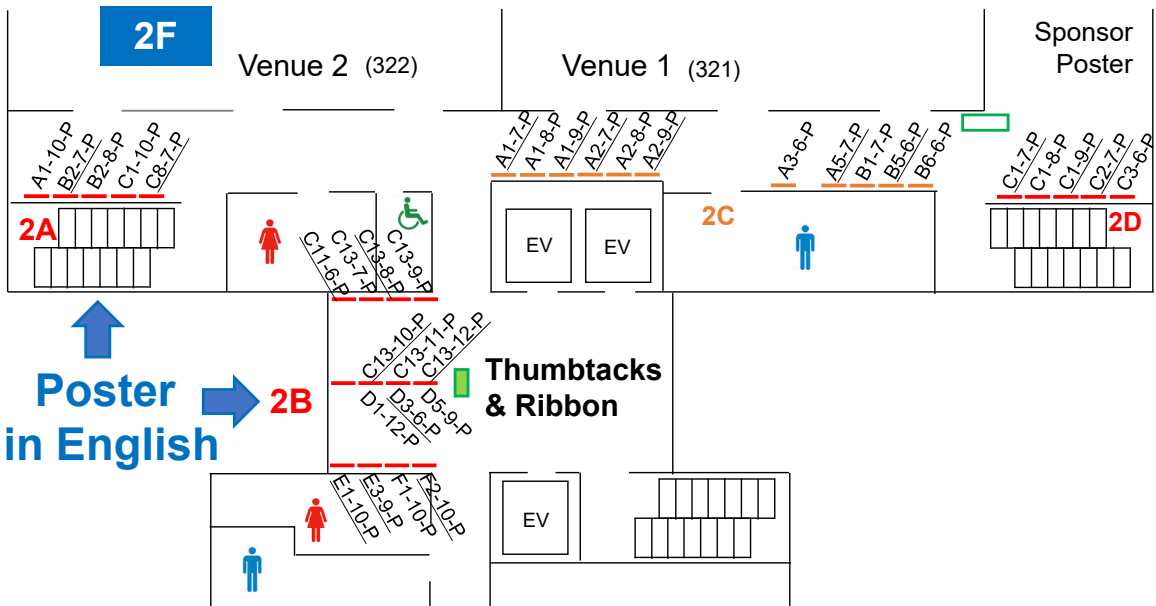
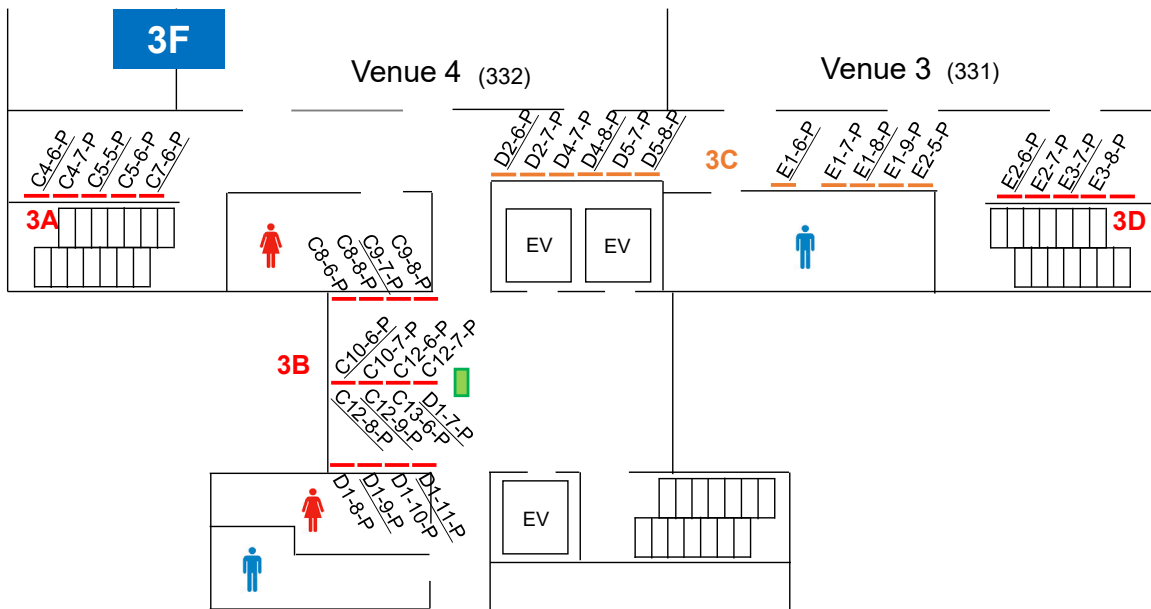
F3 有害性物質の挙動・無害化処理(2) 【11(月)13:30-15:00 第4会場】
座長：環境管理センター 長谷川亮 副座長：東京工業大学 高橋史武

F3-1-O	浪江町仮設焼却施設における豚熱に感染した消毒済イノシシの軟化処理について 応用地質 ○中村謙治, 環境省福島地方環境事務所 小野貴久, 日立造船 山田耕三, 応用地質 楠本泰平	p.547
F3-2-O	高濃縮を目的とした放射性Cs吸着材におけるイオン交換理論の有用性 国立環境研究所 ○田中悠平, 山田一夫, 遠藤和人	p.549
F3-3-O	水銀廃棄物の最終処分に関する研究(その1): 不溶化処理への信頼感および心理的に期待される不溶化期間 東京工業大学 ○高橋史武	p.551
F3-4-O	水素燃焼で生成する高温過熱水蒸気を用いた粉末活性炭吸着PFAS類分解処理技術の開発 鴻池組 ○大山将, 松生隆司, 中島卓夫, 平尾壽啓, 中外炉工業 大久保朋哉, 明賀法之, 河野友郎, 小嶋聡	p.553
F3-5-O	加熱脱塩素処理が焼却飛灰中のポリ塩化ナフタレンに与える影響 大阪公立大学 ○河原雄一郎, 水谷聡, 大阪府立環境農林水産総合研究所 伊藤耕二, 大阪公立大学 相原咲季, 直井亮太郎, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教	p.555
F3-6-O	Mg-Fe-Al系層状複酸化物(LDO)の合成とヒ酸アニオン吸着への応用 東北大学 ○高梨樹, 亀田知人, 熊谷将吾, 齋藤優子, 熊谷組 野村泰之, 河村大樹, 東北大学 吉岡敏明	p.557
Poster1 F3-7-P	韓国の米軍基地跡地キャンプマーケットDRMOサイトのダイオキシン類・PCB複合汚染土壌の 浄化事例報告 テラサーモアジア ○ブラーツ(湊)初枝, 全連浩, 島田雄太郎, 坂上智隆, 現代エンジニアリング&建設 金弘爽, 福岡大学 為田一雄, 安養大 李南勲	p.559
Poster2 F3-8-P	撥水処理セメント固化法による都市ごみ焼却飛灰中重金属の不溶化 明治大学 ○伊藤秀嶺, 秋野友香, 小川熟人, 小池裕也	p.561
Poster1 F3-9-P	FT-IR/ATR法によるカルボン酸撥水処理した都市ごみ焼却飛灰の表面状態の解析 明治大学 ○加世田大雅, 小川熟人, 小池裕也	p.563
Poster2 F3-10-P	配位高分子を用いた環境イオン中からのSr選択的分離回収法の確立 日本原子力研究開発機構 南川卓也, 関根由莉奈, 東京大学 ○山田鉄兵	p.565
Poster1 F3-11-P	POPs廃農薬(ジコホル)の無害化処理における事前確認試験 クレハ環境 大岡幸裕, 草野洋平, ○加藤正敏	p.567

現地発表ポスターの貼付位置



Map for Poster presentation (Bld. No.3) [English posters area: 2A & 2B]



企画セッション

各研究部会による企画セッションや、実行委員会をはじめとする各種委員会、若手の会からの企画です。研究発表会の参加者には、これらの企画にも広くご参加いただき、研究発表会さらには本学会を通じての研究活動、社会活動が活発になされることを狙いとしています。

※内容が一部変更される可能性があることをご了解ください。

※最新情報は、各部会の web ページもご覧ください。 http://jsmcwm.or.jp/?page_id=23

※配付資料は、各部会の web ページにある場合があります。ご確認ください。

廃棄物処理業界のリソーシング化並びに人材育成・人材確保について考える

9月12日(火) 10:45～12:15 第5会場

(産廃研究部会)

従来、産廃処理業界は、廃棄物減容化や有価資源の回収を目的としたリサイクルを行う事業を継続してきた。しかし、今後本業界が変革していくためには、動脈産業がグローバルな市場・社会からの環境配慮要請に答えていけるよう、あらゆる使用済製品を可能な限り高度な素材として再生し、動脈産業に供給することが必須となる時代になっている。

人材育成・人材確保については、本業界のみならず、各業界において喫緊の課題として採り上げられている。“人材”は“人財”とも言われ、各企業は“人”の育成・確保を最重点項目としている。

今回の発表を通して、参加者の皆様と処理業界が発展・変革していく上での有意義な意見交換を図りたい。

プログラム

【リソーシング化】

1. 私たち廃棄物業界がリソーシング産業になるために
～現状の課題と今後の対策～

【人材育成・人材確保】

2. 無形資産(人財)の可能性について
3. 廃棄物処理業界イメージアップ戦略 ～モテる業界への道～
4. 人について ～産廃業界に、人が集まるようにするには?～

ランチタイムグループワーク ～若手のネットワーク形成～

9月12日(火) 12:15～13:30 第3会場

(若手の会)

若手の会は、廃棄物業界に係る大学及び公的研究機関に所属する若手の研究者と民間企業に勤める若手の実務者、学生のコミュニティです。

本セッションでは、若手のネットワーク構築を目的としたランチタイムミーティングを開催いたします。普段は接点が少ない他の大学・研究室だけでなく、行政や企業の方と交流をもてる絶好の機会です。

若手の会と書いてありますが、参加年齢制限は設けておりませんので、皆様、奮ってご参加下さい。

また、4年振りに研究発表会初日(9/11)の夜に韓国廃棄物学会の若手との意見交換会を予定しております。例年両国(国籍問わず)から多くの学生・若手研究者・実務者が参加し、国際交流を図る場となっております。企画セッションとともに、交流を深められる場となっておりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

ランチは各自でご用意下さい。

プログラム(仮)

12:15～12:45 ランチ ランチを食べながらアイスブレイク、企画趣旨説明

12:45～13:15 グループワーク 【テーマ: 将来を見据えた理想の廃棄物処理施設のあり方について】

13:15～13:30 各グループからの発表

脱炭素を見据えた副産物・廃棄物の発生量・組成と効果把握の試み

9月13日(水) 9:00~10:30 第4会場

(物質フロー研究部会)

2050年脱炭素社会の実現に向けて、中長期的な視点を持った廃棄物資源循環モデルの構築が求められています。カーボンニュートラル移行過程における産業活動の変化や、それらが副産物の発生量、廃棄物組成や発生量、処理技術の転換シナリオを組み立てていくことが重要です。

本企画セッションでは、温室効果ガス(GHG)排出量および物質フローに大きな影響を持つ電力・鉄鋼・セメント部門における脱炭素化の取り組みが、石炭灰や高炉スラグなどの副産物の発生・利用に及ぼす影響の検討事例や、家庭ごみ由来の温室効果ガス(GHG)排出・削減への寄与が大きいプラスチックについての実態把握と精緻化・対策効果の評価に取り組む最近の事例を紹介します。

プログラム

1. 主旨説明
2. 脱炭素にむけた電力・鉄鋼・セメント部門における生産量と副産物利用の変化
京都大学 平井康宏
3. プラスチックごみの物理化学性状調査と温室効果ガスインベントリのCO₂排出係数更新
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 川西理史
4. プラスチックの素材代替が家庭ごみ処理のGHGに与える影響
京都大学 矢野順也
5. 全体質疑

「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」の「埋立地ガスの評価」改訂方針について

9月13日(水) 9:00~10:30 第3会場

(埋立処理処分研究部会)

埋立処理処分研究部会より2002年3月に成果として公表した「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」(以下、2002年部会報告書)は、1998年6月に施行された「最終処分場廃止基準」について、考え方、調査測定、評価判断の考察と提案を行ったものであり、廃止基準適合を確認する際の参考資料として活用されている。本部会では、2021年より、数値埋立工学ワーキンググループを立ち上げ、そこで約20年ぶりの2002年部会報告書の改訂作業を行うこととした。以降、議論を重ね、前回の春の研究討論会では、「廃棄物最終処分場の廃止基準における埋立ガスの評価」「一般廃棄物処分場における事例と課題」「産業廃棄物処分場における事例と課題」について報告があり、そこで議論されたロードマップ(2023年秋までに「埋立地ガスの評価」の改訂作業完了)に基づいて、具体的な改訂作業をワーキンググループで進めてきた。今回はその改訂の最終案について報告する。参加者からの意見を徴収し、議論することで、その内容の精査と、今後の調査評価方法全体の改訂作業を進めるための示唆を得ることを目的とする。

プログラム

1. 2002年部会報告書の「埋立地ガスの評価」の改訂方針について
2. 改訂方針の具体的な内容について
 - ①2002年部会報告書での埋立地ガスの評価法
 - ②「埋立地ガスの評価」の改訂の最終案
3. 改訂作業のWGの今後の活動について

環境・社会変化に適応する廃棄物計画のあり方 —多様な立場・世代間の対話—

9月13日(水) 10:45~12:15 第3会場

(廃棄物計画研究部会)

廃棄物計画研究部会では、2022年度からの3年間、「環境・社会変化に適応する廃棄物計画のあり方」をテーマに活動しています。

昨年度(2022年度)は、春の研究討論会のワークショップと秋の企画セッションにおいて、廃棄物管理の将来ビジョンに関する重要な論点(脱炭素、新プラ法等)を抽出し、将来に向けた分岐点について議論しまし

た。そして、それらの議論に基づき、計画部会において将来の廃棄物管理を議論して参りました。その結果、重要な分岐点として、「廃棄物施設の機能(ソフト面の有無)」と「廃棄物管理の方向(均質か多様か)」を2軸とした4象限で将来のシステム(A~D)をまとめました。

今年度(2023年度)は、春の研究討論会において、「C.効率的最適化システム(第2象限)」に関連する官民連携について具体的な事例紹介を通じて課題と展望を議論しました。そして、今回の秋の研究発表会における企画セッションでは、「D.多面的価値創出システム(第1象限)」について、多様な立場・世代のパネラーによる対話を通じてその議論を深めたいと考えています。具体的には、コンサルタント、研究機関、外国籍、若手という多様な立場・世代のパネラーを招へいし、将来の環境・社会変化やそれに対する廃棄物計画の在り方について対話していただく中で、多面的価値創出システムを実現するためのヒントを見出したいと考えています。

【パネラー(予定)】

秋澤晴香氏(合同会社サスティナブル・デザイン都市戦略研究所、コンサルタント)

下司聖作氏(阪南大学、大学教員、eco検定講師)

MUHAMAD Afif Faiq 氏(国立環境研究所、若手研究者)

山本悠久 氏(国立環境研究所、若手研究者)

【プログラム】

- 1) 開会挨拶
- 2) 計画部会の活動経緯の紹介
- 3) パネラー自己紹介
- 4) 対話(パネラー間、フロアとも)
- 5) 閉会

資源循環の未来 —日本でサーキュラー・エコノミーを実現させるためには?—

9月13日(水) 10:45~12:15 第1会場

(リサイクルシステム・技術研究部会)

温室効果ガスの排出量や資源消費量を抑制し、しかも経済成長を確保するため、EUは非常に野心的なサーキュラー・エコノミーを産業政策として提唱している。これは従来の採掘→製造→使用→廃棄の直線的な経済から、リサイクルし易く設計された製品を修理しながら長期間使用し、使用後も資源を循環利用する新しい経済の構築を目指すものである。当部会では、今回特に①環境配慮設計、②再生品の活用・部品リユース、③情報流通プラットフォーム、④企業の循環度評価に注目し、日本における現状と将来展望について検討する。

プログラム

1. 講演1 サーキュラー・エコノミーの概要
2. 講演2 環境配慮設計と再生品の活用および部品のリユース
3. 講演3 情報流通プラットフォームの構築
4. 講演4 企業の循環度評価
5. パネルディスカッション

ミニワークショップ「災害廃棄物と気候変動適応」

9月11日(月) 9:00~10:30 第1会場

(災害廃棄物研究部会)

大規模災害が頻発化し、災害廃棄物処理分野においてもその対応力の向上が強く求められています。課題はまだ山積みとは言え、災害廃棄物処理計画の策定率も増加し、処理支援のための骨格が固まりつつある段階にあります。一方、目の前や足下の課題に追われ、長期的展望に立った議論や対策については、必ずしも十分になされている訳ではありません。

今年度の企画セッションにおいては、「災害廃棄物と気候変動適応」をテーマに、2050年カーボンニュートラル社会を見据えたワークショップを開催し、バックキャスティング志向による災害廃棄物研究のあり方を検討します。最新の災害廃棄物処理レポート、気候変動適応策に関する話題提供のあと、災害

廃棄物管理の観点から「緩和策」と「適応策」を分類・整理し、国際連携のあり方などについて、ご参加の皆様と議論する機会を持ちたいと思います。部会員以外の皆様も大歓迎ですので、ふるってご参加ください。

プログラム(案)

【話題提供】

1. 最新の災害廃棄物処理レポート
秋田市の事例（公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 中山育美）
北部九州地域の事例（福岡大学 鈴木慎也・九州大学 小宮哲平）
2. 廃棄物・リサイクル分野における気候変動適応策
（調整中）
3. 気候変動適応に向けた災害廃棄物の予測・シミュレーション
（NTT データ経営研究所 東信太郎）

【対面参加者によるグループディスカッション】

詳細は準備中

【まとめと挨拶】

福岡大学 鈴木慎也

持続可能な未来への道 ～バイオマスの有効利用と女性研究者の活躍を探る～

9月13日(水) 9:00～10:30 第2会場

(バイオマス系廃棄物研究部会)

本企画セッションでは、バイオマス系廃棄物がもつポテンシャルとそれが持続可能な社会において果たす役割について探求します。バイオマスは、再生可能な資源であり、カーボンニュートラルなエネルギーや製品原料として利用することが可能であり、また将来の社会においてはその利用が強く期待されています。他方、近年廃棄物資源の有効利用や環境保護の分野で多くの女性が重要な役割を果たしており、今後カーボンニュートラル社会を推進していくためには、女性の活躍が欠かせない重要な要素となっています。

そこで本企画セッションでは、資源を効果的かつ効率的に利用し、廃棄物処理の持続可能な方法を模索し、またカーボンニュートラル社会の早期実現のため、現在バイオマス利用の分野で活躍されている立場の異なる3名の女性研究者に話題提供を頂きます。話題提供では、廃棄物排出を最小化し、また有機廃棄物系資源循環利用を推進する取り組みについてご紹介いただくことで、参加者とともに最新の研究成果や事例を共有し、バイオマスの有効利用に向けた取り組みや女性の活躍について議論を深めます。参加者の皆様には自身の研究成果や経験、アイデアをご発言いただく自由討論の場も設けますので、積極的な参加をお願い申し上げます。

皆様との有意義な議論と情報交換を通じて、より良い未来に向けた一歩を踏み出せることを心より期待しています。

プログラム

司会：岐阜大学 小林 信介 （2023年度 バイマス系廃棄物研究部会長）

【話題提供】（45分）

「食品循環資源利活用の これまで と これから（仮）」

（株）エックス都市研究所 環境エンジニアリング事業本部 秦 三和子 様

「有機廃棄物の高付加価値化事業 ～リサイクル事業者としての新たな取組～（仮）」

株式会社 小桝屋 伊藤 あゆ美 様

「北海道におけるバイオマス利活用のいま

～コーヒー粕を活用したおが粉代替敷料の技術開発・実証の紹介～（仮）」

【自由討論 (有機廃棄物の有効利用と女性研究者の活躍について)】 (45分)

上記3件の話題提供に関する質疑応答の後、現状の有機性廃棄物利用における課題や新たなアイデア等について企画セッション参加者で自由に討論を行います。

「大阪工業大学における廃棄物分野の研究と最近の話題」

9月13日(水) 10:45~12:15 第2会場

(ごみ文化・歴史研究部会)

大阪工業大学における環境・廃棄物研究の歩みと今後の展開について、情報提供と共有を行う。講演を行う各研究室の研究内容及び取組については下記の通りである。

各研究室の研究内容及び取組

大阪工業大学工学部環境工学科	
循環基盤工学研究室 渡辺 信久 教授	自然・人間社会での物質循環を持続可能とする総合技術を目指し、有機ハロゲン化合物の環境安全な処理、重金属やアルカリ金属に起因する排ガス微粒子の集じんに取り組み、塩素と熱力学をキーワードとする環境科学の体系化を目指している。
バイオサイクル研究室 古崎 康哲 教授	化石燃料の使用を抑えるため、有機系廃棄物を資源(バイオマス)としてとらえ、微生物を利用した有効利用技術の研究を行っている。
水・資源循環工学研究室 日下部 武敏 准教授	水環境中あるいは下排水中の溶存有機物(DOM)や、新たな廃棄物である水銀など、環境対策が進んだ現在でも挙動が十分に解明されていない物質群がある。これらの課題に対して、新しい分析方法とグローバルな視点で取り組み、水環境分野と廃棄物資源循環分野で研究を行っている。
大阪工業大学工学部都市デザイン工学科	
地盤防災研究室 日置 和昭 教授	廃棄物資源循環という観点から、廃ガラスカレットの有効利用に関する研究を行っている。具体的には、廃ガラスカレットの物理・力学特性を明らかにし、気泡混合軽量盛土工法やサンドドレーン工法などへの適用性評価を行っている。

プログラム

・「排ガス中塩素ガスの幻影から見える循環科学」

大阪工業大学工学部環境工学科 渡辺 信久 教授

・「バイオメタネーションについて」

大阪工業大学工学部環境工学科 古崎 康哲 教授

・「水銀廃棄物について」

大阪工業大学工学部環境工学科 日下部 武敏 准教授

・「廃ガラスカレットの有効利用に関する最近の動向」

大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 日置 和昭 教授

市民展示・環境学習施設展示（一般公開・無料）

市民展示

■市民展示(実行委員会)

概要：以下の二日間、受付横ロビー(3号館1F)にて、消費者市民研究部会(主催)および以下の団体様に展示を頂きます。大阪を中心に活動する環境団体などから、廃棄物管理・削減、資源循環、環境調和、SDGs等の持続可能な社会に向けた各団体の取り組みについてパネル展示にてご紹介頂きますので、研究発表会参加者の皆様は是非足をお運び頂き、情報収集や交流をされて下さい。

さらに、別途タイムテーブル等に示す日時(場所)にて、市民フォーラムを開催(別案内参照)し、それぞれ短時間ですが各団体から口頭で活動紹介を発表頂きますので、こちらも来場いただければ幸いです。



9月11日(月)10:00～18:15 【多くのパネルで説明者が在席するメインタイム:11日 15:15～18:15】

9月12日(火)10:00～18:00

※上の時間中は各パネルに説明者が在席する予定ですが、団体様によっては1日のみの発表だったり、展示時間を短縮する場合があります。また一部時間しか説明者がおられない団体様もあります。

	展示団体名	展示タイトル
1	一般社団法人 持続可能環境センター	3R・低炭素社会検定
2	エコ〜ると京大	持続可能な社会を目指して!「みんなごと化」プロジェクト
3	大阪ごみ減量推進会議	「大阪ごみ減量推進会議の活動」「なぜごみ減量が必要か」
4	大阪友の会	SDGsを家庭から社会へ ～環境チェックを続けています～
5	(一財)環境事業協会	SDGs 自然農園「あわい農園」の取り組み
6	京都市ごみ減量推進会議 NPO 法人 環境市民	スーパーマーケット環境調査 2022 報告と 2023 活動
7	消費者市民研究部会	世界の分別箱・ごみ箱写真展 循環とくらし・C&G コーナー 等
8	天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会	天神祭ごみゼロ大作戦
9	特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ 21	豊中における資源循環の取り組み
10	Rびんプロジェクト	容器の優等生「リユースびん」について 啓発絵本、ポスター、パンフレット

ご専門外の展示内容でも、会場で気軽にお声がけください。

テーマ 「大阪・関西万博で広がる施設連携」

環境学習施設研究部会は、大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムに参画し、全国の環境学習施設を連携することを目的に、共創パートナー「全国まるごと SDGs パビリオン」を立ち上げました。展示コーナーでは、賛同して共創チャレンジの活動を担うグループを中心に展開し、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会のご協力で、大阪・関西万博の特設コーナーも設けています。また、秋の視察研修会 2023や日帰り視察研修会 2023のご案内等もありますので、是非ともご来場ください。

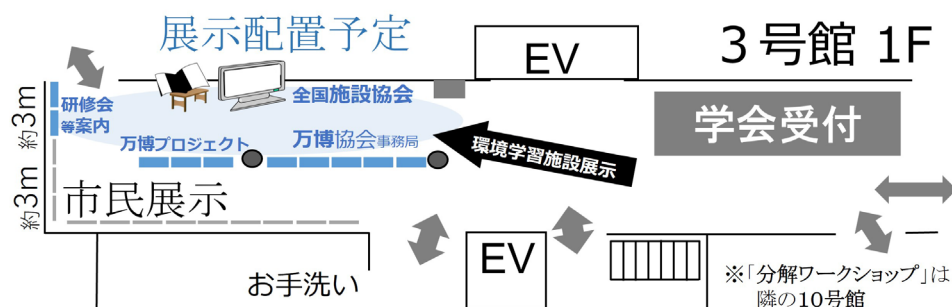
さらに、展示会場では、共創チャレンジ「Re 食器 SDGs パビリオン」の活動紹介と共に、**リユース食器の無料配布**を行います。また別会場にて、SDGs 意識を育むワークショップの実践と創成をめざす共創チャレンジの実演デモンストレーションとして、分解ワークショップの参加体験会も実施します。



● 展示会場

レイアウト参考図 会場:3号館1階エントランスホール(研究発表会受付の横)

(※ 当日のレイアウトは変更する場合があります)



出展協力：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、国崎クリーンセンター啓発施設(ゆめほたる)、NPO 法人豊中・伊丹環境政策フォーラム、NPO 法人エコライフはままつ

● 分解ワークショップ実演・体験：10号館 5F 1005A 共同ゼミ室

「分解ワークショップ」とは、廃棄製品(主に電子機器や電気製品)の分解を通して、現状の技術(モノの作られ方、製品の仕組み)と資源循環(分解の大変さ、資源の存在、処理の大切さ)を、手作業を通じて学ぶプログラムです。本研究発表会では、「分解ワークショップ」を実演し、みなさんに体験していただく場を設けました。**見学は自由**ですが、実際にワークショップに参加される場合は、**事前に申し込みが必要**です。

日時：2023年9月11日(月)～12日(火) 毎日3回(各回90分ほど)

第1回 10:00～11:30、第2回 13:30～15:00、第3回 15:30～17:00

内容：1 分解ワークショップの説明(約10分){ゆめほたる職員}

2 分解ワークショップ実施(約60分)

3 分解後の分別作業、整理整頓・清掃(約10分)

定員：各回10名まで(事前予約制、締切日時:定員に達する時点まで)

受付：Google フォームのみ <https://forms.gle/KNTJ2CLSi712J6ZD6> (先着順)

会場：大阪工業大学 大宮キャンパス 10号館 5F 1005A 共同ゼミ室(予定)

参加費：無料

出展協力：国崎クリーンセンター啓発施設(ゆめほたる)、大栄環境株式会社



申し込み先アドレス

● 環境学習フォーラム(無料)も合わせてご参加ください：9月11日(月)15:15～16:45 10号館4階 1041教室

分解ワークショップ参加者 募集要項

環境学習施設研究部会では、廃棄物処理施設に併設された学習施設での具体的プログラムについても開発や共有の対象としています。今回の研究発表会では、「分解ワークショップ」について実演し、みなさんに体験していただく場を設けました。

「分解ワークショップ」とは、廃棄製品（主に電子機器や電気製品）の分解を通して、現状の技術（モノの作られ方、製品の仕組み）と資源循環（分解の大変さ、資源の存在、処理の大切さ）を、手作業を通じて学ぶプログラムです。見学は自由ですが、実際にワークショップに参加される場合は、事前に申し込みが必要です。

【参照：「分解ワークショップ」】

地域も元気に、電気屋さんで小型家電リサイクル「分解ワークショップ」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsmcwm/26/0/26_43/_article/-char/ja/

社会発信型処理施設が目指すモノの活用・分解ワークショップが提供する知的な科学遊び

https://www.jstage.jst.go.jp/article/mcwmr/28/5/28_349/_pdf/-char/ja/

1：概要

日時(予定)：2023年9月11日(月)～12日(火) (※参加者多数の場合13日(水)も追加実施)。毎日3回(各回90分ほど)、次の時間枠で実施

第1回 10:00～11:30、第2回 13:30～15:00、第3回 15:30～17:00

内容：1 分解ワークショップの説明(約10分) {ゆめほたる職員}
2 分解ワークショップ実施(約60分)
3 分解後の分別作業、整理整頓・清掃(約10分)

定員：各回10名まで(事前予約制)

受付：Googleフォームのみ <https://forms.gle/KNTJ2CLS712J6ZD6> (先着順)

会場：大阪工業大学 大宮キャンパス 10号館5F 1005A 共同ゼミ室(予定)

http://webguidance.oit.ac.jp/img/2022/omiya_haichi2022.pdf

参加費：無料

講師：国崎クリーンセンター啓発施設(ゆめほたる)職員ほか

主催：廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会

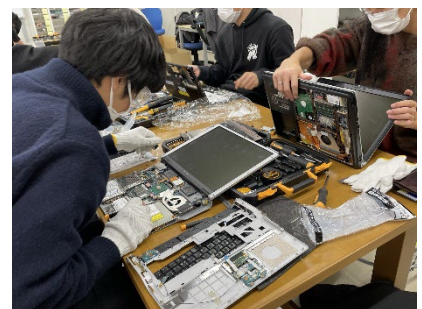
<https://jsmcwm.or.jp/educational-facility/>

協力：国崎クリーンセンター啓発施設(ゆめほたる)

大栄環境株式会社



申し込み先アドレス



2：募集要項

対象者

- ・ 環境や技術に興味のある方
 - ・ 学校教育や施設運営で分解ワークショップの実施を検討される方(大歓迎!)
 - ・ 各ワークショップ枠で、最初から最後まで(約90分)参加可能な方
 - ・ 本要項記載の個人情報取り扱い方針および注意事項をご確認の上、同意いただける方
- ※ワークショップのカリキュラム上、遅刻者の参加をお断りする場合があります。

募集人数 各回 10 名以内

(※ 定員に達した際はべ切前に受付を締め切らせていただく場合があります)

分解アイテムについて (分解アイテムは、当日若干ご用意しておきます)

参加者が所有の不要パソコンや電化製品 (ビデオデッキ、アンプ等) があればご持参いただき、ご自身の手で分解することを推奨いたします。会場に若干ご用意しておきますので、なくても大丈夫です。また、分解後のパソコンや電化製品は分別した後に本研究部会が処分いたしますので、ご安心ください。もし分解後に必要な (欲しい) 部品があれば、お持ち帰りいただくことも可能です。

応募方法

参加は事前に次の Google フォームでの応募が必要です。

氏名・連絡先・第 3 希望までの参加希望日時等をご入力ください。

受付アドレス : <https://forms.gle/KNTJ2CLSi712J6ZD6>

応募べ切 : 2023 年 8 月 31 日 (木) 18:00 まで

- ・ 先着順で受付を行います。応募内容が要件を満たさない場合には参加をお断りする事があります。
- ・ 持ち物などの詳細は、応募頂いた方へ別途ご連絡致します。

3 : 個人情報取り扱い方針および注意事項

「分解ワークショップ」(以下、本ワークショップといいます) は、廃棄物資源循環学会が主催する第 34 回廃棄物資源循環学会・研究発表会における事業 (以下、本事業) の一環で、環境学習施設研究部会 (以下、本研究部会) が開催するワークショップです。

【個人情報取り扱い方針】

本研究部会が取得する個人情報は、以下の目的で利用いたします。

- ・ 本ワークショップの応募者の管理のため
- ・ 本ワークショップの記録のため
- ・ 本ワークショップの応募者のご意見をアンケートなどにより収集し、事業成果の調査や本ワークショップに関連して今後開催されるセミナーやワークショップなど (以下、あわせて関連イベントといいます) へ反映させるため (かかる目的のため、本研究部会が取得した個人情報を関連イベントの主催者および関係者へ提供します。予めご承知ください。)

【注意事項】記録、写真・動画の公開

本事業の記録のため、開催中に写真・動画撮影等を行います。また今後撮影された写真・動画については、以下の通り公開する場合があります。掲載・公開を希望されない方は、本ワークショップ開催日までに本研究部会までお申し出下さい。

- ・ 本事業および本ワークショップを紹介する媒体への掲載、報告書への掲載
- ・ 本事業および本ワークショップにて開催する会議 (関係者向け) 等での利用
- ・ 本事業および本ワークショップの取組みに関する広報活動での利用および提供

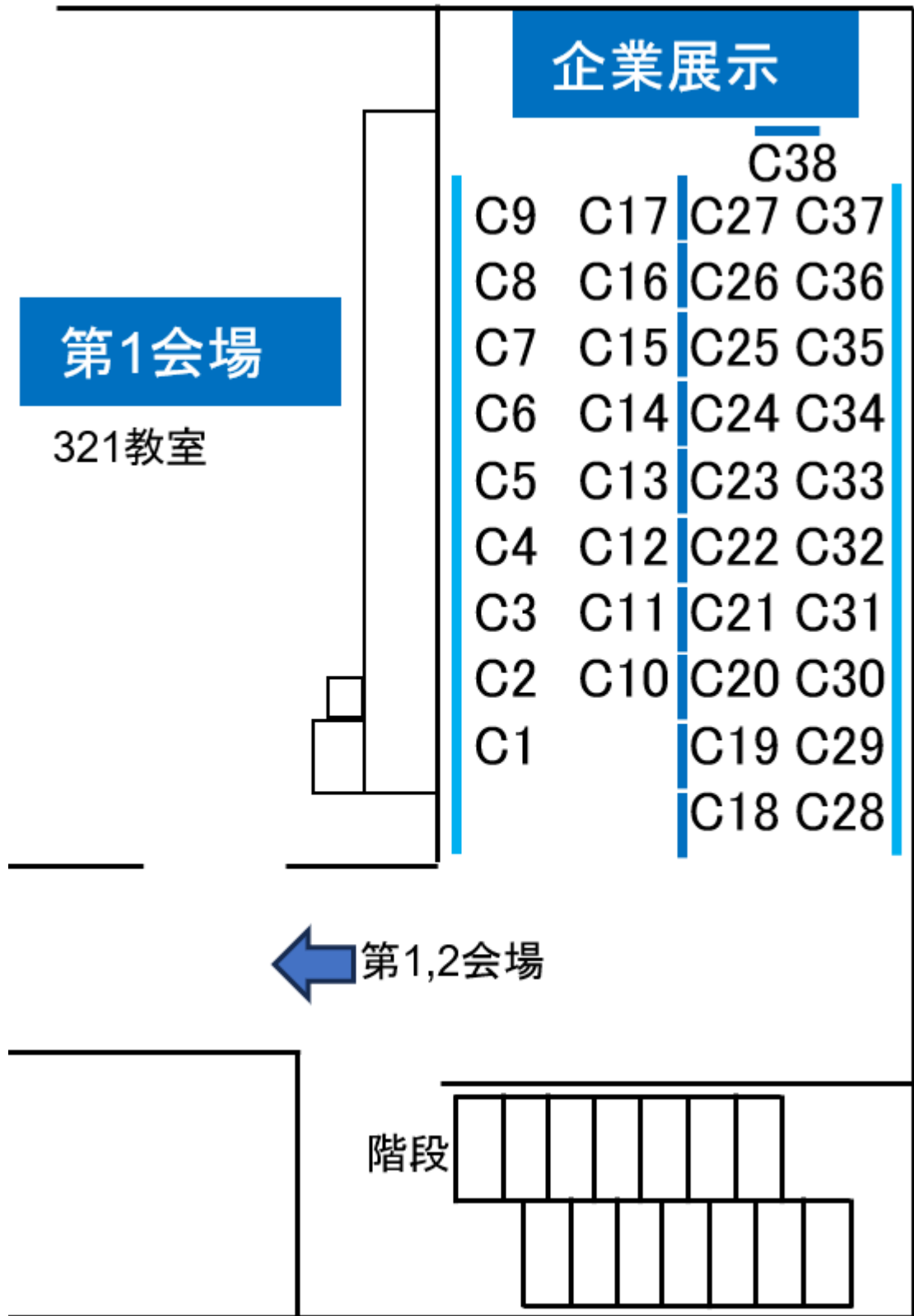
連絡先 : heikuro1@gmail.com

(担当 : 廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会 事務局 鈴木榮一)

協賛企業・団体等展示

番号	企業・団体
C1	神戸環境クリエート株式会社
C2	マイクロエコ株式会社
C3	京都電子工業株式会社
C4	株式会社N J S
C5	株式会社富山環境整備
C6	日鉄エンジニアリング株式会社
C7	一般財団法人日本環境衛生センター
C8	タキロンシーアイシビル株式会社
C9	鹿島建設株式会社
C10	公益社団法人日本産業廃棄物処理振興センター
C11	株式会社タクマ
C12	株式会社タクマテクノス
C13	日工株式会社
C14	荏原環境プラント株式会社
C15	鹿島環境エンジニアリング株式会社
C16	いであ株式会社
C17	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社
C18	株式会社環境管理センター
C19	還元溶融研究会
C20	株式会社大林組
C21	タクマエンジニアリング株式会社
C22	株式会社鴻池組
C23	株式会社東和テクノロジー
C24	太平洋セメント株式会社
C25	大阪ガス株式会社
C26	パシフィックコンサルタンツ株式会社
C27	株式会社地域計画建築研究所（アルパック）
C28	株式会社興徳クリーナー
C29	株式会社神鋼環境ソリューション
C30	クリアウォーター-OSAKA 株式会社
C31	川崎重工業株式会社
C32	株式会社タツタ環境分析センター
C33	日立造船株式会社
C34	株式会社プランテック
C35	JFE エンジニアリング株式会社
C36	月島アクアソリューション株式会社
C37	大阪湾広域臨海環境整備センター
C38	日本インスツルメンツ株式会社

3号館 2階



施設見学会

施設見学については以下の3コースをご用意しました。
参加者の方は集合場所、時間等お間違えなきようお願いいたします。

開催日：9月13日（水）

ご注意：

- ・参加者のご都合によりキャンセルされる場合は、参加費は返金いたしません。ただし、事前申し込み入金後に、参加者の発表日時との重複により参加困難となった場合にのみ返金いたします。
- ・第1コース、第2コースは午前半日、第3コースは午後半日のコースです。
- ・第1コース、第2コースの集合場所は JR 大阪駅桜橋口 大和ハウス工業前、第3コースの集合場所は大阪工業大学 1号館北側です。
- ・各コース共、貸し切りバスで移動します。貸し切りバスは搭乗者保険に加入しておりますが、車外のケガには対応していません。
- ・道路状況によっては解散時間に遅れが生じる場合もありますので、ご了承下さい。
- ・傘等の雨具および飲み物等は必要に応じて各自ご持参下さい。
- ・開催期間中に緊急連絡事項がある場合は、受付横にて掲示、案内いたしますのでご確認ください。
- ・新型コロナウイルス感染状況が変化した場合、見学の一部が中止または縮小されることがあります。

内 容	定 員	参加費
第1コース【ごみ焼却施設見学コース】 8:50 JR 大阪駅 集合(参加受付) 9:00 JR 大阪駅 バス出発 9:40 住之江工場着 9:40～11:30 住之江工場見学 11:30 住之江工場発 12:10 JR 大阪駅 解散	40 名	3,000 円
第2コース【廃ガラス他リサイクル施設見学コース】 8:50 JR 大阪駅 集合(参加受付) 9:00 JR 大阪駅 バス出発 9:40 山城工場 バス到着 9:40～11:00 ①山城工場見学 11:00 山城工場 バス出発 11:10 森屋工場 バス到着 11:10～11:40 ②森屋工場見学 11:40 森屋工場 バス出発 12:20 JR 大阪駅 解散	40 名	3,000 円
第3コース【建設系廃棄物他リサイクル施設見学コース】 12:20 大阪工業大学 集合(参加受付) 12:30 大阪工業大学 バス出発 13:30 DINS 関西株式会社 RAC 事業所 バス到着 13:30～15:30 見学(施設間は徒歩で移動) ①DINS 関西(株)RAC 事業所 ②(株)グリーンアローズ関西 ③(株)プラファクトリー 15:30 DINS 関西株式会社 RAC 事業所 バス出発 16:30 JR 大阪駅 解散	40 名	3,000 円

第1コース【ごみ焼却施設見学コース】

a)訪問先:大阪広域環境施設組合 住之江工場(大阪市住之江区北加賀屋4丁目1-26)

b)コース概要

- ・一般廃棄物焼却施設(ストーカ炉)
 - ー焼却炉: 200t/日×2 炉
 - ー処理方式: 全連続燃焼式(ストーカ式)
 - ー余熱利用設備: 自家発電設備(11,300kW) 1 式
 - ー敷地面積: 約 3.2ha(約 32,000 m²)
 - ー竣工: 令和 5 年 3 月
 - ー既存建物を利用した更新工事

住之江工場の建築物は、大部分が SRC(鉄骨鉄筋コンクリート)造であり、プラント設備の耐用年数に比べて耐用年数が長くなっております。そのため、インフラ設備の長寿命化を推進する考え方から、全面的な建替えではなく、現在の建物を流用して内部設備(プラント設備)のみを更新しました。建築構造物については耐震安全性を確保するとともに、浸水対策を実施し、震災に強い施設としています。



プラント外観(住之江工場資料より)

※本コースにつきましては、本年 12 月頃に、関西支部主催の技術セミナーとしても、同一場所への施設見学会を開催する予定としております。

第2コース【廃ガラス他リサイクル施設見学コース】

a)訪問先

藤野興業株式会社 資源リサイクルセンター

①山城工場(大阪府南河内郡河南町大字山城 165)

②森屋工場(大阪府南河内郡千早赤阪村大字森屋 630-1)

b)コース概要

・資源リサイクルセンター

廃棄物の中間処理をする工場(ペットボトルプラント、プラスチックプラント、びん缶プラント)と、廃棄物をリサイクルし再商品化する工場(ガラスプラント、泥化処理プラント)を持ち、廃棄物の分別、破碎を行って、再資源化を図っています。これらの工場から、創出されるリサイクル製品は、その多くが各種製品製造のための原材料となる素材製品であり、品質や形状、数量など、生産者の方のこまやかな要望にもお応えできるものです。

【ガラス素材(クリスタルストーン・サンド)】

廃ガラスや瓶などを破碎プラントで碎き粒状にしています。その際に粒度調整は自在に調節が可能です。工程の中でガラスの持つ鋭利な角はすべて削り取られる(エッジレス加工)ので安全・安心な素材になります。インターロッキングブロック用敷砂・目地砂や透水性・保水性樹脂系舗装用すべり止めカラー骨材、ゴルフ場向けバンカー砂・芝生育成用目砂など様々な用途に利用されています。

【クリスタルストーン・サンド混合泥化処理土】

建設現場から排出される建設残土と廃ガラス・びんをリサイクル加工したクリスタルストーンサンドを泥化処理することで生まれるこの「土」は、高い流動性を持つ故に、通常の土では埋め戻しが困難である溝や空洞(古井戸や廃止浄化槽など)の埋め戻しには最適であり、締め固めが不要で透水性も低いため、汎用性に富み、その上コストパフォーマンスに優れています。



①山城工場



②森屋工場

施設外観(藤野興業 HP より)

第3コース【建設系廃棄物他リサイクル施設見学コース】

a)訪問先

大栄環境グループ

- ①DINS 関西株式会社 RAC 事業所(大阪府堺市西区築港新町四丁 2 番 3 号)
- ②株式会社グリーンアローズ関西(同上)
- ③プラファクトリー株式会社(同上)

b)コース概要

①DINS 関西株式会社 RAC 事業所

・建設系混合廃棄物中間処理施設

建設現場や工場からの混合廃棄物を受け入れ、高度選別によって確保した良質な資源を製紙や鉄・非鉄の精錬工程にマテリアル原料として提供しています。また、その他の資源は、大栄環境グループの各リサイクル施設へ送られ、路盤材や無水石膏、RPF などの再生製品となり、再資源化の促進に貢献しています。

②(株)グリーンアローズ関西

・石膏ボードリサイクル施設

通常、老朽化した建物の解体工事で発生した廃石膏ボードはリサイクルが難しいとされておりますが、グリーンアローズ関西では、独自の破碎ラインにより、異物除去に優れた設備構造となっているため、壁紙などの異物と石膏を完全に分離し、質の高い二水石膏を得ることができます。

③(株)プラファクトリー

・リサイクルプラパレット製造工場

社会課題となっているプラスチック廃棄物の課題解決のため、2020 年 4 月に大阪府堺市に設立。容器包装プラスチックを主原料とした物流用のリサイクルプラスチックパレットを生産し、廃プラスチックの資源循環を推進しています。2021 年度までは年間 30 万枚のプラスチックパレットを製造していましたが、2022 年度から生産量を倍増する施設を整備しています。



①DINS 関西



②グリーンアローズ関西



③プラファクトリー

施設外観(大栄環境グループ HP より)

<集合場所>

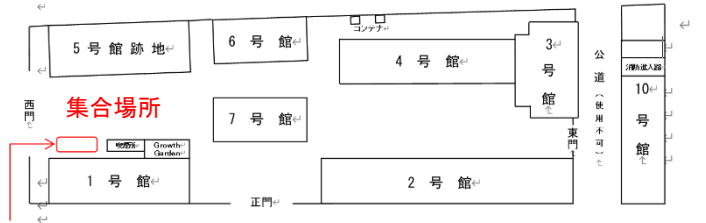
第1コース、第2コース

JR 大阪駅桜橋口 大和ハウス工業前



第3コース

大阪工業大学 1号館北側



全国環境研協議会発表会

地方環境研究所で構成される全国環境研協議会（全環研）と廃棄物資源循環学会の廃棄物試験・検査法研究部会との共催による研究発表会です。全環研からは地方環境研究所が行っている廃棄物に関連した研究発表を、廃棄物試験・検査法研究部会からは廃棄物にかかる分析方法等に関する情報提供をいただき、活発な意見交換を通じて廃棄物等に関する諸問題について考えます。

日時：9月13日（水） 9:30～12:15

場所：大阪工業大学（大宮キャンパス）

プログラム（敬称略）

第1部 全国環境研協議会研究発表会（9:30～10:30）

進行 東京都環境科学研究所

- (1) 都市ごみ焼却施設から定期的な頻度で採取した集じん灰の溶出液中の鉛濃度に関する考察

大阪市立環境科学研究センター 酒井 護

- (2) 廃棄物に含まれるペルフルオロオクタンスルホン酸の分岐異性体の分析及び飛行時間型質量分析装置による感度差について

沖縄県衛生環境研究所 井上 豪

- (3) 食品ロス削減の取組による定量的削減効果の事例調査

東京都環境科学研究所 小泉 裕靖

第2部 廃棄物試験・検査法研究部会との情報交換会（10:45～12:15）

「海洋へのプラスチックごみ流出量の測定の試み～河川のマクロプラの調査の事例～」

1 話題提供

- (1) 排水機場におけるごみ組成調査と結果概要

株式会社環境管理センター 金子 紋子

- (2) ドローンを活用した散乱ごみの試行的調査 ―河道内のごみ組成および荒天の影響―

神奈川県環境科学センター 代田 寧

- (3) 川ごみモニタリングの紹介

八千代エンジニアリング 吉田 拓司

2 パネルディスカッション

※ 内容・発表順は変更されることがあります。

参加申込方法

参加費（お1人様あたり）

	研究発表会参加費 (会員は不課税、非会員は課税)		意見交換会 (税込、要事前申込み)
	事前申込 (早期割引料金)	通常参加申込又は当日参加申込 (通常料金)	
正、フェロー、シニア、 公益、賛助会員所属	8,000 円	10,000 円	7,000 円
学生、個人市民 登録団体市民会員	4,000 円	5,000 円	6,000 円
非会員	12,000 円	15,000 円	9,000 円

参加申込について

口頭発表をオンラインで聴講される方も、上記参加費にて参加申込を受け付けます。
すべての方へ、可能な限りオンラインでの参加登録をお願いします。

1. オンラインでの参加登録

下記の参加登録期間に以下の登録サイトよりお申し込みください。

登録サイト <https://jsmcwm.confit.atlas.jp>

◆事前参加登録（早期割引料金適用）期間：7月11日（火）～8月10日（木）

クレジット決済・振込期限：8月31日（木）

◆通常参加登録（通常料金適用）期間：8月11日（金）～9月13日（水）（会期中も申込可能）

クレジット決済・振込期限：設定していません。速やかに参加費をお支払いください。

※参加登録は参加者それぞれのお名前でお1人ずつ、アカウント設定・参加申込が必要です（筆頭者による同行者のまとめ申込はできません）。

※複数参加者の参加費をまとめてお支払いされる場合は、上記参加登録サイト「支払い方法」をご覧ください。

2. 当日受付

会場受付にてお手続きいただけます（通常料金）。

期間：9月11日（月）～9月13日（水）

◇参加証、請求書および領収書は登録サイトからダウンロードが可能です。

◇参加証は事前に郵送いたしません。十分ご注意願います。

◇現地参加の際には、必ず印刷した参加証をご持参ください。

ご持参の方は受付手続き不要です。

◇意見交換会および施設見学会の参加登録も受け付けます。

定員となり次第受付終了となりますので、ご了承ください。

◇ご入金後のキャンセルにつきましては、参加費の返却は一切いたしません。

◇参加申込者への電子版講演原稿DL用PWは8月下旬にお知らせ予定です。

3. 意見交換会・施設見学会

開催日は以下のとおりです。開催場所、参加費等詳細は大会サイトをご覧ください。

意見交換会：9月12日（火）

施設見学会：9月13日（水）

大会サイト <https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/>

問合せ先

一般社団法人廃棄物資源循環学会事務局：03-3769-5099 またはメール[jimu@jsmcwm.or.jp]

お問合せはなるべくメールにてお願いします。

参加発表ガイドライン

参加者ガイドライン

第34回大会は、すべて会場現地での発表となります。なお、オンラインからの参加者のために、口頭発表はオンラインでも配信します。参加者は注意事項を熟読のうえ、ご参加下さい。

口頭発表者の皆様

発表用スライド事前提出・動作確認を9/6(水)に行います。発表ファイルの事前提出にご協力ください。（詳細は後述）

1. 現地参加

- ❖ 参加案内2ページに示しているとおり、会場となる大阪工業大学の構内における基本的感染対策（マスク着用、手指衛生、換気、「三つの密」の回避）については、ご自身の判断で実施してください。感染状況や政府・府・会場の対応方針は変化する可能性がありますので、研究発表会専用ページを随時ご参照いただきますようお願いします。
- ❖ オンライン会場（Zoom URL）は、学会参加者のみに提供しております。会場URLをメール等で他者に伝えること、SNS等でURLを公開することを禁止と致します。
- ❖ 写真・動画撮影など発表の妨げになる行為はお控え下さい。
- ❖ 当日のトラブル対応状況については、発表会HP（<https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/>）をご覧ください。

～ポスターセッションについて～

- ❖ ポスター発表は現地開催のみとなっています。
- ❖ ポスター会場は、3号館の2F～4Fです。発表プログラムで日程及び会場を確認してください。

2. オンライン参加

- ❖ オンライン会場（Zoom URL）は、学会参加者のみに提供しております。会場URLをメール等で他者に伝えること、SNS等でURLを公開することを禁止いたします。
- ❖ 発表の妨げになる行為はお控え下さい。
- ❖ 音声途切れる場合がありますが、サーバーダウンでない限り主催者は責任を負いません。
- ❖ 質疑応答の時間以外での全体チャットの使用はお控え下さい。（座長及びホストが許可した場合を除く）
- ❖ Zoomでの表示名を「氏名（所属）」としてください。**例：「廃棄物太郎（循環研）」**
- ❖ 当日のトラブル対応状況については、発表会HP（<https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/>）をご覧ください。
- ❖ 当日の注意点について、以下をご確認ください。
 - 各セッションへの参加は、お知らせいたしましたZoom URLよりお願いします。
 - Zoom会場に参加後はマイク・カメラをオフにしてください。
 - 接続後、画面共有で表示されている会場名、セッション名等を確認してください。
 - セッション終了後は会場から退出下さい。途中退室・入室は自由です。

口頭発表ガイドライン

不測の事態に対する対応のため、全ての発表者に発表ファイルを事前提出していただきます。

発表ファイルの事前提出および動作確認について

- 発表ファイル形式は、.pptx(Microsoft Office 2019 で動作するもの)または.pdf としてください。
- 発表者のメールアドレスにZoom の URL をご案内します (8月下旬予定)。下記の時間帯に URL にアクセスしてください。Zoom での表示名を「講演番号-氏名(所属)」としてください。例：A1-7-O 廃棄物太郎(循環)

提出の時間帯： 9/6(水) 9:00~12:00、13:00~17:00

ファイル名： 講演番号_氏名(所属)

例：D1-2-O_資源廃棄物(大阪工業大学).pptx または
D1-2-O_資源廃棄物(大阪工業大学).pdf

- Zoom のチャット機能を用いてファイルを提出していただきます。担当者の指示に従い、ファイルを提出してください。(画面共有にてファイル提出および動作確認の方法を説明いたします。)
- ご都合がつかない場合は、9/8(金) 17:00 までに以下にメールで提出して下さい。

<2023osaka.conf@gmail.com> (可能な限り 9/6 の事前提出・動作確認にご協力ください。)

- 発表当日の提出・動作確認は受け付けられない場合があります。

口頭発表ガイドライン

- ❖ 発表時間は交替時間を含めて 15 分間とし、発表 10 分間、質疑応答 5 分間を原則とします。発表前の準備に時間がかかった場合は、講演者の発表時間を短縮させるなどして調整していただきます。座長の指示に従ってください。
- ❖ Zoom での画面共有までは 会場係 が行いますが、それ以降は発表者自らが会場のノートパソコンを操作し、発表を行ってください。
- ❖ 発表ファイルの事前提出 にご協力ください (9/6(水))。また、ファイルの動作確認は 9/6(水) のみ可能です (詳細は上記)。当日の提出・動作確認は受け付けられない場合があります。
- ❖ 発表開始時刻に遅刻した場合は原則発表できません。時間を超過した場合は発表を打ち切られることがあります。なお、原則として発表者が発表予定時刻となっても不在の場合は講演中止としますが、以降の講演は繰り上げることなく予定通り行います。
- ❖ 発表言語は、日本語もしくは英語です。
- ❖ 事情により講演時間に遅れる場合は、下記問合せ先にご連絡下さい。

学生を対象とした優秀講演賞について

- ・口頭発表セッションでは、学術研究委員が選定した2~3名の審査により、優秀講演賞を選出する予定です。
- ・学生による発表が選考対象となります。
- ・「発表内容」、「発表の分かりやすさ」、「質疑の対応」の3項目について審査を行います。
- ・審査結果を学術研究委員会が集計し、優秀講演賞の選出を行います。
- ・学会終了後、優秀講演賞受賞者の一覧を学会HPに掲載します。

~口頭発表に関する問い合わせ~

担当：実行委員会会場担当、日下部 武敏

事前・当日：2023osaka.conf4inquiry@gmail.com

ポスター発表ガイドライン

発表者は注意事項を熟読の上、発表の準備並びに参加・発表をお願い致します。なお、オンライン中継はしませんのでご了承下さい。

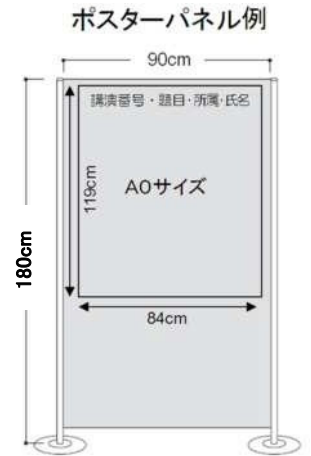
ポスター発表ガイドライン (9/11 (月) 17:00~18:15、9/12 (火) 13:30~14:45)

(1) 発表ポスターの作成

- ❖ パネルとポスターのサイズは、右の「ポスターパネル例」を参考にして下さい。
- ❖ パネルの最上部タテ 10cm 部分には大きな文字で、講演番号、題目、所属、氏名を明記して下さい。
- ❖ 実験サンプル等を持ち込むことは可とします。ただし、かさばるもの、電源を必要とするもの、商品宣伝の意図を強く題した内容のものは不可とします。

(2) 発表ポスターの貼付と撤収

- ❖ ポスター発表の場所は3号館2階、3階、4階の3か所です。詳細は次頁をご覧ください。
英語のポスターは2階に集約しています。
- ❖ 貼り付けは9月11日(月) 9:00 から行えます。
- ❖ ご自分の掲示場所を確認した後、各フロアの廊下中央辺りにある机から画鋏あるいは磁石(学会が用意する専用のものをお使いください)を取って、各自でポスターを貼り付けて下さい。また発表者の方はリボンを取って発表時間には付けるようにして下さい。
- ❖ 以下の発表時間にはポスターの前で説明を行ってください。なお、ポスターの貼付位置は、次ページの通りです。



P1 9月11日(月) 17:00~18:15

P2 9月12日(火) 13:30~14:45

- ❖ ポスターは発表者の責任で9月13日 9:15 までに撤収してください。撤収時刻後に残ったポスターは、許可を得ず処分します。

優秀ポスター賞・国際ポスター賞について

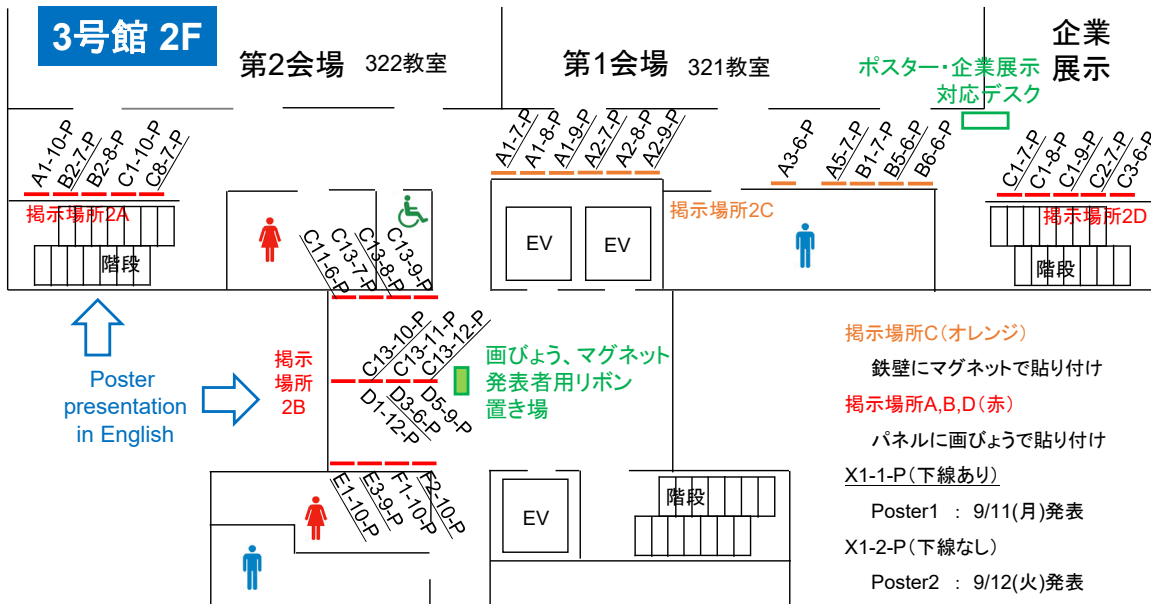
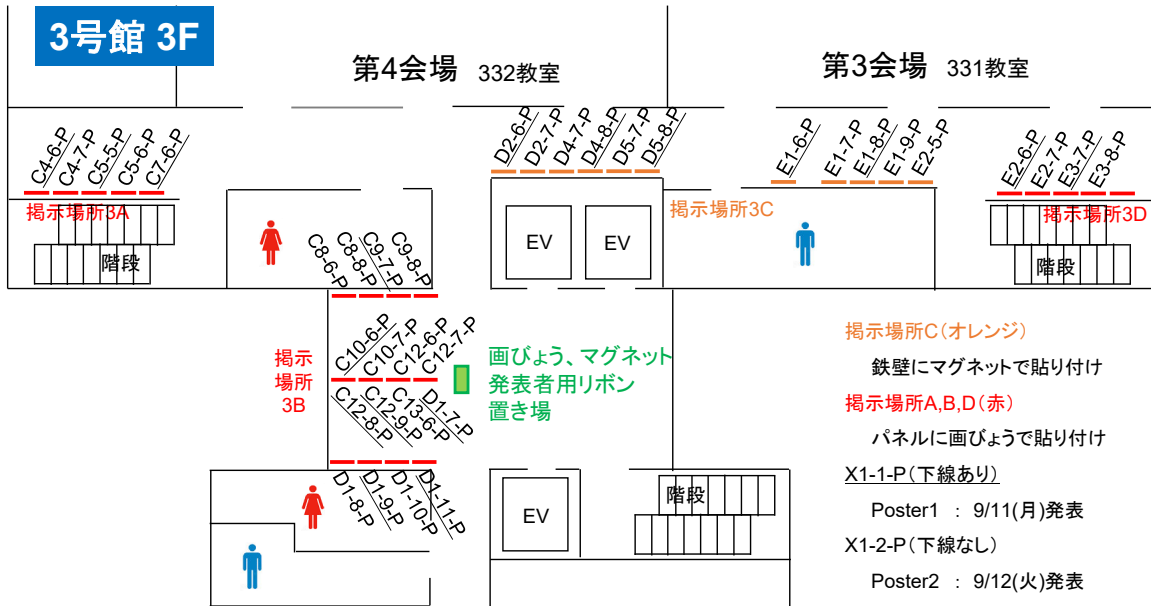
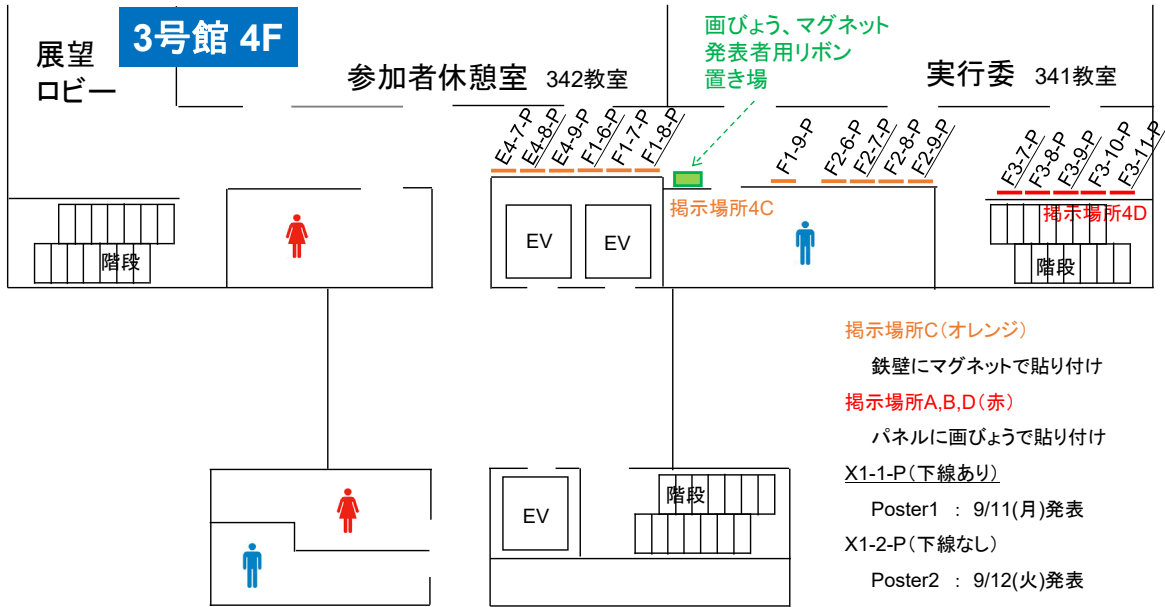
- ・ポスターセッションでは、学術研究委員会および国際委員会の審査により優秀ポスター賞を選出する予定です。
- ・ポスター発表の時に貼付されていないポスターは審査対象外とします。
- ・学会終了後、優秀ポスター賞受賞者の一覧を学会HPに掲載します。

～ポスター発表に関する問い合わせ～

担当：実行委員 早川 健一

(事前・当日) 2023osaka.conf4inquiry@gmail.com

現地発表ポスターの貼付位置



Guidelines for the 34th annual conference of JSMCWM

Participant guidelines

The conference will be held onsite and will be streamed via Zoom. Please read the following guidelines carefully.

- Oral presenters will be asked to submit your presentation slides **in advance** and check their Zoom operation on September 6th (Wed.). Detail information is shown in the next page.
- Please cooperate in submitting your presentation file in advance. Thank you.

1. Onsite participation

- ❖ The online room (ZoomURL) is provided only to conference participants. Telling the URL information to others by e-mail or SNS etc. are strictly prohibited.
- ❖ Recording, photography, screenshots, etc. of the presentation are prohibited.
- ❖ Poster presentations will be held on-site only.
- ❖ Please see the conference website for the status of troubleshooting on the day.
<https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/> (Sorry, in Japanese)

2. Online participation

- ❖ The online room (ZoomURL) is provided only to conference participants. Telling the URL information to others by e-mail or SNS etc. are strictly prohibited.
- ❖ Recording, photography, screenshots, etc. of the presentation are prohibited.
- ❖ Audio may be interrupted, but JSMCWM is not responsible unless the server is down.
- ❖ Please change your name on Zoom to "Name (Affiliation)". Ex) Haikibutu Taro (Circular Univ.)
- ❖ Please turn off the microphone and camera after participating in the Zoom room.
- ❖ Please do not use chats unnecessary.
- ❖ Please leave the Zoom room after the session is over. You are free to leave or enter the room at any time.
- ❖ Poster presentations will be held on-site only.
- ❖ Please see the conference website for the status of troubleshooting on the day.
<https://jsmcwm.or.jp/taikai2023/>

Presentation Guideline

1. Oral presentation

- ❖ For smooth session management, oral presenters should submit your presentation files in advance.

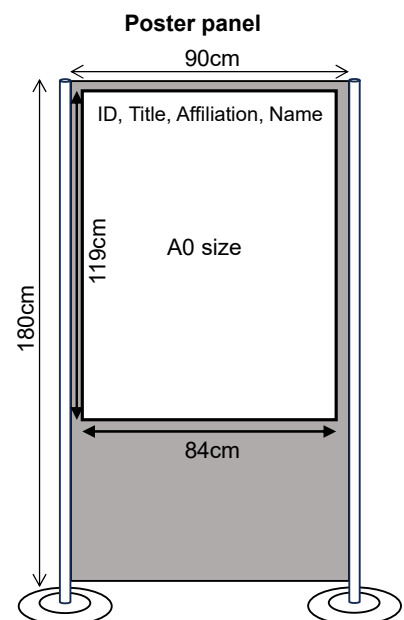
Pre-submission of presentation files and confirmation of Zoom operation

- Please access the Zoom URL announced in the email from the JSMCWM office sent in late August and follow the instructions of the person in charge to accept your file. Confirm that your file work appropriately.
- Pre-submission is open at 9:00-12:00 and 13:00-17:00 (JST) on September 6th (Wed).
- File submission and checking may not be accepted at the venue.
- The file format should be .pptx (which works with Microsoft Office 2019) or .pdf.
- Please name the file "Presentation Number_Your Name (Affiliation)".
e.g., A1-1-O_YOURNAME (XYZ University)
- Please submit your file using Zoom chat box. The staff will direct you.
- If you are unable to submit the file during the period, please submit the file as an email attachment to <2023osaka.conf@gmail.com> by 17:00 (JST) on September 8th (Fri.).

- ❖ Each presentation time is 15 minutes. (Presentation 10 min. + Q&A 4 min. + substitution 1 min.)
- ❖ Screen sharing on Zoom in PC in the on-site room will be done by the staff. Then you operate the PC by yourself.
- ❖ For smooth session management, please come to the Room at the start time of your session. The chairperson will confirm your attendance 5 minutes before the session. The presentation will be canceled if you are not at the scheduled time.
- ❖ Even if there is a cancellation, the subsequent presentations will be held as scheduled.
- ❖ Recording, photography, screenshots, etc. of the presentation are prohibited.
- ❖ Student award selection is conducted. Oral presentations by students will be evaluated by the committee based on "Contents of the study", "Presentation clarity", and "Discussion during Q&A time." The list of awardees will be posted on the JSMCWM website in late September.

2. Poster presentation

- ❖ Session time:
Poster 1 Sept. 11th (Mon) 17:00-18:15, Poster 2 Sept.12th (Tue.)13:30-14:45
- ❖ Poster session is held on 2nd – 4th floor in Bld No.3.
English posters are concentrated on the 2nd floor (2A & 2B area).
Please confirm the area on the map in the next page.
- ❖ Size of the poster should be A0 size (84cm wide X 119 cm high).
The poster panel size is 90 cm X 180 cm.
- ❖ Allocate the upper part of the panel (about 10cm high) for the presentation number, title, authors and institution written in large font size.
- ❖ You may bring in the sample of the experiment. However, things which are bulky, require power sources, or intended for commercial purposes are not accepted.
- ❖ You can put up your poster from 9:00 on Monday, Sept.11th.
- ❖ Take a thumbtack from the desk in the session area and put up your poster on your own panel.
- ❖ Presenters should wear a ribbon during their presentations time.
- ❖ Posters must be removed by 9:15 on Wednesday, Sept.13th.
Remaining posters are disposed of without permission.
- ❖ Excellent poster awards will be selected by the international committee of JSMCWM.
Posters that are not displayed during the poster session (on both days) will not be eligible.
The list of excellent poster award winners will be posted on the JSMCWM website.

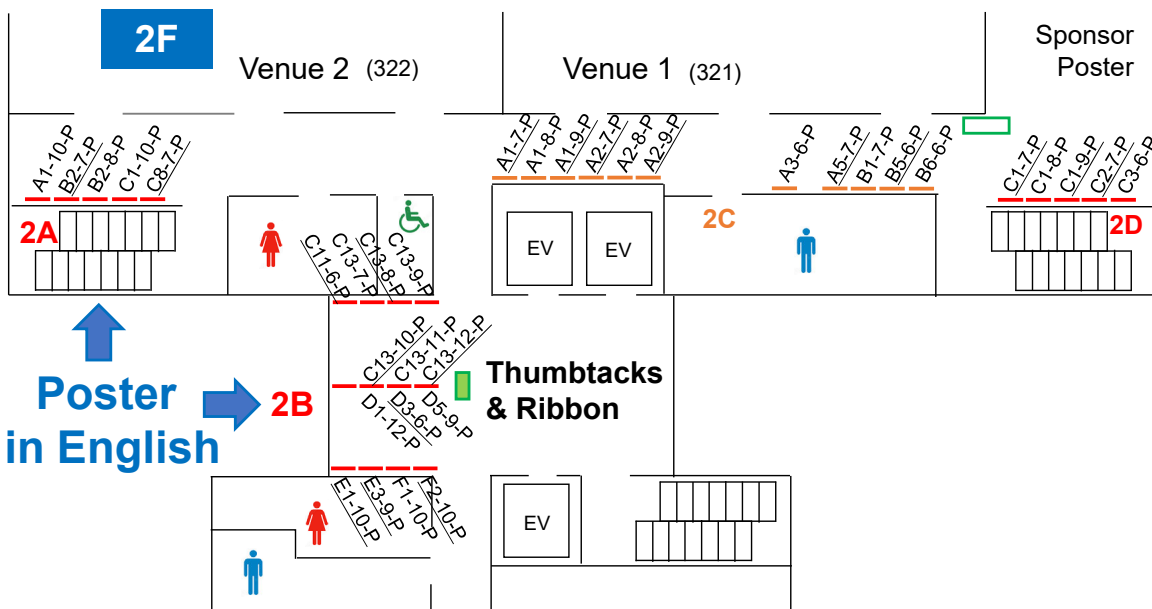
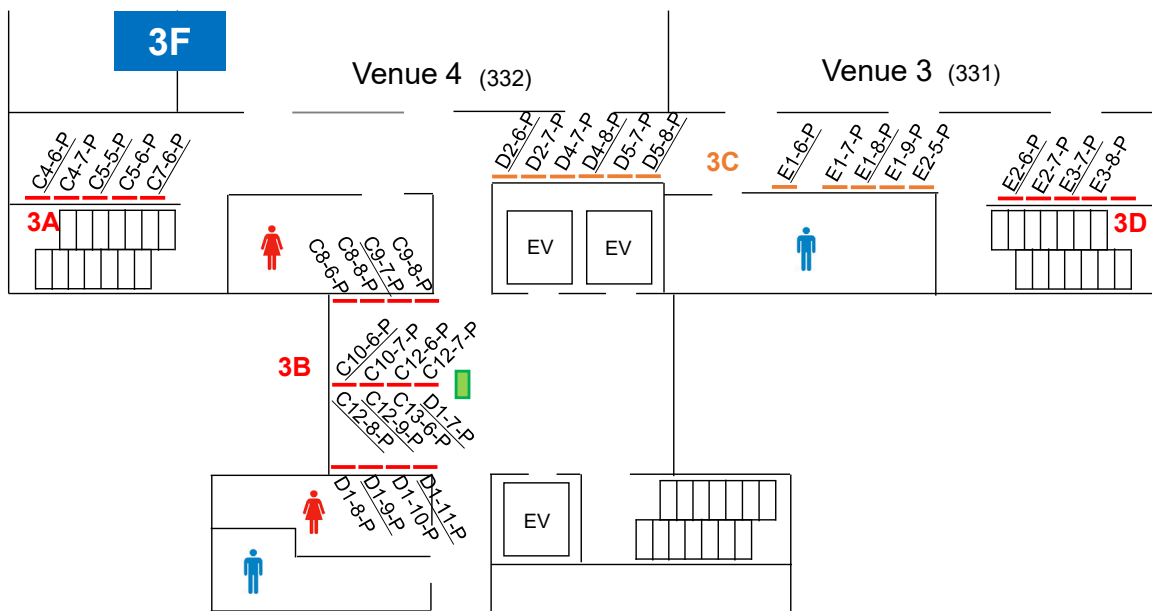


Contact Information

JSMCWM Executive Committee, Satoshi MIZUTANI

2023osaka.conf4inquiry@gmail.com

Map for Poster presentation (Bld. No.3) [English posters area: 2A & 2B]



協賛企業・団体



協賛企業・団体



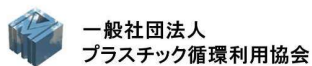
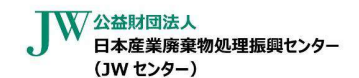
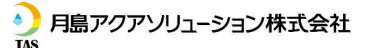
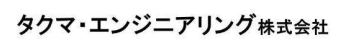
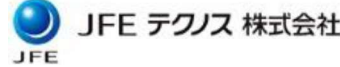
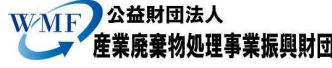
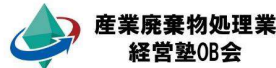
大阪環境保全株式会社



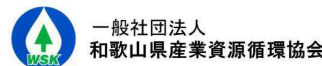
大阪市清掃連合協同組合



還元溶融研究会



明文舎印刷株式会社



会場へのアクセス・会場案内図

会場と周辺マップ



出典：国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/vector/#14.664/34.726911/135.547401/&ls=vblank&disp=1>

●所在地

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

●交通機関案内 ※自家用車での来場はご遠慮ください。公共交通機関の利用をお願いします。

JR 大阪駅より

- ・大阪駅前バスのりば9番(御堂筋南口すぐ)、大阪シティバス34系統「守口車庫前」行き乗車、「中宮」下車(徒歩3分)
(大阪駅前から中宮バス停まで、約25分、料金210円)

JR 城北公園通駅より

- ・「赤川一丁目」バス停から、大阪シティバス「10」系統「守口車庫前」行き乗車、「中宮」下車(徒歩3分)
- ・城北公園通駅下車(徒歩30分)

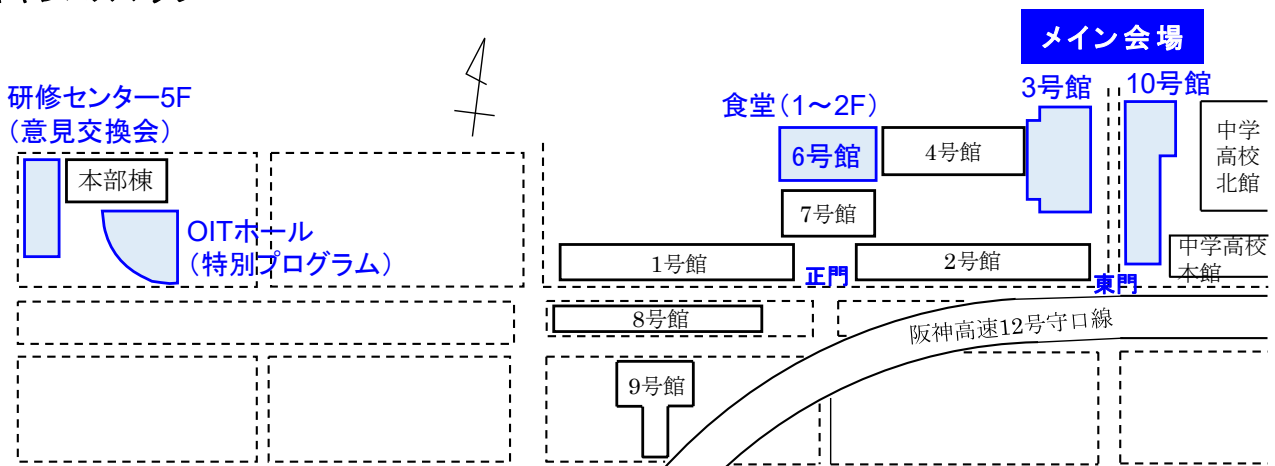
京阪本線

千林駅下車(徒歩20分)

地下鉄(Osaka Metro)

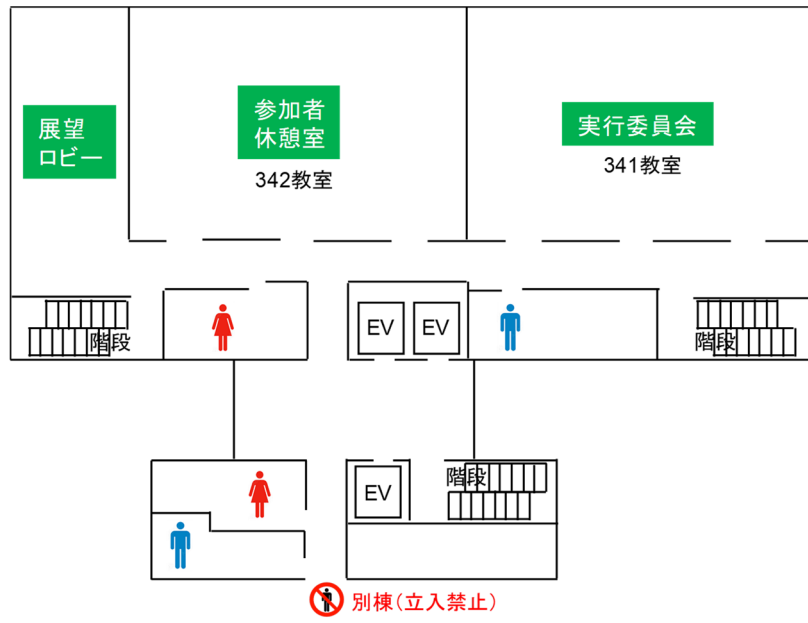
- ・谷町線・千林大宮駅下車(徒歩12分)
- ・谷町線/今里筋線・太子橋今市駅下車(徒歩12分)

●キャンパスマップ

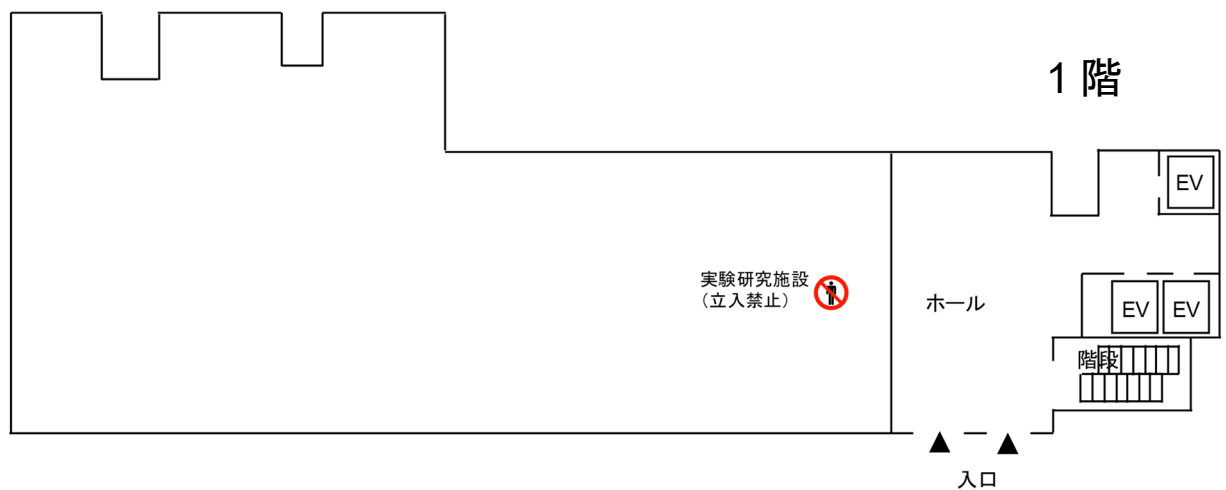
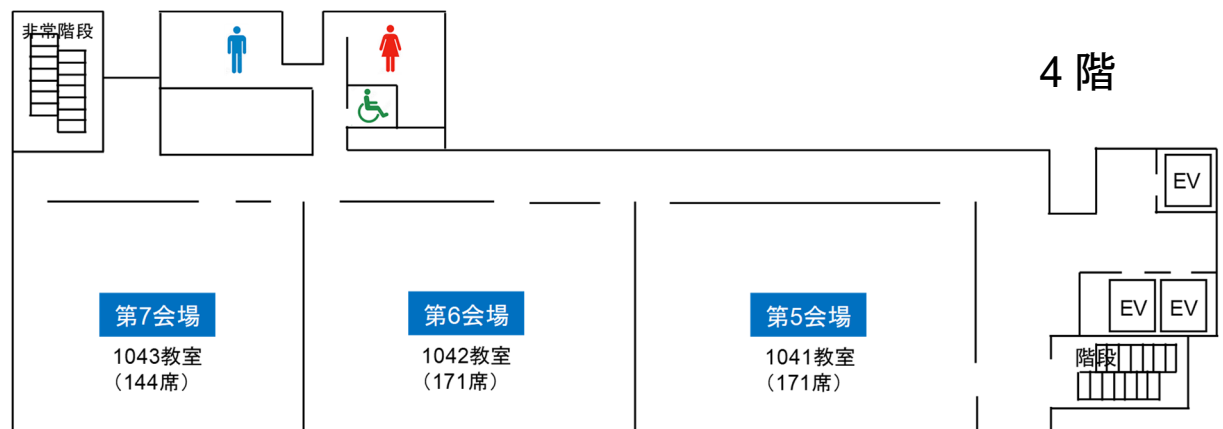
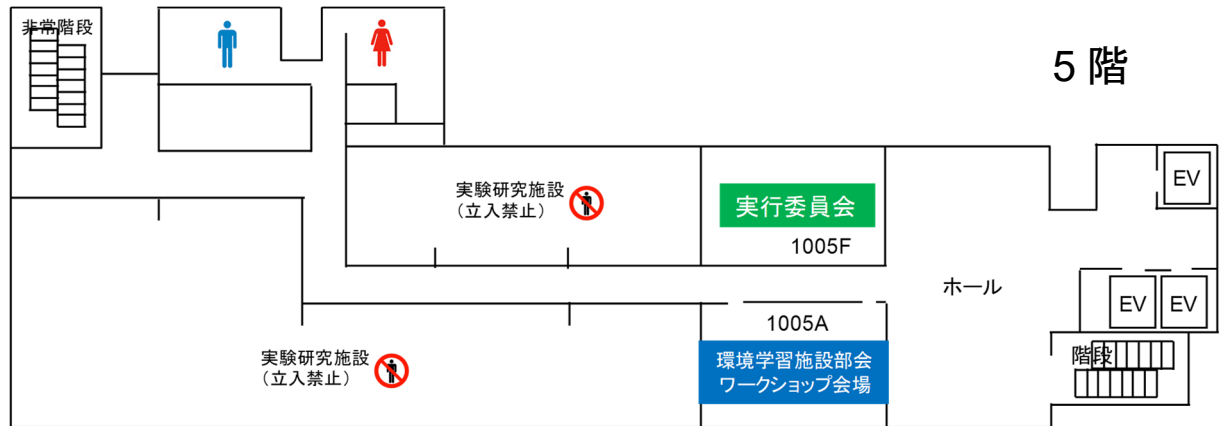


【3号館】

4階



【10号館】



昼食について

- 6号館1～2階に学生食堂があります。
ラストオーダーは13:30です。
混雑緩和のため2階も開放していますので、1階で受け取って2階もご利用ください。
- 大宮キャンパス周辺には飲食店やコンビニがあります。

第34回研究発表会(大阪大会) タイムテーブル

	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	ポスター会場1, 2, 3	企業展示	市民展示	環境学習施設展示	分解ワークショップ	受付	施設見学会
	321教室	322教室	331教室	332教室	1041教室	1042教室	1043教室	3号館2F,3F,4F	3号館2F	3号館1F	3号館1F	10号館5F 共同ゼミ室	3号館1F	(3コース)
9月1日(月)	9:30-10:45 A3: 住民意識・環境教育	9:30-10:45 D2: 熱分解・ガス化・溶融	9:30-10:45 B5: LCA・低炭素社会(1)	9:30-10:45 F1: 有害性物質の測定・検査法および試算	9:30-10:45 C4: 建設廃棄物・その他無機廃棄物	9:30-10:45 C7: 堆肥化・飼料化	9:30-10:45 E1: 最終処分場の維持管理・モニタリング		10:00～ 展示開始	10:00～ 展示開始	10:00～ 展示開始	第1回 10:00-11:30 第2回 13:30-15:00 第3回 15:30-17:00	8:45～	
	11:00-12:00 A4: 食品ロス	11:00-12:15 D3: 熱分解・ガス化・炭化	11:00-12:15 B6: LCA・低炭素社会(2)	11:00-12:15 F2: 有害性物質の挙動・無害化処理(1)	11:00-12:00 C5: 自動車・電池および強電機器	11:00-12:15 C8: バイオガス化・燃料化	11:00-12:00 E2: 埋立地早期安定化							
	昼食休憩							13:00-15:00 国際シンポジウム						
	13:30-15:00 A5: 産業廃棄物	13:30-15:00 D1: 焼却	13:30-15:00 B1: 廃棄物管理・計画(1)	13:30-15:00 F3: 有害性物質の挙動・無害化処理(2)	13:30-15:00 消費者市民・行政研究部会(市民フォーラム)	13:30-15:00 C9: メタン発酵(1)								
9月12日(火)	9:00-10:30 A1: ごみ発生抑制・性状分析	9:00-10:30 D5: 発電・熱利用	9:00-10:15 B3: 災害廃棄物の管理・計画	9:00-10:30 C2: 容器包装・プラスチック(2)	9:00-10:30 C6: 廃電気電子製品	9:00-10:15 C11: 汚泥・その他有機廃棄物	9:00-10:30 E3: 浸出水・発生ガス					第1回 10:00-11:30 第2回 13:30-15:00 第3回 15:30-17:00	8:30～	
	10:45-12:15 A2: ごみ発生抑制・物質フロー分析	10:45-12:15 D6: 焼却主灰・飛灰	10:45-11:45 B4: ごみ文化・歴史	10:45-12:00 C3: 容器包装・プラスチック(3)	10:45-12:15 産廃研究部会	10:45-12:00 C12: 食品廃棄物・生ごみ	10:45-12:15 E4: 有害物質の溶出・土壌汚染							
	昼食休憩		12:15-13:30 若手の会	昼食休憩										
								13:30-14:45 ポスターセッション2						
9月13日(水)	15:00-17:15 特別プログラム(OITホール)											第1回 10:00-11:30 第2回 13:30-15:00 第3回 15:30-17:00	8:30～	<<午前>> 第1コース【ごみ焼却施設見学会コース】 第2コース【廃ガラス他リサイクル施設見学会コース】 <<午後>> 第3コース【建設系廃棄物他リサイクル施設見学会コース】
	18:00-20:00 意見交換会(研修センター5階大会議室)													
	9:00-10:30 災害廃棄物研究部会	9:00-10:30 バイオマス系廃棄物研究部会	9:00-10:30 埋立処理処分研究部会	9:00-10:30 物質フロー研究部会	9:30-12:15 全国環境研協議会研究発表会・廃棄物試験検査法研究部会									
10:45-12:15 リサイクルシステム・技術研究部会	10:45-12:15 ごみ文化・歴史研究部会	10:45-12:15 廃棄物計画部会						12:00 展示終了	18:00 展示終了	18:00 展示終了				

一般公開・無料
研究部会

The 34th Annual Conference of Japan Society of Material Cycles and Waste Management – Time table (JST)

Venue	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	Poster venue #1,2,3	Sponsor exhibition	Citizen exhibition	Environ. study facility exhibition	Disassembly workshop	Reception desk	Excursion tour							
Room	Room 321	Room 322	Room 331	Room 332	Room 1041	Room 1042	Room 1043	2F,3F,4F of 3rd Bldg.	2F of 3rd Bldg.	1F of 3rd Bldg.	1F of 3rd Bldg.	1005A (5F of 10th Bldg.)	1F of 3rd Bldg.	(3 courses)							
D a y 1	9:30-10:45 A3: Public awareness/ Environmental education	9:30-10:45 D2: Pyrolysis/ Gasification/ Melting	9:30-10:45 B5: LCA/ Low- carbon society (1)	9:30-10:45 F1: Analysis/ Estimation of harmful substances	9:30-10:45 C4: C&D waste/ Other inorganic waste	9:30-10:45 C7: Composting/ Processing to feed	9:30-10:45 E1: Management/ Monitoring of landfill site	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	8:45 Open	(3 courses)							
	11:00-12:00 A4: Food loss and waste	11:00-12:15 D3: Pyrolysis/ Gasification/ Carbonization	11:00-12:15 B6: LCA/ Low- carbon society (2)	11:00-12:15 F2: Behavior/ Treatment of harmful substances (1)	11:00-12:00 C5: Automobile/ Battery/ Heavy electrics	11:00-12:15 C8: Conversion to biogas and fuel	11:00-12:00 E2: Early stabilization of landfill site														
	(Lunch)																				
	13:30-15:00 A5: Industrial waste	13:30-15:00 D1: Incineration	13:30-15:00 B1: Waste management and planning (1)	13:30-15:00 F3: Behavior/ Treatment of harmful substances (2)	13:30-15:00 Citizen Forum	13:30-15:00 C9: Methane fermentation (1)	13:00-15:00 International Symposium														
	15:15-16:30 C13: Recovery of valuables	15:15-16:45 D4: Gas treatment and monitoring	15:15-16:45 B2: Waste management and planning (2)	15:15-16:45 C1: Packaging/ Plastics (1)	15:15-16:45 Environmental Study Forum	15:15-16:30 C10: Methane fermentation (2)															
								17:00-18:15 Poster session 1													
D a y 2	9:00-10:30 A1: Waste reduction/ Property analysis	9:00-10:30 D5: Power generation/ Heat utilization	9:00-10:15 B3: Disaster waste management	9:00-10:30 C2: Packaging/ Plastics (2)	9:00-10:30 C6: WEEEs	9:00-10:15 C11: Sludge/ Other organic waste	9:00-10:30 E3: Leachate/ Landfill gas	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	8:30 Open	(3 courses)							
	10:45-12:15 A2: Waste reduction/ Material flow analysis	10:45-12:15 D6: Cinder and fly ash	10:45-11:45 B4: Culture/ History of waste	10:45-12:00 C3: Packaging/ Plastics (3)	10:45-12:15 Industrial Waste Group Meeting	10:45-12:00 C12: Food waste/ Garbage	10:45-12:15 E4: Elution of harmful substances/ Soil pollution														
	(Lunch)		12:15-13:30 Young Researchers Group Meeting	(Lunch)																	
															13:30-14:45 Poster session 2						
															15:00-17:15 Special program (OIT Hall)						
								18:00-20:00 Social Meeting (Conference Room on 5F of Kenshu-Center)													
D a y 3	9:00-10:30 Disaster Waste Group Meeting	9:00-10:30 Biomass Waste Group Meeting	9:00-10:30 Landfill Group Meeting	9:00-10:30 Material Flow Group Meeting	9:30-12:15 Conference of Institutes for Environmental Studies / Test Method Group Meeting			Exhibit ends at 12:00	Exhibit ends at 18:00	Exhibit ends at 18:00	Exhibit ends at 18:00	8:30 Open	2 courses in the morning and 1 course in the afternoon								
	10:45-12:15 Recycling System/ Technology Group Meeting	10:45-12:15 Culture/ History Group Meeting	10:45-12:15 Waste Planning Group Meeting																		

Open to the public (free)

Group meetings

第 34 回研究発表会実行委員会 名簿

役 職	氏 名 (敬称略)	所 属
実行委員長	渡辺 信久	大阪工業大学
副実行委員長	水谷 聡	大阪公立大学
幹事長	日下部 武敏	大阪工業大学
実行委員	浅利 美鈴	京都大学
	石村 雄一	近畿大学
	植内 努	大阪広域環境施設組合
	上原 伸基	川崎重工業株式会社
	大久保 綱輝	大阪湾広域臨海環境整備センター
	大下 和徹	京都大学
	奥田 哲士	龍谷大学
	梶原 大伸	神戸市環境局
	釜田 陽介	株式会社クボタ
	木川 修二	元日立造船株式会社
	桐山 哲也	ダイネン株式会社
	古崎 康哲	大阪工業大学
	佐伯 亜由美	株式会社東和テクノロジー
	酒井 護	大阪市立環境科学研究センター
	惣田 訓	立命館大学
	高浪 龍平	大阪産業大学
	武山 彰宏	株式会社ブランテック
	谷口 暢子	川崎重工業株式会社
	徳本 勇人	大阪公立大学
	中川 真樹	JFE エンジニアリング株式会社
	長澤 松太郎	株式会社環境総合リサーチ
	橋本 征二	立命館大学
	花木 陽人	株式会社鴻池組
	花嶋 温子	大阪産業大学
	早川 健一	神戸環境クリエート株式会社
	日置 和昭	大阪工業大学
	平井 康宏	京都大学
	福里 豊	株式会社タクマ
	藤原 大	株式会社神鋼環境ソリューション
	古林 通孝	日立造船株式会社
	本多 俊一	国際連合環境計画
	松田 裕雄	株式会社南海興業
	松田 由美	株式会社タクマ
	三浦 貴弘	京都市環境政策局
	三島 巖	株式会社東和テクノロジー
	南口 正	堺市環境局
	蓑田 哲生	エックス都市研究所
	山川 肇	京都府立大学
	山末 英嗣	立命館大学
	山田 眞	大栄環境株式会社
	吉川 克彦	株式会社エックス都市研究所
顧 問	金子 泰純	元和歌山大学
顧 問	貫上 佳則	大阪公立大学
学術研究委員(年会担当)	崎田 省吾	広島工業大学
学術研究委員(年会担当)	布浦 鉄兵	東京大学
	三村 正文	廃棄物資源循環学会事務局長